喬紅花

五月號

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

番紅花五月號

目次

中性論（カアペンター）……青山菊榮譯……（一）
若葉に渡る風（小說）……田村とし子……（三）
なげき（小說）……尾竹ふくみ……（二九）
苦勞（小說）……小林哥津……（四〇）
鳥のなげき（詩）……伊達虫子……（五五）
ダンシングに就いて……原信子……（五八）
お芳（小說）……神近市……（六七）
海外通信……O・P・Q……（九六）
斷章（詩）……八木さは……（九九）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Cの競爭者……………………………………尾竹一枝……（一〇三）
晩の祭物と無智な契約（感想）………………尾竹一枝……（一四三）
米國歌劇界……………………………………マリー……（一五一）
海外消息………………………………………リツスラー……（一五三）
編輯室にて……………………………………同人……（一五五）

挿繪

アドルフヒー、アツピアス氏の意匠になれる**ワグナー**の**パルシフアル**の背景
I　聖なる森（第一幕第一場）……………………………………（一）
II　**クリンゲル**の呪はれし城塞（第二幕第一場）……………（二九）
III　花野の牧場（第三幕第一場）………………………………（五九）
ルドウイグ、シーバルト氏の意匠になれる**ワグナー**の**パルシフアル**の背景
IV　聖なる森と池（第一幕第一場）……………………………（八九）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

V 荒　　野（第二幕第三場）……（一一九）

表　　紙　人魚のよろこびと花をまつ蒲英の葉……富　本　憲　吉

扉　　繪　歌ひかつ昇りゆく雲雀と咲かぬタンポポ……同

裏　　繪　女　の　顔……同

R. Wagner's "Parzefal"

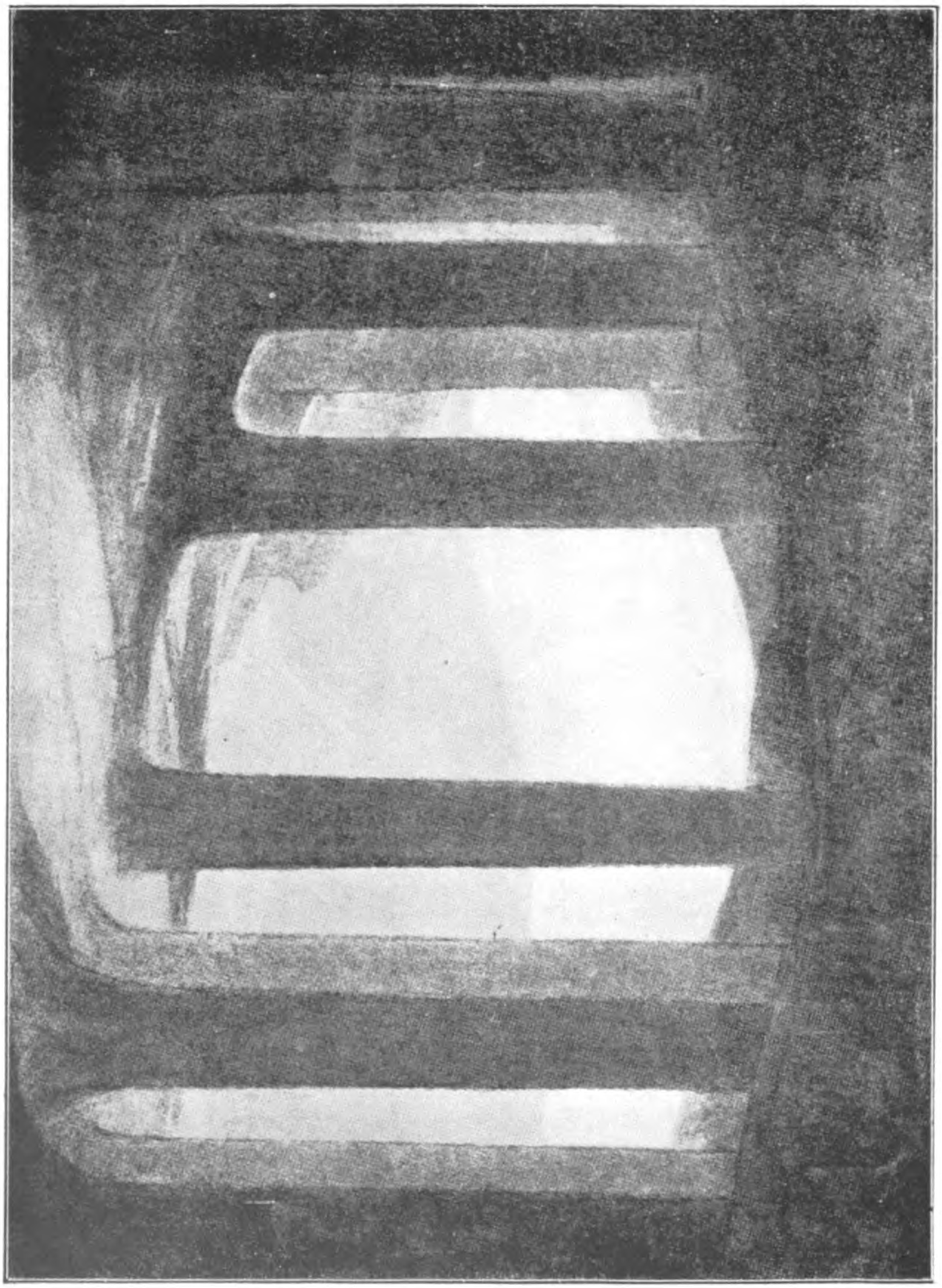
(The German Stage.)

Act I., Scene I.—Secred Forest.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

中性論

（エドワード・カアペンター）

青山菊榮譯

目次

一　緒　言
二　中　性（The Intermediate Sex）
三　同性の愛
四　愛情の敎育
五　社會に於ける中性者の地位

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一　緒　言

本書に於て論ずるのは重大にして且緊急な問題である。現代を以て特に中性的又は混合的性格の男女の著るしく增加した時代とするにせよ、又は偶然特異の注意を彼等に拂ふ時代に過ぎぬとするにせよ、何れにしても此問題が顯著なる事實であつて、各方面から吾人に肉迫して來て居る事は爭ふ事が出來ない。兎に角、兩性の中間の位置を占める人の夥多と、彼等が一般社會の重要な分子である事、且彼等自身の爲めにも社會の爲めにも解決を要する問題を必然的に提供し體現してゐるものである事は既に認められた。其結果此問題に關する文書は既に浩瀚なものとなつて居て――特に大陸に於ては――科學的著作、醫學的論說、文學的論文、小說、歷史小說、詩歌等を網羅するに至つた。而して目下は此の問題に關する多少の智識と明確な理解とが或種の人々、例へば醫師、教師、父母、長官、司法官等にとつて緊要のものである事は一般の認むる所となつた。

性に關する心質にさま〴〵の差異段階のあることは――即ち人の心理作用は外面の肉體的性と明白に一致すると許りも限らず、純粹の男性女性の中間には幾多の過渡のタイプのあることはこの問題を考へた者には自明の理である。また如何に善良なる目的もこの事實を無視しては――萬一無視し得るとしても――到底何の役にも立たないのである。無論かういふ混合的又は中性的人物を一概

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に惡いものとしてしまふのは(或人々の様に)容易である。亦これを單に相反する性質を結合してゐるが故に善良であるときめるのも(或人々の様に)譯は無い。しかし自然の微妙と複雑とは斯う手早く分類される事を許さぬ。つまり人類の他の種類同様、このうちにも亦善惡高下大小があつて――其の二重の資質故に人類の稀有な美しい花を見せるのも、亦邪惡な混沌たる廢趾を示すのもあるといふのが先づ當つて居やう。

自然の事實の前には吾人は謙遜と敬虔とを保たねばならぬ、又は前以てきめておいた執拗な臆説を振りかざして突進すべきではない。かうした人間のタイプは今迄に多少知られもし認められもしてゐたが、特に現代に於ける其の數の夥多さ、此點への注意の集注とは現に進行中の或重大な變化の徴候であるとも云はれやう。實際吾人は現に如何なる進化が來りつゝあるのか、又は如何なる新形態――永久的な位置及價値を備へた――が既に周圍の大衆と徐々に別かれ始めたかを知らない。或は進化上の過去の或時期に於て職蜂が普通の雌雄の蜂と區別されてゐた様に、現代には或新しい人間の種類が現出して――今は紛議と誤解を招くにしても――將來の社會に重要な役を務めるのでもあらうか。さうかもしれない、亦さうで無いかも知れぬ。吾人は知らない。而して吾人の採り得る最良の態度はたゞ眞面目な冷靜な事實の觀察の外無いのである。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

無論此問題が一旦戀愛關係と相觸れると、こゝに難問の續出するは當然である、然も中性者の最大の罪過と共に最高の偉業が成されるのも恐らく其の愛情關係に於てゞあらう。嶄新にして重要な運動が誤解と非議とを招くのは——假令後には廣く是認され崇敬されるまでも——殆ど自然律の觀がある。如何なる形を倶へてゐるにしろ、さういふ運動は一息(いき)に滑稽なもの又は擯斥すべきものと極められてしまふ。初期の基督敎徒は羅馬人には單に塋窟の暗黑裡でえたいの知れぬ宗旨を奉じ且罪惡を醞釀する兇行者としてのみ知られてゐた。近代の社會主義は久しく匕首と爆裂彈の事件として想像されてゐた、而して今なほ之は單に「全般の分配と各人が三ペニーの食糧を獲得」する、といふに過ぎぬ事すら信じ得ぬ程無智な善人がいくらもある。菜食論者とは意氣地のない頭の空虛な菜葉許り食べてゐる連中と想はれてゐた。其の範圍に於て、其の重要さに於て實に大問題たる婦人運動は婦人に「男子の猿眞似」をさせる埒もない計畫に過ぎないとされてゐた。數へ立てれば切りが無い。かうした運動に對する咎め立ては凡て事實の末の末か、ほんの片端を無智で捉へて偏見で彩つたものに過ぎないのである。誤解は斯うまで有りふれて居り、讒誣はかうも容易なのである。

中性的氣質が（特にその感情的方面に於て）決して完全無缺のものでないのは當然認めなければならぬ、がそれにしても猶この氣質が實に亂暴に無茶に曲解されてゐた事は確である。この問題に就

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

て多大の經驗を有してゐる私は中性者の缺陷は其の肉慾的なるに非ずして感傷的（センチメンタル）なるに在ると云つて好いと思ふ。低級な平凡な中性者は恐ろしく感傷的な事が多く、優良なのは不思議なほど、殆ど信じ難い程情緒的である。しかし何れにしても全體としては（無論例外はあるが）一般普通人ほど肉慾的ではない。

この無量の情緒的愛執の能力は勿論强大な發動力を代表してゐる。愛は個人の場合でも社會に於てもすぐれて創造的なものである。最善の中性者に透徹的な感化力と活動力とを與へ、且至る所其の内心に就て何等關知せぬ人々の愛と好感をすら招かせるのはその偉大な愛執の天才其物である。所謂最良の慈善家のいかに多くが（名を擧げるには及ばぬ）中性的氣質に鼓舞されたか、世界は到底知る事が出來まい。而して人生の各方面に亘る中性者の漠大な數と勢力と、その既に占めてゐる優越な地位とは、裏面に潜む同質の人々の作り出した結果に過ぎないのである。亦中性者に顯著な若々しさを與へるのもこの情緒的愛執の天才であるといふ事が出來やう。

とにかく、愛戀に關する彼等の特殊な禀賦——男性女性の二重の見地から見て——に徴してこれらの人々は兩性相互間の調和者として亦通譯として特殊の使命を帶びてゐる事は睹るに難くない。猶この點については後章に述べる事にした。優秀なる中性者の大部分は愛情の方面に於ては將來の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

社會の師となる事であらう、もしさうなれば彼等はその力を今日の平均程度よりも遙に非肉慾的な愛情の實現と表出とに注ぎ、且各方面にそれを普及させる事に盡すであらう。
かう云ふ難問に關して敢て權威を以て語る譯にはゆかないが、とにかく私は忍耐强くこれを思考する事の必要と、此の種のタイプを認容し、これに適處を與へ且一般社會に貢献し得る地位を與ふべき試みの肝要な事を說くのである。
序にもう一言云つておく。戀愛なる言葉は或は專ら肉體的本能及行爲を指すものとされ、或は濃密な深奥な感情を云ふものとされるのが普通の曖昧な習はしである。非常な誤解はこゝに起る。この書に於ては(特に斷つてない限り)戀愛なる言葉は、或人の他の人に對する心的熱愛を云つてあるので、それ以外の事を云ふ場合は——例へば性慾關係及行爲の如き——特に明言する事とした。

二　中　性

近來(而して新しき婦人が吾人の間に來つて以來)男女相互間の關係には幾多の變化が起つた、又は兎も角も明白になつて來た。大學に於ける研學、美術、音樂、自轉車等——風俗習慣上の同等の觀念は兩性の「歩み寄り」を招致した。近代の婦人が其の先人達よりも多少男性的だとすれば、近代の男子

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は柔弱ではない(予は然か望む)がもとのジョンブルよりも氣質は敏感に、感情は藝術的となつた。男女は其の習慣及感情上絶對に隔絶した二個の團體を形成してゐるものでもなく、亦すべきものでもないので、寧ろ人類なる一團體の兩極を表示してゐるものである。であるから兩者の極端な例と例との間には非常な相異があるが、其の中間の地域には情緒及氣質に於て極めて近似してゐる(肉體的に男女の別はあつても)人が多勢在るのである。予等は男性的氣質を強く帶びた婦人をも知つてゐれば、亦殆ど女性に等しい敏感と直覺とが其體軀にふさはぬ様にさへ思はれる男子をも知つてゐる。自然は必ずしも二個の成分——男女——を別々に區分してはおかずに、個人を形成する兩要素を混和して屢々多少無頓着に彼此交合せしむるものである、然もこれは決して無意義ではない——如何となればもしこの二要素が嚴密に區分されてゐたならば、兩性は遙かに相隔絶してしまつて互に理解を失ふにきまつてゐる。ところが實際は男女兩性の資性を兼備する、又は均等に有つ顯著な且必要な人々があつて、その大部分が男女相互間の通譯者となつてゐるのである。

中性的男子はその愛の力を通じて愛人の爲めに至大の犧牲を拂ふ事が出來る、これ故にその愛は屢々婦人の愛と比較された。婦人の愛の方が常態(ノーマル)の男子の愛よりも強烈で献身的であるが如く、將また内的な點に於て優つて居るが如く、この點に於いて中性者の愛は女性を愛する男子のそれより高尚なものであるとカルリヒスは主張してゐる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女性的男子は男性的男子よりも婦人の取扱ひ方をよく知つてゐる。男性的男子はごく稀な場合の外、長い經驗を經て後やつと婦人の扱ひ方を知る。それとてもなほ極めて不完全たるを免れぬ。（オツトーワイニンゲル著「性と性格より」）

凡て男と女とは似ても似つかぬ程かけはなれてゐて、女は女であらゆる點が一致して居り、男は男で皆同一なものであらうか。……金屬と非金屬と、化學的化合と單なる混合と、動物と植物と、顯花植物と隱花植物と、哺乳動物と鳥類と、凡て如上兩者の中間には過渡的形體が在るのである。……故に自然界に於ては雌雄の特徴が互に偏集對立してゐるものでもなく、兩者の間に明確な分界線のあるものでもない、又如何なる生物も全然一方にのみ偏すると斷じ得る程この點に於ては單純なもので無いと云つて好からう。（オツトーワイニンゲル）

あらゆる人間は男女の兩要素を有つてゐる。たゞ常態（ノーマル）の人の場合には各自の性に從つて一方の要素が他の要素よりも大なる發達を遂げてゐるのである。中性者の他と異なる主な點は彼等に於ては此要素が相平均してゐるのである。故にこの人にして然かも全體の發達が高度に達して居るならば、玆に最完全な人間のタイプが見出される譯である。（アルドイン博士）

もう一つ近來明白になつた點がある。即ち兩性は或意味に於て相連關せる一群を成してゐるといふ事が近來認められて來た、爲めに男女共に在來全然別個のものとし勝ちであつた戀愛と友誼とを事實上密接な殆ど辨別し難いものであると認めるに至つたのである、婦人達は結婚は愛慾と等しく友誼をも意味すべきであり、戀愛なる言葉は僚友間に於けるが如き同等の觀念をも含有すべきであると要望するに至つた。而してプラトニックな友情（通常同性間）の極致と熱烈な戀愛（通常異性間）

の極致との間には到底明白な分界線を引き難いのである。事實吾人は戀愛と境を接する程ロマンティックな情操に富む友誼をも知つてゐれば殆ど情慾の域を脱する程、知的な靈的な戀愛をも知つてゐるのである。

些か思慮を廻らせば上述の概觀に依て――之を多少なりとも眞理だとする以上――性及戀愛に關する人間の氣質及性格には樣々の種類が在るものだといふ事が分からう、かういふ差異は今迄も在つたのであるが研究の主題となつたのはつい近年の事である。

しかし三十餘年前、カール・ハインリッヒ・ウルリッヒスといふ墺太利の著作家は小冊の叢書で如上の論を明白に證明し、且特に本書の論じてゐる人間のタイプの存在を世に紹介した。同氏はいはゞ男女の分岐點に生れて肉體は明白に一方の性に屬しながら、心理的及情緒的には他の性に屬してゐる人のある事を指摘した。例へば男子でありながら女子の心靈を備へて居り、亦女子でありながら男子の心を體してゐる人があるといふのである。而して同氏はこの二重の資質は其の戀愛情操が特異な方向に向ふのに依て以て大抵知る事が出來ると云つて居る。即ち表面的男性は女性と戀愛結合をする代りに同性とロマンティックな友誼を結び、外面的女性は普通の結婚をする代りに同性の一人に愛を傾注するのである。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

かういふ種類の（即ち特異の戀愛情操をもつ人）を彼は中性者と稱してゐる、吾人は必ずしも「心靈」と「肉體」との轉換的關係に就ての彼の說をそのまゝ受け入れる必要は無い、何を云つてもどこか漠然とした論であるから。しかしなほ彼の著作は中性とも稱すべき人々の存在を認容し、且之に說明を下さんとした近代の最初の試みの一であるから重視せざるを得ないのである。

それ以來此問題は特に大陸に於て廣く研究され、科學者其他の人々に多く論ぜられた（尤も英國では猶比較的知られずに居るが）、而して歷史及過去の文學の間接の例證と共に現在の事實の廣汎な觀察の結果、こゝに許多の一般的結論を得るに至つた――それをこれから少し記して見やう。

普通の印象に反して、中性は決して珍らしいものでは無く、社會には此種の人が非常に多く伏在してゐるといふ事をこの研究は第一に證明してゐる。しかし其數を的確に擧げる事は困難である、其理由はいくつもある、一は一般にかういふ場合に對する理解の乏しいために、彼等は同種の人以外の者に眞情を披瀝せぬのみならず、ことさらに人目を眩ます樣な態度をとるのと――（爲めに或社會に棲む一人の常規（ノーマル）の人は其の知己の範圍內に一人の中性もゐないと斷言する、然るに一人の中性者又はそれを理解し得る人は同一社會內で何十人と算へる事があつたりする）――もう一つの理由は國に依り、又一國內でも階級に依り、其數に非常な差異があるといふ點である。つまり各人の評價

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の標準の甚大な相異のために生ずる結果である。有名な獨逸の著者グラボウスキー博士は二十二人に就て一人づゝゐるといふ統計を發表してゐる（これは餘り大げさな樣だ）所がモール博士は五十人に一人の割合から、五百人に一人の割合に至るまで幾多の統計を擧げてゐる。かういふ數字は前述の性質即ち戀愛及友誼に關する最深の感情が專ら同性にのみ注がれる人々に關してゐるのである。もし多少同性戀愛の傾向の方が勝つてゐながら異性をも愛する樣な二重の性質の人々をも包含するとしたら、此概算が遙かに高くなるのは當然である。

第二に（同じく普通の印象に反して）中性的男女は、其の特異な氣質其物を病的と稱せぬ限り、決して如何なる方面に於ても病的ではないのである。以前はこの型質は單に疾病及墮落の結果であると一概にきめられてゐた、しかし事實の研究を經た今日は其反對に、彼等の多數は身體は强壯によく發達して居り、頭腦はしつかりしてゐ、行爲の標準は高く、肉體の構造又は體質には何等變態的或は病的な點の見えぬ立派な健全な其性の代表者であるといふ事が分かつた。勿論これは凡ての場合に通ずる譯ではなく、一方かの神經的な說に材料を供する樣な薄弱な型も無いでは無い。けれどもさういふ說が以前ほど當今の人に主張されないのは著しい事實である。亦最も健全な中性のタイプにしてもなほその特異な愛着の（即同性戀愛）傾向の到底改め難い事まで今日は認められて來たのも注目す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

べき點である。從つてさういふ男女が社會的又は他の事情に依て、强いて結婚して子供まで設けた場合でさへ猶生來の傾向、即ち同性の或友人に對する恒久な愛着を斷ち得ぬ事もまゝ在るのである。

この問題は確に極めて興味の深い且重要な問題であるにも拘はらず、從來は上述の如く此國(英國)に於ては餘り論ぜられなかつた、これは多少この問題を包圍してゐる(或は自然な)幾多の疑義にも依ることであらう。もしかうした傾向を持つて生れた男女が極めて稀だとすれば、(少數なるが故にこれを無視するのは不當であるが)、猶特に注意を拂ふ必要はあるまい。しかしどう算へてもこの種の人が事實中々多いからには、自ら彼等を理解するのみならず進んで彼等に彼等自身を了解させるのは社會の義務である。

如何となれば、多くの場合かういふ種類の人は種族の進化に重大な貢献を爲し得るに拘はらず、自己の氣質の爲めに甚深の苦患を蒙るのである。戀愛の何たるかを知り、且戀愛とは然く深奧な、然く沒入的な、然く神秘な、然く嚴烈な、且天質の高尙に隨つて熱度を加ふる眞情の貢獻である事を認める者は、幼時から其の至深の感情が自己には解き難く他人には默殺される謎たり障碍物たるに過ぎない人々の運命の悲苦困難を思ひ遣る事が出來やう。かう云ふ人々を「病的」なぞと呼ぶのは無用である。さういふ言葉は最も活動的な、最も愉快な、最も好感を以て迎へられる社會の多くの成員に到底あて

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

はまるもので無い。のみならず、これは何等問題の解決に資する事なく徒に既に幾多の困難に遭遇してゐる同胞に非難を加へるにすぎないのである。「中性者を多く見た者は凡て彼等は決して病弱な一團の人間ではなくて、却て强健な丈夫さうな人達である事を認める」とモール博士は云つてゐる。然もすぐ其次に同博士は彼等は其の受ける待遇のために「嚴しく苦しむ」と云つてゐる。而して獨逸に於けるさういふ人々の重要な團體の檄文の中には、「我等が生の夜には日の光射し入ることかくも稀なり、されば我等は人生の法庭に於て我等がために氣を吐く最小の運動、又は單なる一聲に對しても共に責めを頒ち、且深く感謝せんとするものなり」といふ言葉が出てゐる。

　さてこの種の人々を論ずるに當つて、私はその提供してゐる問題の困難な事を認めると共に、それ故にこそ論議の必要が在ると考へるのである。彼等の愛は必ず性慾的であるかの如くに、又は性慾的行爲と關聯して居るかの如くに考へるのは大なる誤謬である。其の反對に(多くの證據が示す通り)彼等の性格は純粋に情緒的な事が尠くない。而して彼等を放恣な行爲に對する好奇心の外、何等の規律も無いかの奔放者流と混同するのは非常な間違である。しかし彼等の特異な氣質が其の性慾關係に困難を來すのは明白な事實である。今は此點は措くとする。がそれにしてもこの問題に關しては絶對の沈默を强ゐられ、爲めに至苦至難の誤解と心の惑亂敗壞を招くが上に、指導者の絶無及び其の遭

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遇する孤獨な嚴肅な內的鬪爭の全然認められぬ事等は彼等にとつて——殊に年少なる人々にとつて——如何許り苦しいものであるか、こゝに一寸述べて見やう。此問題が困難だとすれば——無論さうであるが——社會があらゆる補助を拒んで其の苦痛を增大せぬまでも、身自ら斯かる問題に當る者の運命は既に苦しいのである。かるが故に、且は又求むる者に一導の光明を注がんが爲めに、此處に私は中性者の一般的特質を列擧するのも無駄では無からうかと思ふ。

上述の如くこの人々と通常の男女とは肉體の構造上何等の差異も無い。しかし全般の心理的特徵から云ふと、この種の男性は優雅な情緒的素質を備へて居り、時には細密臆病不得要領虛榮等の弱點をもつ事もある、又中性的女性は其反對で激烈にして活動的、放膽にして實直、時として粗暴無骨に奔るの缺點をもつ。のみならず前者の心は通例直覺的本能的に知覺が働き、多少の藝術的感情を伴ふ。然るに後者の心は常規(ノーマル)の婦人より論理的科學的且的確である。かう云ふ一般的特徵は極めて顯著なので、時にはこれに依て(絕對に過またぬとは云ひ難いが)まだ十分に發達し切らぬうちに少年少女の性質を判定する事が出來る、又さう出來るのが甚だ肝要であるのは予が言を俟つ迄もあるまい。

斯かる徵候を觀察した結果ケー・エッチ・ウルリッヒスがその學說を唱導したのは當然な事である。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

前述の通り其の學說は必ずしも百般の場合に適應せぬまでもなほ傾聽の價値は有るのである。

例へば斯かる氣質の婦人、即ち女體男魂ともいふべき人が他の婦人に溺愛し得る心理狀態を了解するには此の說が有力な資料となる。クラフトエビングは廿八歲の婦人Aが他の年少の婦人Bと深く相愛した例を擧げてゐる。其婦人は「我は彼女に此世ならぬ愛を注ぎぬ」と云つてゐる。二人は共棲した、その仲は四年間續いたがBの結婚に依て破壞された、其の結果Aは恐ろしい失望に沈んだが終に——眞の愛は感せぬ乍ら——自分も結婚するに至つた。併し其の鬱憂は益々募るのみで惹て病をさへ得る程になつた。醫者は何れも子供さへ出來れば快癒する違ひ無いと云つた。眞に其婦人を愛してゐた夫は妻の謎の樣な態度を理解する事が出來なかつた。Aは夫に親しんで、甘んじて其の撫愛にも從つたが、其後數日は「鬱いで疲れ果てゝ脊髓及神經の刺痛に惱んだ」のであつた。程なくこの夫婦の旅行は三年の結婚生活（然も不幸な）を經た相手の女友と再會の機を作つた。『二人の婦人は歡喜と昂奮に戰へながらさびついて其後又相離るゝを得ざるに至つた、夫なる男子はこの友誼の尋常でないのを見出して訣別を急いだ。やがて彼は其の妻と「友人」との取り交したる手紙に依り兩者の關係は全く戀人同士のそれと同じであるのを知つた。』

中性的婦人の愛は（男子の場合も亦然り）極めて强烈なものであつて生涯續く事が多い。中性的男

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女は圓滿な愛を得る時には自ら至幸なものと感ずる。がしかし其の特異な氣質の結果、子供好きでありながら家庭を作り得ぬ位置にあるのは痛ましい事實である。

以上は中性的種族の極めて一般的な特徴を擧げたに過ぎぬ。第一に彼等のうちで極端な常規を逸したタイプとはどんなものであるか、次に穩當な完全なタイプとは如何なるものであるかといふ事を一層細說したならば吾人の觀念が更に明確となるであらう。さうすれば此問題に對する一層明確な具體的な見解も得られやう。

そこで第一に極端な例は――多くの極端なもの丶如く――餘り好もしいものではない。それが男子だと際立つて柔弱な感傷的な饒舌なタイプで針仕事や女の仕事が巧者で時には好んで女裝したりする、其の外貌も屢々女性に近似して居り、臀部は大に、筋肉はしなやかに逞ましからず、顏に毛少なく、音聲は高い。其の居間は極めて整頓して小ざつぱりして居り、裝飾品や香料などまで使ふ。其の愛情も女性的で愛するより愛される事を喜ぶ者の如く綣着的賴他的で且嫉妬深い。

（この說明は歷史に通ずる人に佛國のヘンリー三世の性格及習慣を想到させるであらう）。

他方同性を愛する女性の極端な例としては甚しく攻勢的積極的な婦人を擧げる事ができる。即ち感情の激烈な、態度動作の男性的な、事に處するには實際的、愛に於ては感傷的より寧ろ感覺的、外見

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はむさくろしく、裝ひは野暮で體軀は逞ましく聲は低い、其の居間は獵の繪やピストルなどで飾られて、香ぐはしい水草の香さへあたりに漂つてゐる樣な心持さへする。その愛（通常同性中の温和な女らしい者に注がれる）は普通の男子の愛と同じ樣に狂熱的で殆ど制遏し難い事さへある。

（瑞典のクリスチナ女王の如きは好例である。女王は伊太利行幸の際、大長靴を穿ち馬に跨つて欧羅巴を横斷した。而して法皇は女王と會見の節力任せに手を握られたので終に國手を煩はすに至つたといふ）

かういふタイプはその顯著なるが爲めに多少誰にも認められる。從つて彼等は非常な注意を喚起する。而して同性偏愛的性質の人の多くは上の二者の何れにか屬するといふ事はごく通常な印象である。けれども實際に於ては勿論かういふ極端な發達は尠いので、大抵の場合さうした氣質は常規の、何等人目を惹かぬ男女の中に倶有されてゐるのである。モール博士は此問題及中性的男子のめゝしさと同性偏愛の傾向との關係についてかう述べてゐる。「めゝしいといふ事が必ずしも凡ての中性者に伴ふもので無い事は豫め斷つておきたい。多勢の中にはさういふ點のあるのもあらうが猶多くの割合——寧ろ大多數は明白にめゝしさを示しては居らぬ。」この論はそのまゝ婦人にも適應する事が出來る、即ち其等の婦人の大多數は顯然と男らしさを示して居らぬと云はれやう。事實さういふ極

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

端な例は或方面への傾向及發達の限度を示す點に於て科學的見地からは有益なものであるが、同時にそれがかうした人類進化の全相を代表するものと考へるのは非常な誤である。

中性的男子の常規的（ノーマル）な例としては心身共に全然男性的な力を俱へながら同時に婦人の優雅な情緒的な心質をも——時には顯著な程に——兼有してゐる人を擧げる事が出來る。斯かる男子は筋骨逞ましく體格も秀で、其の外貌及動作は同性の何人とも異らぬ。けれども情的方面に於ては彼等は極めて複雜で敏感で柔さしく憐み深く人を愛し、心は「嵐に苦惱に熱情に動搖に」滿ちてゐる。其の論理的能力はよく發達してゐる事もあればゐない事もある。が直感は常に強い。婦人の如く彼等は一瞥直ちに他の性格を讀む。且どうしてだか自ら知らずに、他人の心に宿る思ひを知つてしまふ。看護及他人の要求に待應する事には特異の才をもつてゐる。根底には藝術家の敏感及知覺と共に藝術家的性質が潛在してゐるのである。さういふ人は多く沈思的な寡言な夢想家であり、又多く音樂家或は學藝上の人であつて社會でもてはやされる事も珍らしくない（尤もその社會は其人を理解してはゐないが）時としては平民の子で何等の敎養も無いに拘はらず特異の天賦的敎養を俱へてゐる。ド・ジユーは全體として中性的男女の味方をしてゐるがその男子についてかう云つてゐる、「彼等は詩及音樂の熱愛家にして美術に秀づること多し、又極めて些小の愁事に對しても強き情緒と同情とを感ず。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

その敏感、其の小兒に注ぐ無限の愛、其の花の嗜好、其の乞食及不具者に對する大いなる憐愍は眞に婦人的なり」。又外の處で彼は藝術家の性質をかう云つてゐる、『多くの中性者の神經組織は個性の內部に働く實に複雜精妙を極めたる樂器なり。』斯ういふ人々の戀愛が柔らかな深奧なものであるのは當然である。のみならずかゝる人の場合には愛情は其の最も完全な形――感覺的要素は在るには在りながら境遇に迫られて全く靈的要素に隷從する――に達し得るのである。此問題に關して瑞典の某著者はかう云つてゐる、『眞の中性者を友に得たる者は實にも幸なる哉――彼は荊棘を踏むの恐れ無くして薔薇の上を步む者なり。』又曰く『世に果して中性に優れる看護者有るべきや?』これは偏した說ではあるが其の中に尊ぶべき眞理を含んでゐると信じてよからう。ド・ジューの引用した句にも同樣の事が出てゐる、而して又同樣の氣持で讀んで宜からう、曰く『吾等は中和なる精神と善良且優雅なる氣風を備ふる特殊の貴族團を成し、多くの男性の社會に於ては高尙なる心理的及藝術的要素の代表者たり。われら夢想家及熱情家は常に利益及物的肉的快樂の獲得に齷齪たるかの社會の純粹の男性的分子に對して絕えず平衡をはかるものなり。』

かゝるタイプの男子は婦人を輕侮するものと一般に信じられてゐるがこれは妥當を得た說では無い。のみならず彼等は自然婦人に「戀着する」ことは無いがその性質上婦人と相近いので、婦人の感

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

情上の要求及びその結果をよく理解し鑑賞する事が出來るらしい、その結果純な併し所謂「プラトニック」な愛の成立する事が多い。常規の男子に求めても得られぬ同情を彼等の中に見出す婦人達が、眞の理由を自覺せずにたゞ本能的に彼等を慕ふのは理の當然である。またド・ジューの言を籍りると、しやう『凡ての中性男子を女嫌ひとするは誤なり。彼は婦人の信義ある友たり、誠實なる同盟者たり、將また最も信頼するに足る擁護者たること稀ならず。』

同性偏愛的婦人のうち、常規（ノーマル）な完全な例を擧げれば、その體軀は全然女性的で優雅であり、容姿は豊圓、動作は敏速且自制的であるが、其内的性質は極めて男性的である。活動的創意的且勇氣に富み果斷にして情に偏せぬ。又戸外生活、遊戯狩獵科學政治事務等を好み組織的手腕に秀で、責任ある地位に置かれる事を悦び、時としては優秀寛量な首領となる。斯かる婦人は其の特異な混合的資質に依て顯著な事業――職業的生活或は敎育家又は一國の主權者たるに適してゐる。其の愛は自分より年少にして女性的な性質の者に注がれる。それは熱烈を極めて殆ど雄偉の域に達し偉業の源泉となる事もある。亦適宜の度を逸せぬ時は女子の敎育薫陶にとつて、又は婦人間の思想若くは行爲の流派の創造に至貴至重の力を成すのである。サンタクラヽ及尼院創立者の多くは恐らくかういふタイプの婦人であつたらう。さうして如何なる時代に在てもかう云ふ婦人は――通常の男子故の羈絆に患はされ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ないので――同性の利益のために、即ち彼等自身の氣質に依て身命を擲たずにはゐられぬ主義の爲めに自由に働く事が出來るのである。

私は極めて簡單に且不完全乍ら「中性」的男女の極端なるタイプと健全なタイプとを紹介した。其例は歷史及文學にも乏しくないが、吾人の四圍の實人生はより確實な滿足な證據を擧げてゐるのである。此問題は不慣れな感じはするにしても近代の思想及科學の當に面すべき問題である。健全な穩當な中性者は過去現在共に多く存在してゐるのである。單にこの點のみから推しても彼等には彼等の使命目的の有る事は全く疑を容れる事が出來ぬ。上にも言つた通り彼等の特異な愛情の性質其物を病的と名付けぬ限り、彼等には何等病的な點は無いのである。今日盛に論難されてゐるかの兩性の疎隔の如きに對しては其の缺陷を補つて餘りあるだけの事を一方で彼等は爲てゐるのである。

强健な理智と肉體とに敏感な靈と曲線的な情緒的氣質とを結合した中性男子の藝術家的な性格と、男性的な獨立心と力とを備へた上に純粹の女性的美容を有つ中性的婦人の率直な自由な性質とは、この兩者を人生の各方面の指導者たらしめ、且一種の男女の秘密の共濟組合たらしむるものだとも云はれやう、然してこれは兩性間の調停者又は通譯たる彼等の職分にも好都合なのである。世

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

界最大の首領及藝術家の或者は全然、又は多少この中性的氣質を倶有してゐた事は顧著な事實である。例へばミケランジエロ、沙翁、マーロウ、歴山大王、ジユリアス、シーザーの如き、又婦人側では瑞典のクリスチナ、詩人サツフオーの如き、皆これである。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

若葉を渡る風

田村俊子

何時の間にかすつかり櫻が散つてしまつて、柔らかい若葉がそよ〳〵と、晩春の風に動いてゐます。丁度、夭死をした美しい姉さんを、弟が後に殘つてそれを悲しみながら弔つてゐるやうな、感傷的な氣分が、あの櫻若葉の間に釀されてゐます。朝の日光晝の日光に刺戟されて、櫻若葉は威勢よく、きら〳〵と輝いてゐますが、夕方になると、櫻若葉は美しい姉の死を思ひ出して、しほ〳〵と愁いてゐます。それが何とも云へず哀れでたまりません。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ようさんは、二階の欄干に立つて、靜に夕風にそよいでゐる庭の櫻若葉を見おろしてゐました。友禪の模樣に見る鶸色のやうに、あざやかな、脆氣な、うつくしい青い色を、いたいけな風情に靡かせてゐる櫻若葉を、ようさんは、ほんとうに奇麗だと思つて眺め盡してゐました。

そうして、斯う云ふ葉の色なぞを美しいと思つて眺めたのは今年が初めてだと思ひました。花を見れば、いつも奇麗な色にその眼をびつくりさせられますが、今日のやうに葉の色に心を惹かれたことは今までに覺えがありませんでした。

遠くの方から樂隊の音が聞こえてきます。それは上野の博覽會場内でやつてゐる奏樂なのです。何かのマーチらしいやうな拍子が微に空氣を搖かして、高くなつたり低くなつたりしてゐます。高くひゞく時に、ようさんの胸にふとある悲しい心持をもたらします。ようさんは、急に哀愁の世界に踏み入つたやうに、耳に聞こえるもの、眼に映るものが、みんなかなしい律を戰はしながら、その心に輕く觸つてゆきました。

空は水色をして晴れてゐました。その空を見てゐると、鳥が何羽も何羽も、東南の方角から現はれて來ては斜に家根の庇を突つ切つて、西の方へ飛んでゆきます。後から來たのに追ひ越されて、よろ〳〵しながら飛んでゆくのや、連れの鳥にはぐれないやうに、しつかりとくつついて飛んでゆくのだ

の——可哀想なのは、暮れ惑つた態を見せながらたつた一羽、森のはづれから出てきて、喘ぎながら飛んでゆくのがあります。ようさんは其れを見ると、一番おくれて、あの鳥は氣が氣ではないに違いないと思つて、ぢつとその飛んで行く姿に、自分が力を付けてやるやうな氣で見てゐると、やがて、その鳥が見えなくなつた頃に、二三羽ぞろ／＼と、又森の方から出て來て、ようさんは安心したりしました。あの鳥より、まだ後れたのがあると思ふと、前の鳥に、それを傳へて心丈夫に思はせてやりたくなつたりしました。薄ら冷めたい風が、ようさんの頰を物思はしそうに吹いてゆきました。

　ようさんには、何が悲しいのか分りませんでした。自分にはなんにも悲しい事も、憂いことも、又苦しい世の中の味も知つてはおりませんでした。だのに、晩春の夕暮れがこれほど思いを鬱陶しくさせるのは何故なのだらうと思ひました。ようさんが倚背て聞いてゐるさま／＼な音樂の、情緒をみなぎらしたある一節や、讀んだものゝ中で感じた哀れな人情の印象などが、しみ／＼とようさんの今の感能の中に響きを打つておりました。ようさんはその響きの感動に心を搖がされながら、たゞ物悲しい思ひのなかに、ひつたりと沈んでゐました。

「何をしておいでゝす。其所で。」

然う云つて傍へ來た人がありました。それはようさんの姉の仲子の婿になつた人でした。姉が結婚

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

してから、まだ三日しきや經ちませんでした。だがようさんは、仲子よりも先きにこの人に馴染んでゐました。仲子は養子を取ることをいやがつて、いよ〳〵話が決まつてからも、哆々を捏ねて泣いてばかりゐました。ようさんはその頃から仲子の機嫌がわるいので、まるで傍へ寄つたこともなくつて過ぎてゐました。式の日にも、仲子が強情を張つて、母親や叔母たちを困らせてゐた事もようさんは知つてゐましたが姉の心をたづねてやらうとも思ひませんでした。それはようさんが口を出せば、仲子は唯神經的にようさんに怒りつけるからでした。姉が何故結婚を嫌つたのか、結婚がいやだつたのか配遇者となる人がいやだつたのか、ようさんはどう〳〵聞く事もできませんでした。だがようさんには、それはそれほどの問題になつて心に殘つてもおりませんでした。結婚をする時は、誰れも女はあゝして悲しんだりそれを厭つたりするものなのだらうと思つてゐました。

　仲子は結婚してからも、この人をいやがつて、まるで同じ時に食事する事すらも避けてゐました。父親なしに育つた我儘な娘の心持を母は、この頃では唯嘆いてばかりゐました。先代からこの家に雇はれてゐる老爺やの定吉は、母の愚痴の聞き相手で、又、仲子をいろ〳〵にうまく機嫌を取ることにつとめたりしてゐましたけれ共、仲子は誰れの云ふ事も聞きませんでした。仲子もようさんも定爺いやには、男乳母のやうに守りをされて育つたのでした。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ようさんは、義兄を見ると、親しさうに笑ひかけて、夕暮れの空を見てゐるうちに悲しくなつた心持などを話しました。ようさんは、斯う云ふ立派な義兄のできた事が嬉しくてたまりませんでした。いゝ男きれなしに育つたようさんは、友達に兄や父親のあるのが羨しくてなりませんでした。一度は義兄に向つて、かうした自分のほんとうの考へを云つて見たいと思つてゐたのでしたけれども、まだそんな事を遠慮なしに云ひ出すやうな機がなかつたのでした。ようさんは然う云ふことを今、きつと云つて見やうと思つて、自身と並んで廊下に立つてゐる兄の姿をしばらく眺めてゐましたが、突然に、

「義兄さん。」

と呼んで見ました。義兄はびつくりしたやうにようさんの方を見返りましたが、懐かしさうな笑ひをその眼に浮べてようさんの顔を見詰めました。ようさんはその笑ひに取り縋るやうな一つ氣な心持で、

「私に義兄さんができて、ほんとに嬉しくつて仕方がないのですけれども――」

と云つて、其の後を途ぎらせました。ようさんは赤くなりました。ようさんはあわてゝ庭の、櫻若葉の上に眼を落しました。脆氣な、果敢なげな青い色は、だん／＼暮れてゆく空の下に、たよ／＼とそよいでゐました。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「ありがたう。」

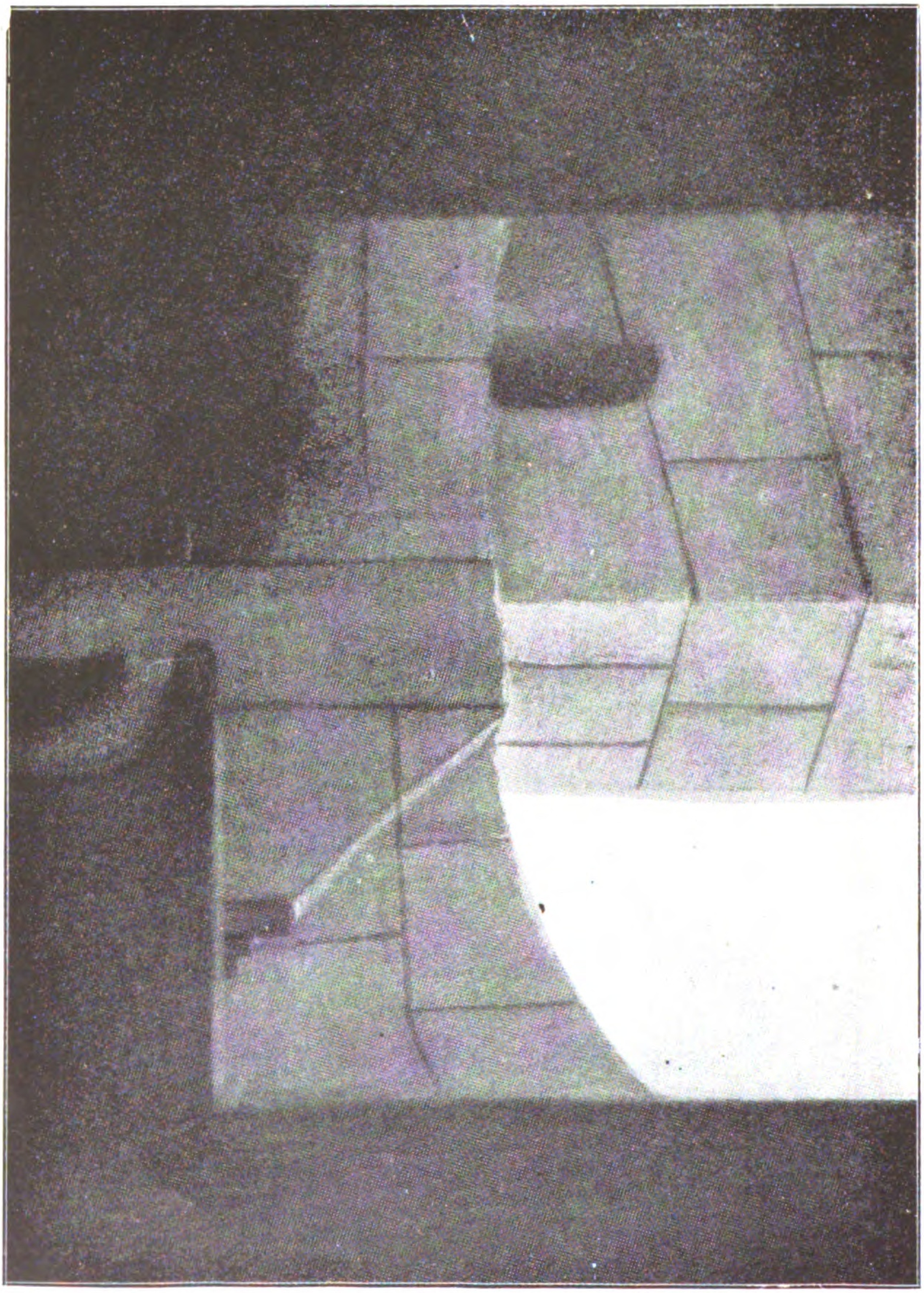
しばらくして、沈んだ義兄の聲がようさんの耳にはいりました。ようさんはこの聲を聞いた瞬間に、何うしたのか、誰ぢいつと悲しみが込み上げてきました。ようさんの櫻若葉を見詰めてゐる眼に涙が浮びました。櫻若葉はようさんの涙に、かよわい生命の色をひそやかに映してふるえました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Act II., Scene I.
Klingsor's Enchanted Castle.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

なげき

尾竹ふくみ

思はぬやうになるといふことは　たゞそうつらい悲しいことで御座います　うき世のことは何ひとつ思ふやうにはなりませぬ。

女はいろ〳〵とちいさい時から人知れぬ氣づかひがありますゆえよその人のそのやうな　なりゆきにも一層こゝろがひかれます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

これはもう世にむなしい人のあはれぶかい物語でございます。その人の名をおふみさんと申しわたしにはたつた一人の仲よしでありましたそれは〳〵仲よくよそ目には姉妹と見へたほどでありました。

おすえさん あんたと こないにしてゐるのがときぐ〳〵不思議やと思ひます 血をわけた兄姉よりもずつとあんたがなつかしい まあどうしたわけやろう

わたしはなあおふみさん だれも知らんけれどあんたとは姉妹でわけがあつて今のやうに別れてゐるのやないかと ふつと思ふて見ることがおます

ほんまになあ もしさうならどないええか知れんのになあ

お文さんは十九わたしは十八丁度一つちがひますゆえお文さんが姉さんでわたしが妹と約束をしてお針へ通ふのも何時もさそひあつて參りました お休みの日にはたいてい私がおふみさんの家へまゐります。お琴をさらへたり摘み細工をこしらへたり日が暮れるまで遊んで家からむかへがきてやつと家へかへります おふみさんが家へ見へることはめつたにありません。おふみさんの家は質屋でございました 佐野屋と云へば堀江では知らぬ人はない程の身代でございます。おふみさんは後妻の子ですゆえ胸をいためることがいろ〳〵とありました。それにお父さんはちいさい時分に亡

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

くなり腹ちがひの兄さんの身代でその人がまた　たいそうおそろしげな人でしたゆえお母さんの苦勞は一通りではありません。おふみさんは私をうらやましいうらやましいと申しました。
おすえさんがうらやましい　わたしなぞはもう不幸に生れてきてゐるのやと思ひます　お父さんはなし兄姉はあつても親身らしふもしてもらへず　お母さんほんまにさうですなあ
ほんまになあ　おすえさん　家のおふみはかわいそうなをなごです　あんたはんとちがふて苦勞は多いし　片親はなし　他とちがふて母親はあつてもないとおんなしやし　なんといふ果報のうすい子やと思ひますとなあ　おすえさん　あんたはんよりたよりになるお方はないさうにおます　どうぞ仲やうしておくれやす
おふみさんと二人してこのやうに云はれた時にはわたしの心もしんみりといたします　そんな時にはお琴の絃もしめります。

おふみさんが近い中に石井さんへお嫁きやさうですなあ
まあ左樣か　石井さんといふとあの横堀の
へえ　さうだす　一寸おすえさん　あんたはよう御存じですやろ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いゝえ一寸も存じません　およさんそれはほんまのこと
だれがまあ　うそを云ひますかいな　あてはまたあんたがいつちおふみさんと仲やうしてやよつ
てとうに此のことは知つてなはんのかと思ふてました
はじめはほんの噂かとばかし聞いて居ましたけれど　どうやらほんとらしく思はれ私は何んとな
う氣がゝりになりました　私は針をはこばせ乍らいろ〳〵と思ひめぐらせました。
おとよさん　それはあんたたしかなとこからお聞きでしたんか
へえへえ　たしかなとこですとも　家の兄さんとおふみさんとこの下の兄さんとはお友達でゆうべ
道で行逢ふた折　兄さんの口から聞いたと云ふておしへてもらひました
今までにくらべてもおふみさんがかくし立てをなされたとも思へませんし　ほんの噂かと思ひか
へして見ましたけれど兄さんの口から聞かされたことですゆえたしかなことにちがひありません。
おふみさんもあんまりや今までのつきあいの中やのに今度のことは何で一言もしらせてもらえんの
かとおふみさんをうらみがましく思ひました。
暮れにお針をおひきになつたをりから知れていたのにそれにまああつゆも　もらさんと　病氣やさ
きいてから　此のあいだから何遍いつても逢ふてもくれはらんし　案じて手紙を上げても返事ももら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

へんし　やつぱり私をへだてゝもう今までのやうにつきあはんつもりと見へる　さうとも知らんとわたしはまあ　ひとりで案じていろ〳〵思つて上げてゐたのかと　ついかう思ふたりしましたけれどおふみさんにかぎつてそんな筈がないみんな今のやうにとるのは私の邪推でおふみさんは悲しい思ひをして病氣になつてお母さんと二人で泣いてばかり　きつと私がいつても奥へは取次がとどかんとあのこわい兄さんが勝手に私をかへしたのにちがひない　手紙の返事の來んのはおふみさんが餘程わるうて筆がもてず　お母さんは讀みかきの叶はん人ときいたことがあるしそれにちがひない。

私はすこし頭痛がするといふてお仕事を片附けておふみさんの家へ寄つてゆくことにきめました。

おふみさんの家の方へまがる四辻まできますとふつりと下駄の緒がきれました。まあげんのわるいとはつと思ひました　もしやおふみさんはお死になるのやないか　笠屋町の母家の姉さんが亡くなつたときお母さんのさらの下駄がわれたさうなし　それに入院する時には病人の下駄をもつて行かねばならんのにふつと忘れてしまふて後からとゞけに病院へいつた時かへらうと思ふとはいて行つた下駄が見えなくなり仕方なしにもつていつたのをはかねばならんやうになつてしまふたさうなし　その折もう今度はとてもあかんとふつとそんな氣がしたときいて居る。おふみさんにさわるこ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とでないやうにと胸がさわぎます。

お店をぬけて奥の入口へ來て聲をかけますとおふみさんのお母さんが出てきました。

まあおすえさんか　よう來ておくれでしたなあ　おふみが毎日〳〵あんたはんのことばかり云ふて逢ひたいと申して居りました　どないうれしがることや知れません　さあ〳〵早うお上り

おふみさんはどない惡ふていなさるのでつか

みんな氣のやまひで何ぼ養生しても　ものを案じたりくよくよとして居ますもんやよつて一向はかばかしふゆきません　萬一のことでもあつたらどうしやうかと思ひますとなあ私まで病人になります

涙聲で心細いことを云はれます。

襖をそつと明けますとお文さんが枕をかへしてふりむいて私を見つめてだまつて淋しい笑顔を見せます。

おすえさんか　ようきてくれなはつたなあ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

おふみさん
後には言葉がつゞきません。
逢ひたうてなあ毎日待つてゐました
私も來たい〳〵と思ふてばかり居ましたけれど
おてがみをもらうても返事を上げんとゑらいわるいと思ふて…………
まへからしづかなもの云ひの人ながら消えるやうな細い聲でとぎれ〳〵に云ひながらぢつと淋し
い悲しい目をむけられますと涙をかくすことが出來ませぬ。
あんたがこないに　やつれなさつたと思ふと悲しい　自分のことよりもつと悲しい
そないにお泣やとわたしも泣き度うなるわ　何ぞええ話をしてもらはんと待つてた甲斐がないわ
さあ〳〵
おふみさんは手をのべて袂をふります　泣いてはわるい今わたしが泣いて居てはまあどないにお
ふみさんが悲しく心細いことかしれんと思ひ乍らも涙がわきます。
おすえさんお針の人たちが　なんぞわてのことを云ふてはりますやろ
今日はじめておとよさんに聞きました

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

どないに云ふてでしたか
何んでもなあ　あんたが他へお嫁きやとか…………
…………
…………
あんたはさぞわたしのことを悪ふに思ひなはつたやらうな
…………
おすえさん　堪忍しておくれやす　よつぼど云ふつもりやつたけれど　何やいろ〳〵わけがあつて
いゝえ　おふみさんわたしはなあ　そのことを聞いた折だけ一寸うらみに思ひましたけれどよう考へて見たら　そんなことを思ふてはすまんきつとあんたがつらい目に逢ふて居なさると思ひました
おふみさんは夜着の衿に顔をうづめて泣きます。
おすえさんきいてほしい　兄さんをうらんではすまんと思ひますけれで今度ばかしはうらみに思ひました　おすえさん私をどうぞ可哀想と思ふてほしい　あんたには大方のことが分つてゐますやらうけれど　わたしはなあお母さんより親身にすがる人がたつた一人もありません　兄さんは私をにくいとは思ひなさるけれど　妹であり乍らかわいゝとはつゆ程も思ふてくれはつたことがない　今度の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はなしも私はとても承知をせんつもりでしてんけれど　わたしが云分をたてるとみなそれがお母さんの身にかゝつてくるし　それで〳〵
泣いて泣いて涙で二つの袂がぬれました
おすえさん　もう思ふてもかなはんことやけれど私にはどうぞして嫁きたいと思ふてたところがありました　お参りにいつても縁が叶ふやうにと　ねがふて居ましてんけれど　もうとてもあかんとあきらめました　お母さんはいろいろと案じて兄さんになんぼひどう云はれてもたのんだりしてくれなはつたけれど　兄さんがどないあつてもきかれんそんな了間なら家にも置かんしお母さんとも縁を切ると　こないおそろしいことばかり云ふて石井の方へ約束をきめておしまひになつたもんやよつて　あんまりなげいてはお母さんにすまんともう氣をきめて居てもやつぱり悲しうて……………
このやうになげいて居る人をまあ　あはれのない兄さんやと我身のやうに恨めしく思はれます。
おふみさん　さぞつらい悲しいことですやろ　わたしで叶ふことなら何をしてもかなへて上げるのに…………
こんな時にせめてお父さんが居てくれはつたら　こない悲しい目をせんとすむのにと　あきらめたつもりでもそればかし思ひます

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

おふみさん〱 そないにお泣やつたらまたよけいにからだに悪い

いゝえ もうわたしは死んでもえゝと思ふて居ます どうせ〱………

忍んでも〱おふみさんは泣く聲が立ちます 枕にみだれた黒髪がふるへます。

春が暮れて夏が過んで秋が立ちはじめた頃たいそうおふみさんの病がすぐれました この様子では初冬に祝言といふことになつて悲しい思ひをしながらもおふみさんのお母さんは仕度を急いでその日を待つて居りました これでやつと一安心しました この子が死んだら私も死ぬつもりでなあ かわいさうながらかうなつてはもう思ひかへしてもらふて先きへ嫁つてくれるやうに その中にはえゝこともあると申しきかせました。

おふみさんの目には涙がやどります。

おすえさん これはあんたへ上げます あたしの片身と思ふておくれやす

げんの悪るい そんな片身なぞほしふもないわ

そんなら あんたのと かへことしませふ 他へいつたらまた めつたに逢へんしなあ

氣になることばかしお云ひやこと

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

指輪をさして上げるといはれておふみさんに手をかしましした時　おふみさんの涙が手をぬらしました。

これが別れになりました　水に入つてお死になされたと聞いたとき私は氣を失しなふ程なげきました。

佛の日にはよい花をそなへ香をたきます　蕭やかに經など誦しますと涙があたらしく流れます
この世のことも人の身もみな夢まぼろしのやうにうつくしく悲しく消えてゆきます。

をはり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

苦労

小林哥津

「梅屋さんちやまあ、あゝしておいねちやんを何時まで家へをいさくつもりなんでせう。――あの娘さんも、もうたしか今年は四になると思ひますにねえ」
「たしかさうでござんしたよ。まあ、もう少し良い緣、もう少しごうかしたさこさ、親御さんはじめ思つてゐなさるんでせうけご、選るにはかぎりはありませんものね。」
「さうでござんすさも、さうやつてゐるうちには第一年つてものを食べますもの、なんてつてたつて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

年をとつて了つちやあ、こいでいけないでせうにね」——

よるとさわるとこんなことを噂しあつてゐた梅屋の近所の人達が、今度いよ〳〵おいねさんがお嫁にゆくといふことを耳にしたのはその年の——おいねさんの二十四の年の梅の散るじぶんのことでした。

なんでも先きは吉原の大店とかで、どうしてもおいねさんでなくちやあといふやうな緻縹（きりよう）のぞみとかで嫁くんだといふ噂が盛んでございました。

「まあ〳〵、今度こそはおいねさんにも、親御さんにもやつと氣に入つた御縁だと見へますね。」

「——なんでも先きは大した身代の跡取り息子だと云ふぢやございませんか。——きつとその若旦那てのが、觀音樣へでもお詣りにくる度んびに梅屋の前を通り〳〵するうちに何時か、おいねちやんを見初めたといふやうな序幕がついて、かうした段どりになつたんでせうね。——そいでもまあこれ、でかうしたいゝ縁を待つてゐた甲斐があつたといふもんぢやありませんか」

——なんて世間では又評判を致すんでございました。

梅屋の前からお馬屋の前あたりにかけて は澤山に梅の古木が植つて居ります。その梅がもうすつかり花がなくなつて青い芽をふくやうになりますと見世物のある方へゆく池のそばの植こみの木瓜（ぼけ）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の花が紅く、白くとりどりに咲き出します。――その年も、さうやつて、梅が散り、木爪が咲き、一日一日とあたゝかい春にいつかなつて了ひました。

近所の人達の何日だらう、何日だらうと待つてゐるおいねさんの御祝儀の日は、中々まゐりませんでした。三月、四月――何時になつても、おいねさんは島田に結ふ氣色さえありませんでした。

そうかうしてゐるうちに誰れ云ひだすとなくあの話があのまゝ事がまとまらずしまいになつたのはなんでもおいねさんの身に、面白くないことがあるからだといふやうな噂が立つたんでございました。――

噂なんてものはまるきり見當違なことはあんまり云はない代りに、又すつかりみんなほんとうなことはきつとないものでございます。

おいねさんのことなんかでも、吉原の大店からお嫁に是非ほしいと云つてきたのは、ほんとうのことでしたけれど、世間で云つてゐるやうな、おいねさんの身に面白くないことがあるといふやうなことはまつたく後かたもない――ほんとうの噂にすぎないのでございました。梅屋のお父さん、お母さんも、さうより好みをしてゐるわけでもないのでしたけれど、今迄幾度となく縁があつても、どれも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

これも、おいねさんが厭だ厭だと承知をしないので心ならずも、これまでぐず〳〵にして來て了つたもの丶來年はもう二十五といふおいねさんの年を考へると居てもたつてもゐられないやうな氣になつて、何と云つても今度はやつて了ふつもりでゐたのでしたが、やつぱりおいねさんは承知しない――どうしてもお嫁にゆくのは厭だといふので、お母さんもほと〳〵こまり果てた揚句、本所のじぶんの妹に頼んで、一度とつくりおいねさんの心持をきいてもらつたのでございました。おいねさんの心持といふのは、梅屋のお母さんにも、本所の叔母さんにも、ほんとうに案外な、思いもつかないことでした。――何んでも藝者になりたい――それがおいねさんの考へてゐたことなのでございました。

「藝者になんかしようと思ふなら、こんなに心配はしあしない。」

とおいねさんのお父さんは、じぶんが水茶屋といふやうな商賣をしてゐるに丶あわず地道な、堅い人なので、おいねさんの浮いた了間を、一時は大層腹を立てたのでした。――けれど、もう、そんな氣の女なら、骨を折つて地道に暮さしたところでどうせ、末はろくぢやあるまいからと、はじめは可成こつちから乘氣だつた、縁談をおいねさんの望み通り、斷つて了つて、土地の久の家といふ家から出してやらうといふことまで話をはこんでゐたのでございました。

――その時分世間では、くだらない、あんな噂をたて丶ゐたのでございます。――それは、櫻が咲き

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

みだれて、陽氣に、陽氣に人の心がはしやいでゐる、春も眞盛のじぶんのことでございました。
——櫻時の一きり忙がしい時分をすませると、おいねさんの姿はもう梅屋の店先きに見えませんでした。——よく芝居の科白なんかに飛んで火に入る夏の蟲といふことがありますが、おいねさんはその夏の蟲のやうに、明るい、にゝやかな、——だけど暗いかなしい影をもつた生涯の中へさうして飛んで行つて了つたのでございました。

おいねさんが絽の重ねをきておひろめをしたのは雨のしと〳〵ふりつゞく菖蒲のさく時分でございました。——わづか一月と少しの間に、自體奇麗な顔立ちが、めつきりみがきがかゝつて見違へる程、水きわだつたいゝ年増の藝者衆になつて了ひました。——土地つ子ではあり、にゝやかな、かういつも嬉しくつて、たまらないといふやうな陽氣なお座敷ぶりと、それに長唄じこみの藝はいゝし、江戸つ子らしい、きれつぱなれのいゝところが馬鹿に當りをとつてわづかなうち——ほんとに出て間もなくもう土地では姐さん株になつてしまひました。

一頃は、家へもよせつけないやうな權幕だつたお父さんも、さうなるといくらか氣も折れてきて、
「どうせ一人なつたもんなら、後の子供達もまあ、おいねが看板でも出すやうになつたらば、そこへ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

やつて、あいつの勝手にさせやうと思います。」

とこんなことまで話すやうになつたのでございました。

そしておいねさんはます／＼全盛で、燒けるやうな夏場も、いそがしい／＼と云つてゐるうちにたつて了ひました。——たゞもう面白おかしい、夢のやうな月日がどん／＼經つてゆきました。

お庫のすその方でなく蟲の聲が細々と弱くなつてゆくうちに夜も深くなつて了つてやがて、お高祖頭巾のほしい、お酉様がまゐります。——二の酉、三の酉と云つてゐるうちにはいつかもう仲見世では羽子板を並べる家が目についてきて、年の市がたつやうになります。そんな風に月日がつく／＼流れて行つて、やがて年を越し、又、いつか春が來て櫻のさかうといふ頃になりました。その頃からおいねさんの胸に、はじめて苦勞といふものゝ靑い芽がふいてきたのでございました。

その苦勞の種といふのは黑船町の正さんといふ人なのでございました。

正さんはおいねさんがまだ素人の時分に見知つてゐた人なのでした。——なんでも夏のことでおいねさんが他のお座敷であるお茶屋へ行つてゐたとき、そこの廊下で、ふつとその正さんに逢つたのでございました。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

「おやお前さん藝者になつたんかい。」

「えゝ、さう／＼ね。――ずいぶん親孝行でせう。どうぞよろしく……………」

おいねさんはかるく頭を下げてその晩はそのまゝじぶんのお座敷へ行つて了つたのでした。――まあ正さんの氣ぢや知つてと、すぐそのあくる晩、正さんはおいねさんをよんで遊びました。

ゐる家の娘が藝者になつたといふのに知らん顔してゐるのもなんだからといふやうな氣ではじめは土地へ來るたんびに、他の藝者達と交せてはおいねさんも呼ぶといふやうにしてゐたのでございました。

それがお正月頃から正さんの足が繁くなつてきて、ほんとうにきれい、さつぱりしたつきあいでゐたおいねさんをつかまへては無理な事を云ふやうになつてきたのでした。――おいねさんがこいでから子供のうちからかうした稼業の中で育つてきたなら、なんのことはなかつたのでせうけれど、なにしても堅氣に、育つたおいねさんのこゝろもちは、どうしても未だ素人ぽい、情の温かいところがあつたんでございます。――正さんといふ人には、ちやんともう立派なお上さんもあり、子供もあるといふ事を承知しながら何度かもうおいぬさんの心持はほだされて了つて、しらず／＼のうちに、正さんに吸いよせられていつたのでございました。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

それでもまだそのじぶんの苦勞なんか、まだ〳〵苦勞と名をつけるほどのことぢやありませんでした。――たゞもう今度逢ふ日を待ち暮すといふやうな、何にかの都合で、すこし逢はないのが辛いといふやうな、わけもない夢みたいな苦勞なのでございました。――

櫻の散るじぶんにはよく、あたゝかい銀絲のやうな小雨のふる日がつゞくものでございます。――そのあたゝかい雨に、木々の青葉がもえ出すやうに、おいねさんの小さな苦勞も、だん〳〵とその頃から色がこく影がふかくなつて行つたのでございました。

正さんとおいねさんとの夢も、さう〳〵はいゝ夢ばかりつゞきませんでした。――二月、三月と經つて行くうちには正さんの家の首尾も惡くなりました。それにお金のまわりも惡くなつて了つたのでした。正さんの商賣といふのは、芝居の引幕を染る紺屋なのでした。さういふ派手な商賣だけに、いつもまわりよくついてゐたお金が、ふつとかうした正さんのことが家の耳に入つてからといふもの、どこもかもいゝ合したやうにお金をうごかさないのでございました。さうなると自然おいねさんが無理をするといふやうになつたのでございました。

しかしおいねさんの無理もさうつゞく道理がありませんでした。――無理をして無理をしぬいた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

おいねさんの身體は、いつか身うごきも出來ない程、苦しいはめに落ちて了つたのでございました。それに實家では又はじめこそそつと呼んでは意見もしたのですけれど、手のつけやうもないおいねさんのふるまいに、終いには愛想をつかして了つて、親でもない子でもないとまで云はれるやうになつて了つたのでした。

こんな浮氣ざたがあつて見れば、自然とお客も遠のくといふもので、その年の夏をこした秋口になつて、おいねさんは同じ土地でも久の家よりはづつと格のさがつた家へすみかへることになつたのでした。——さうなると水商賣なんて薄情なもので、久の家の方じや借りもしないものまで借りの中へつけてゐるといふ有樣で、おいねさんの苦しさは一通りぢやありませんでした。

それからしばらくの間は、おいねさんもおとなしく暮して居たのでした。

「あんな苦しみをしたんですもの、おいねがいくら馬鹿だつて、もう浮氣ざたもこり〳〵でせうさ」

梅屋のお母さんがかう氣をやすめてゐたのも束の間のことでした。——

秋も冷えびえとして來た十月末のある朝、梅屋はおいねさんの行つてゐる家から意外なしらせをうけました、——それはおいねさんがきのふからゐなくなつて了つたといふしらせなのでございま

した。

「あんな奴は心から子だとは思はない。――どこをほつゝき歩いてゐようと、決して探しになんか行きなさんな、あんな奴こさ、警察へでもなんでも訴つて、うんといふ目に逢はしてやるがいゝ、――さうすれば、目がちつたあ覺めるだらう。」

娘の身を案じておろ〳〵してゐるお母さんにお父さんはこんな氣强よい事を云ふのでした。そしてかまふことはないから訴つてをくといふ袖をむりやりに堺の方のしりあいや、方々心あたりを聞き合して見るまでと、すがりとめたのでございました。

心當りへ出した手紙の返事はみんな空しいものでございました。――そんな風でおいねさんの行衞はいつまでも。わかりませんでした。

――空が暗く悲しく曇つてきて、世の中がまた、陰氣な冬にすつかりなつて了つた十二月のはじめになつて、思がけないおいねさんから梅屋のお母さんあてゝ無事でゐるから安心して吳れろといふ葉書が大阪から屆いたのでございました。

葉書を出したところは大阪といふところから、お母さんは色々においねさんの居所を考へたのでございました。――色々と考へた揚句元久の家にゐた女が大阪の天下茶屋へ行つてゐたといふことを

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ふと思いつくとすぐ、お母さんは久の家へ行つてそのことをたしかめたのでございました。

お母さんが考へた通りおいねさんは、天下茶屋にゐたのでございました。久の家から教はつたその女(ひさ)のところをたよりにおいねさんのすぐの弟がさがしに行つて、やつとおいねさんを連れかへつたのはもうその年も暮れるといふあわたゞしい氣が町にながれはじめた十二月の半ばのことでございました。

——路でその弟が考へてゐたとほり、おいねさんは正さんと他(よそ)の二階でかくれてゐたのでした。かへつて見るとまだそつくりしてある色々なお金の都合で、おいねさんはそのまゝぢつとしてゐるわけにも行かないのでした。——ちつと遠く東京をはなれてゞもゐたら又氣がかわるだらうと甲府の田舍町へ世話する人のあるのを幸ひにその方へ行くことにきまつたのはまだ年が暮れきらないうちのことでございました。——

陽氣な大まかな心持のおいねさんには、とても辛抱が出來きれまいにとおいねさんの朋輩連が噂してゐるうちに、又梅屋ではおいねさんが逃亡したといふ知せをうけとつたのでございました。——それはおいねさんが甲府へ落付いてやつと一月たつかたゝないうちの出來事なのでございました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

もうその時には梅屋でもさがし出す氣力もなくなつて了つたのでございました。
「――おとなしくよく歸へつて來たと思つてゐたが、もうちやんとかうした腹をきめてかゝつてゐやがつたんだな――あんな馬鹿な人間でもどんずまりに行くとおそろしい智慧を出すもんだなあ」
もうこんな苦勞を親にかけるやうなやつは死んでも、おしくない――お父さんはふつとこんなことを考へるのでございました。

冬もしん／＼と寒くなつて、どうやら粉雪でもをちて來さうな二月の末のある日のことでございました。
觀音樣のお堂の下に、すつかり面やつれのしたおいねさんが見すぼらしい姿をして、ぼんやり氣のぬけたやうな樣子で立つてゐたと梅屋へ知らせて呉れた近所の人がありました。それをきくとすぐお母さんがお堂のところへ行つて見ると、ほんとうにそこにおいねさんがやつぱりぼんやりしたまゝ立つてゐたのでございました。
「お前まあ、おいねぢやないか」
「…………」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

「そんなとこにたつてゐないだつて、家へくればいゝぢやないか。——ほんとうにどんなに案じてゐたか、お前、お母さんやお父さんの氣がわかるかい。そいでもね、さうやつて歸へつて來たもんだもの、お父さんだつてまさかにかまいつけない事はありあしないよ。そりあもう親だもの、子だも……」

さうしておいねさんはお母さんに梅屋の家へつれてゆかれたのでございました。

死んで呉れた方がましだとまで思つてゐたお父さんも、おいねさんのもの哀れなその樣子を見ると氣がくぢけて了つたものと見え、いやな小言何一つ云ひませんでした。

長い間の氣苦勞の疲れが一時に出たと見えて、それからづつと、おいねさんは木の芽が青くかき出す三月の末になるまで、梅屋の二階で寢たり、起きたりといふやうな日を暮して了つたのでございました。

寢てゐたうちに他から話のあつた、岐阜の山の中の温泉宿とかへ、もう一度かせぎに行つてくると、おいねさんが云ひ出して、なんでも行くからと、いよ／＼事をきめて了つたのは、その寒い山の雪がそろ／＼とけはじめる春のすゑのことでございました。——すつかり八重櫻もちつて了つて世の中がいたるところみづ／＼した緑で、色どられるはつ夏頃、おいねさんは、いろ／＼の今迄のことにす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つぱりとあきらめをつけて、東京をはなれて そのふかい山の中の温泉宿の内藝者に抱えられて行つて了つたのでございました。

「何しろ汽車のとまるところから九里も十里も山奥へはいつたところださうですから、まあ今度は逃げ出すことも出來ますまい――」

お父さんは、冬場は雪にうづもれて了つて、そりとかいふものでなくつては往來の出來ないといふその山道のことを思ひながら、よくこんなことを口癖のやうに云ふのでございました。夏になつて行くにつれて温泉もにぎやかになつて來たといふ事や、一人遠くはなれてゐると思ふとお客のない、夜なんかしみじみ淋しく思ふといふことや、それに付けて弟姉(みんな)の寫眞を送つてくれといふやうなことをこまごま書いたおいねさんのたよりがその後、ちよいちよい大分に長い日數をついやしては梅屋の家へとゞくのでございました。

おいねさんが山へ行つてから、いつかもう小一年といふ月日がたつて了つた頃の手紙の一節にはこんなことが書いてありました。

――こんな山里でもこの頃は雪の下から青い草が出てまゐりました。花はまださきませんけれ

ど、すみれだの、たんぽゝににたやうな草を見つけますと、公園の植こみのくさりをこぐつてつみ草をしたちいさい時のことを考へます。

と、うら〱と晴れた空の下にうすもゝ色の一重櫻がさきみだれて、どこからともなく香のにほひのたゞよつてくる梅屋のあたりの春を、しみじみなつかしさうに書いてよこしたのでございました。

近所の人との話にもおいねさんの事が出るたんびに、お母さんはよく「もう〱いくら當人のゝぞみでも、ふつ〱あんな稼業はさせるもんぢやござんせんね。――なまじ少しばかり三味線がなつたために こんなとんでもないことになつたかと思ひますと、もう後の子供達のお稽古ごとも考へもんになりましてね、この頃ぢやあゝして野そだちのやうに お稽古にもやらないでをくのでござんすよ――」

かう云ふのでございました。

――梅屋のお母さんにもお父さんにも、その頃になつても、おいねさんと正さんのことはそのゝちどうなつたんだか、想像がつかないのでございました。

山へ行く前に一度きかう〱と思つてゐた、おいねさんの甲府をにげて家へかへつてくるまでの間をどこで、どんなに暮してゐたのかといふことも、おいねさんのすぎた夢を思ひ出すまいとしてゐる様子を見てゝはついきゝそくなつたまゝになつて了つたのでございました。――

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

鳥のなげき

伊達虫子

都の鳥が唐土に渡り、
都戀しと泣くといな。

都、何百いく萬里、
とてもお前のその足ぢや、
返れさうにもないといふ。

旅のお人に言傳てたのみや、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

旅のうき寝にころりと忘れ、
ついに其儘思ひも出さず。

雁に文なと頼もとすれば、
ひとの文より我が餌を
くわへる事に忙がしと、
耳さへ貸さぬおぞましさ。

都の鳥はたゞ一人、唐土の鳥に圍まれて、
それ物を云へ働けと
さいなまれたる幾千日。

ついに心もうつろとなりて、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

都戀しやこひしや都。
たとへ着ずとも食はずとも。

都にあれば都鳥、
死すとも土に慣りよなれど。

唐土にあればよその鳥、
葬ひ鐘が賑やかぢやとて、
草にもなれやう身かいなア。

（三、三、二）

ダンシングに就いて（上）

原　信　子

㈠藝術が盛になりますに從つて美と云ふ觀念は一層世人が注意するやうになつて參りました、客觀的の美は金錢で左右が出來ますが主觀的の美は其人々自身に依つて發揮せねばなりませぬ、主觀的美を發揮致しますに必要なのは私共身體の美を發揮せねばなりませぬ。

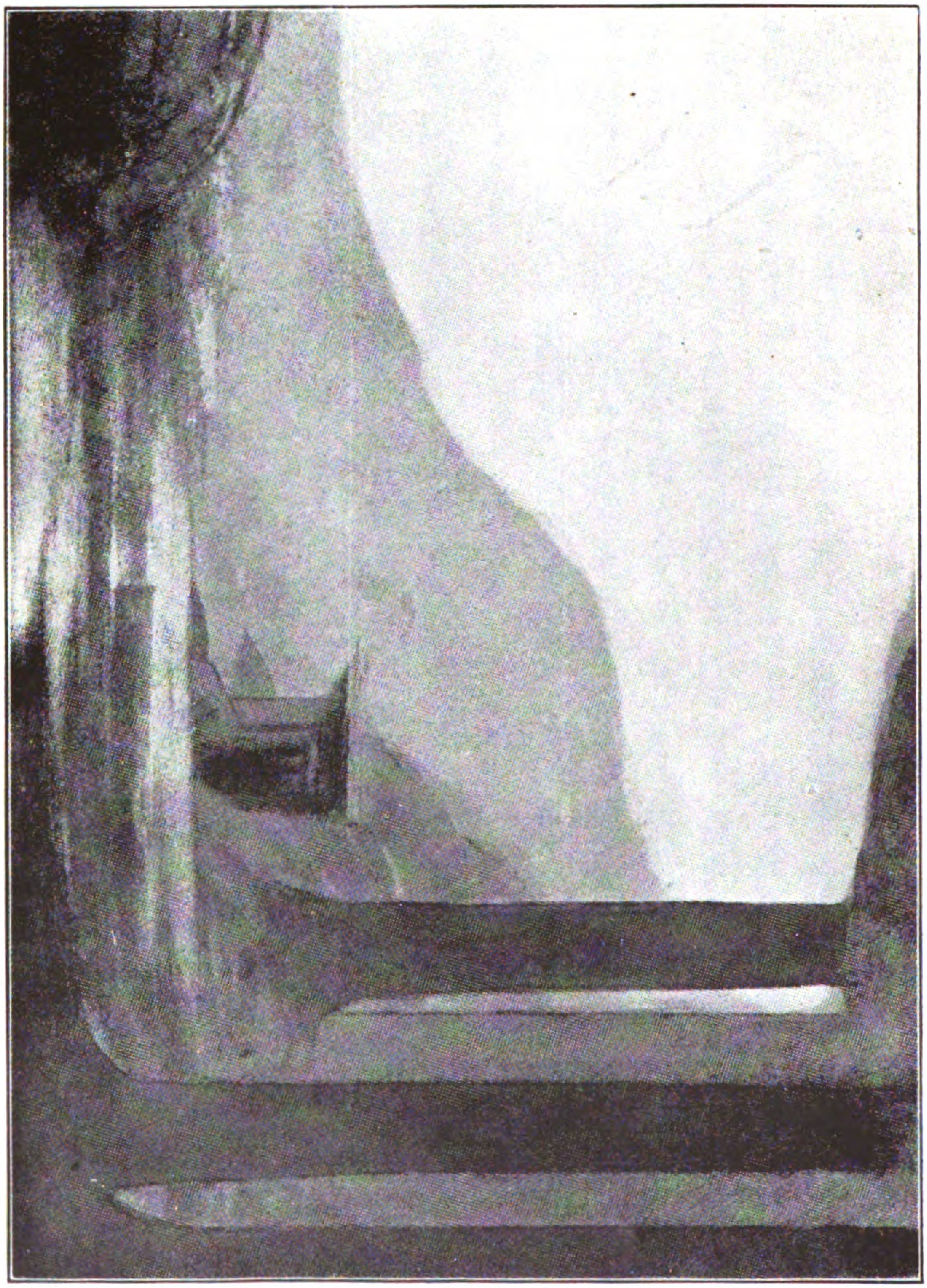
で藝術で此身體美を最もよく發揮致しますのはダンシングであります、ダンシングは明治十年頃に仲々盛んであつたさうです、鹿鳴館とか申す會館があつて當時の紳士淑女達が熱心にダンシング

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Act III., Scene I.—A Flower meadow.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

をなされたと先輩から聞きました、ダンシグは交際場裡に必要でありますが、交際の道具ばかりではありませぬ、身體美の發達にも必要なる教育であります、『始めて社會が組織されてから、愛と暇との眞の子供である歌とダンスとは人生の娯樂となつた』とルソーが申して居ります、ダンシングは詩と音樂との如く昔から各國に發達して居ります、ダンシングは「夜の花」と呼ばれてエジプトのフエロー王時代には既にダンスの夜會があつたさうです、ダンシングは人生の表現、人生の情慾の反照、靈魂の最も神秘なる運動を身體の活動に顯はすものです、凡ゆる人間の思想及感情はダンスに表現することが出來るのです。

西暦紀元前二五四五年頃には既に宗教上の儀式としてエジプト、猶太などにダンスが行はれたと申すことです、でも古代の人種で希臘人種程ダンスに趣味を持つた人種はないと申します、希臘人は世界で最も身體の美觀を具備したものであります、其藝術は實に千古の世界的寶となつて居ります。ダンシングは希臘人の考によりますと身體の活動と表現的ジエスチワーの藝術であります、歩み方、運動及姿勢等總べて規則があります、希臘のダンスは實に其國民性を形成する上に音樂と共に非常に多く貢献して居ると申します、羅馬人も希臘人を眞似てダンスを早くよりして居ます。然し希臘の處女のダンスの如く淸い樂しいダンスは漸次退化して行きました、只劇場的ダンスは羅馬に於て

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

始めより發達して居ります、羅馬人の間には無言劇と同じく非常に發達して居ります。

基督教會でも羅馬人に倣ふて初期には教會ダンスを致したさうですが西暦七百四十四年に教會又は墓場でダンスを教えることをポープが禁じました。

其後歐洲は暗黒時代となりまして人民は多く樂しみを奪はれて居りました、併し佛獨人の元祖も仲々ダンスを好んだとのことです。

佛國の中世紀時代のダンスには義侠的行爲と一致した一種のダンスが行はれました（喜びの後にはダンスが來る）とは佛國當時の通語であつたのです、佛國では各地方で異つたダンスが流行して城下では假装ダンスがひどく流行したさうです。

伊太利でもメデチー家の豪奢を極めました時代には文學美術と共にダンスも亦大に流行しました、キヤセレン、ヲヴ、メデチーが佛國巴里に參りました爲めに佛國の上流社會には伊風のダンスが流行することとなりました、立派な武士と長き着物の美人とが音曲に合してダンスを致しましたのが抑もオペラの起源となつて居るのです。

佛國のルイ十四世の時ですダンスが最も盛んになつたのは。此時より始めて女子が舞臺に現はるゝことになつたのです、ルイ王は始めてダンシングのアカデミーを建設した、そして今迄假装ダンス

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

は御所のみで行はれましたが此時から一般人民の間にも行はるゝことになりました、十八世紀のダンスは非常に優美な所があります。

佛國大革命は舊慣のダンスを破壞しました、併し尙ほ革命中でも巴里では毎夜廿三の劇場と千八百ヶ所の公開舞踏室が開かれてあつたと申します。

革命後ダンシングは一層の進歩を致しまして中產階級の人民が之を樂しむやうになりました、ミヌエットは中世紀から優美のダンスとして貴ばれて居ますが千八百四十八年の革命後ポルカが盛んになりました。

オペラダンスは第二帝國時代に仲々盛んになりました、大體から申しますとダンスは希臘と佛蘭西とがあるのみですが此外にも近東のダンスがあります、ダンスは各國に依つて異つた發達をして居ります、モールのダンスは伊太利及西班牙等に發達して居ります、ワッツンダンゴーやボレロー及び快活なる熱情的タランテラの如きは其一例です、ダンシングは他の藝術と同じで盛衰消長がありますが、でも各人民の上に歴史を殘して居ります、マア緒言は此位に致して置いて各國のダンスに就いて少し申して見たいと思ひます。

エジプト及猶太

前に申した如くダンスの藝術はエヂプトに其曉を持つて居ます、其ダンスは宗敎的で牧師は之が師匠でした、多くの神聖のダンスは其神に捧げられて居ります、で其ダンスは星が手本である、宇宙的のダンスが行はれたとカスチル、ブレーズが申して居ります。

モーセも紅海を渡つた後でダンスを命じダヴィデもマークの前でダンスをしたのです、舊約全書にはダンスの事が澤山あります、エルサレム寺のコーヲスはダンスの爲めに存在して居ると申してもいゝのです。

希臘

希臘人は既に申した如く最も熱心にダンスを致しました、總べての感情、總べての情慾をダンスに表現して居ます、戯曲作者のアリスト、フヮネースの時代には醫士の命令に從つてダンスを稽古したものです、ダンスは宴會に興味を與へ各祭に刺激を與へたのです、阿典人の祭はダンシングが最も盛んでありました、ダンスと音樂となくては希臘人の生涯は送られなかつたのです、各詩人は自作を歌ふ時にダンスしたものです、シモニヂスは申して居ます『ダンシングは沈默の詩である』と。彼等希臘人は寺院でも森林でも野原でもダンスしたものです。

希臘人はダンスを「手足の聖人」と申しまして尊敬致したものです。

羅馬

羅馬人のダンスは多少退廢の氣味がありますが併し仲々盛んなものでした、音樂學校では必らずダンスを敎へたもので之はシビヌーが申して居ります、武勇ダンス、劇場ダンス及家庭ダンスも羅馬人は皆致しました、然れども羅馬人は希臘人と違つて自分でダンス致すことは夫れほど好まず他の人のダンスするのは見ることを好みました、希臘時代から女子が舞臺に出てダンス致すことをしませんでした。女子の分は男子が代つて致したのですが羅馬では後に女子がステージに出ることゝなり有名な俳優ダンサーが現はれました、アルブスキユラ。ソシリヤ。ダイヲンシヤ。シセリス。ヴワレリヤ及クロツパなど申す女は其有名なるものです、劇場ダンスは此時代仲々好評を得たものです。

中世紀のダンス

トチラが羅馬を破壞致してからダンスは全く滅びてしまひました、長い間ダンスは失はれた藝術でした、然れどもゴール人及フランク人はダンスを致しました、耶蘇敎も始めはダンスを奬勵しましたが八世紀末葉から羅馬では禁じました、然しながら他では仲々盛んに宗敎的ダンスは行はれました、中世紀のダンスは全く女子が致しまして男子は之に與りませんでした故に其歌なども女子の作になつて居ります。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

「ビユークレヤと呼ぶ城内に大夜會が催さるゝことゝなつた、女子は此處に歌ふ爲めに男子は女子のダンスするのを見る爲めに來た』と云ふのは十二世紀の歌であります。

中世紀の始めには平民が重にダンスを致して上流社會は之を排斥して居りましたが間もなく上流社會も採用してダンスすることゝなりました。

十三世紀の始め頃から男女手を取つて優美にダンスすることに成りました、始めは手を拍するので歌の拍子を取りました、獨唱家が歌ひましたリフレィンはダンサーが附唱しました、『青年と喜びとは彼等の從妹(カズン)(勇氣)とダンスを催す、臆病で耻ぢたる者は去つて彼女自身を隱す』は當時のダンスの歌でありました、其後樂器がダンスに用ゐらるゝことゝなりました、で樂器が採用されてから歌は癈せられました、佛國では中世紀がダンスに最も盛んな時代でした『ダンスは戀人が健康であるか否かを慥める爲めになされた之れが爲めに男女は相擁抱することを許された、又互に相香ひ其よき意氣を持つや否やを知る故にダンシングは社會の組織上必要なものとなつた』とタブロットが申して居ります。

復興時代

近世の劇場ダンスは十五世紀末より起つたのであります、エリサベス女王時代には英國でもダン

スは行はれまして佛國の大宗敎家コッネテブルが女王の客となつて參りました時に女王の下臣諸女はダンスをして饗應致したと申すことです、當時の王族貴人社會はダンスの爲め服裝其他に豪奢を極めたものです、で此時代にも宗敎家も盛んにダンスを致しまして華美壯麗を盡したとのことです、此時代に好評を博して流行致したダンスは Basse Danse. Danse Baladise. The Braule. The Pavone. The Goillarde. The Courante. The Volte で最後のボルタは最も流行のダンスでした。

此外トルテヲン Tordion も流行致しました、ボルタは佛國のものでして後にヴォルツと申すダンスです、十六世紀に流行し始めましたものです。

ルイ第十四世は前記の如くダンスに意を最もよく注がれた王で十三歳の時には御自身でダンス遊ばされたとのことです、佛國では一六八一年始めて女子がステーヂに出ました、クイノとルユイーが此習慣を始めたのです、ルイ第十四世紀の時代には澤山に有名なダンサーがありました。

ミネエット(The Minuet)はルイ第十五世紀の時のダンスです、ルユイーが王の爲めに音樂を作りましたのです。

十八世紀は優美の時代趣味の時代でした、從つてダンシングも亦他の藝術とともに優美に向ひました冷き壯嚴なパヴェナはスタレまして優雅高尙なるミネエット快活なるパセピード Passepied 及び

活潑なるガヴッタ Gavotte が最も流行致しました、二人の女子サレー及カマルゴー Madame woeselte Sallé and Madame woeselle Gamargo 十八世紀ダンス界のプリマドンナです、前者は如何に其ダンスに意味を表現するかを知りましたが決して急激な活動は致しませんでした、後者は生來のダンサーの天才でした、生れて十ケ月目にヴァイオリンの音を聞いて調子を合せてダンス致したと申してあります、此時姆母は世界第一のダンサーだと豫言したさうです、十歳の時巴里に送られてプレボスト孃の下に學び三ケ月目にルーエンでバレットを致しました、十六歳で巴里のオペラに出て大成功を博しました。

カマルゴーの後有名なダンサーはヲーガスト、エストリスであつた、彼はルイ第十六世の下に名聲を歐州に鳴らしたのです、女子ではアラート孃がカマルゴーの如く名聲を博して居りました。

佛國革命中はヴエトリス及ガーデル夫人などがダンサーとして巴里に名を爲して居ました仲々盛んでしたが平民的なダンスが多くマルセーユをオペラになした位ですから。

以上は多く都會特に高貴社會に行はれましたダンスですが此外田園村落に行はれました平民的ダンスが各國各地に澤山ありまして頗る趣味あるものですが餘り長くなりますから次號で之と最近のダンスを紹介します。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

お芳

お芳はその日は一番に目をさました。未だ冬のまゝな裝をした東北の町には木々の梢にも未だ春の思は遠かつた。岩木山を下ろして來る强い西風が低い檐をたゝいて光り取りの紙のやれ目から寒さうな音をたゝて居た。曉のうすやみにすかして見ると姉は未だ深い呼吸を正確にして快いねむりにひたつた樣にむさい蒲團の上に左の手を伸して眠つて居た。

「やい樣ア、やい樣ア、もう起きへんが」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

お芳は身體を半分起して姉をゆりうごかした。

「あゝ、今日はお前が學校に行く日だべな」

と云つて姉は快よく起きてくれた。そしてお芳が顔を洗つたり天戸をつたりしてる間に臺所の用事を片付けておいて髮のしに湯をもつて來て、根を高く桃割れに結つて白いたけながをかけてくれた。

「今日は初めて女學校に上るんだはで、お辨當には玉子やいておきしたね。おばあさんにはだまつていへんか」

姉は元結をしめる手を一寸止めて耳元に呟いた。

こないだ入學をゆるされて學校に出た時には束髮に結つて眼鏡をかけた美しい女の先生が學校は八時に始るからその十分位前に出てくればいゝと云つた、でも六時過ぎると起き出た父と祖母と四人が各自の膳を前に出して粗末な朝飯がすむとお芳は直と寢衣を脱いで姉が忙しいうちから肩上げを下ろしたり、制服が筒袖ちやけにと云つて袖を直しておいてくれた今迄は他所行にして居た綿入と羽織に着替えて、入學祝にと云つて初めて父に買つて貰ふた下駄も机の下から出して來て庭に下ろした。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

「お父サ、學校に參ります」
父は朝食のあと庭を一まはりすると小さい火鉢を抱えて本堂に看經して居た。薄暗い須彌壇の中にともされた小さい白蠟燭の光が眞鍮の佛像に映じて眠つた樣な目をもつた頰の高い部分々々がキラ〱輝いて居た。上り初めた太陽の光にねぼけた樣に白んだ入口の障子に近頃めつきり丸くなつて來た背をむけて父は薄くなつた座蒲團の上に正座して珠數をつまぐつて居た。
「未だ七時前ぢやないか、學校には廿分もあればいかれるもんだ、少しでもあねさの手傳していつたらよかべ、姉さばかりひどい目に逢ふ」
叱られて恐しさにソーッと庫裡に來ると姉が直に見付けて圍爐の側を立つて來た。
「早く行きへんか、お父さんがなにか云ひしたか」
「未だ早いはで、やい樣の、手傳して行きへて」
「哩（わい）は、そしたこと構はねでいきへんか、お父さが聞いたらわれよふく云ふさね、早くいきへ」
姉は朝寒にいぢけて古い紫の頭巾をスッポリと頭からかぶつて圍爐裡に燃ゆるそだから上る煙の行方をぼんやりと眺め入る祖母に氣を兼ねてお芳を上り框の方に押しやつて、そのあとで自分もついて門の處まで送つて出て來た。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

よくいろ〳〵な面倒を獨で見てくれる門前の鹿藏さんにたのんで根元が洞になつた大杉の根にはきよせてもらつた殘雪はその二三日の寒さに又氷りついて仲々とけ相もなかつた、それでも僅に芽を出し初めた落葉松の立木の緑が新しい太陽の光を呼吸して嬉し相に笑んで居るのを見ると年の半ば恐しい雪と嵐の音とにいぢけかへつて居た女達の心にもある樂しい豫想が浮いて出て二人は前になり後になつて戸口を出て行つた。

「なあ、芳ッ子、お母さがきたらなんぼかよろこぶべす、芳ッ子々々つて云ふて居たのに、われはあ、お前がさうやつて行くのを見たら、お母さが生きて居たら、なんぼおもしろがるんだのにと思ふてな」

母の死後一家のことを一人で背負ふて見て居る姉は大變涙もろくなつて終つた。何か物の怪につかれた呪はれ人の樣に安住をなくした魂が常に目に見えぬあるものに襲はれて居るらしくおびえて居る祖母は日がな一日その暗い圍爐裡の側に座つた切で、たえず訴へる樣な悲しむ樣な音調を出して何か云つて居る。さうしてどうかしたはずみが來ると時にも場合にも構はずに大きな聲でお八重でもお芳でもどなりつけた。

父の生活はその上に一層氣の毒なものにお八重には思へた。ある止み難い恐ろしい毒の力がほと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ばしり出て兩眼の盲いた母親が嘆きにあまつて人知れずわれと我が命をたつたのは二人の娘に髮の毛穴の一ッ一ッを白銀の針でつッつかれたよな恐しさと苦しさをもたらしたけれど、その悲哀は二人がその後の父の生活に見るそれよりは尙堪へ難いものではなかつた。いたましい死を背景にした父の命の陰は、亡き妻の歷史の上に一枚々々と重なりゆく日附と共にうすうなり行く樣にさへ思へた。凡をあざむいた愛の力、二個の命がより合ふてからの月日の間に幾十度かくりかされた二個の命の生死の爭ひ、その終りと共につゞいた安逸と、暗夜にそば立てるスフヒンクスに行き逢つた樣に妻が恐しい病に逢つてからの悲劇、凡がくりかへして思ふさへ苦しい過去なのに、つゞいては二人の命の創造である二人の娘の將來に對しての危惧、二人が同じ母の運命を辿り行く假想はこの人の凡の樂しい豫期を塗りつぶして、そこに物恐しい、一家の運命の幻影を起して見せた。よるべき港を失ふた船が、何時起るとも知れぬ水の力の恐れから雲の色水のきはいに弄ばれて、そこよりこゝとさまよふては我がうごく力に破れ行く樣に、中老過ぎた男の心も安住を失ふては迷ひ迷ふてはきづゝいて行つた。

　偏屈であつた性質は益々ちゞまつて行つて、この頃では一家のうちでも餘り言葉を交はすことはなくなつた。稀々に故人の命日か先祖の法養に四十錢五十錢の布施を携へては詣で來る人達の爲に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

短い御經を上げるか、又は數が少なくなつた壇下のうちに死んだ人があつたりする時に一寸々々出かける外はそのうすぐらい本堂の側の一室にヂーッと座つたまゝで幾日でもくらした。その眼は鈍く開かれて物を凝視するともなく正面の壁を見詰めて居る眼は怖しかつた。おまゐりなどあつた時に知らせに行つた時お芳はソーッとのぞいて見ては恐しくなつて走つて歸つて姉に叱られた。

かうした祖母と父との周圍にみなぎる紫色の奇怪と灰色な恐怖との間にお八重の肉は喰まれて行つた。夏の日光にうれた林檎の紅味の樣に赤かつた血の一滴々々、朝な夕なに侵る樣に流るゝ涙と共に流れて終つて、娘らしい輝をもつて居た顔の輝はうせて、年よりませた蒼白な表情が現はれて來た。

さうした苦しみと悲しみのうちにお芳は只一ッの力と希望であつた。母に棄てられて泣きさけぶ幼子をなだめつすかしつ暮して來た日はお八重にも苦しくも亦のぞみの多い日であつた。その子も今はもう女學校に行く樣になつた。父がお芳を女學校に上げることを決心した時にもお八重の心には家族の誰よりも大きな喜悦と預期とがみち〳〵て居た。自分がうくべくして受くることの出來なかつた幸福と自由とを自分はお芳を通して受けるではあるまいか、女學校を終へたら東京の學校に出して立派な一人前の女にしたい、それまでは身を粉にしてもと貧しい生活に甘んじて、一錢も無駄にはつかはぬ樣にもした。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

お芳は姉に送られて朽ちかゝつた門を外に出た。門からその町通りまでの間は左側には大きな杉の立木があつてその下が墓場になつて居た。苔に朽ちゆく多くの石の蔭には多くの人々の生命と歴史とが埋められて有つた。よき子孫をもつた人々の墓は時々は墓石の苔も洗はれ嵐のあとにも据ゑ直しておかれたが、そのうちには大雨に根を洗はれて倒れたまゝのや土臺石が土に埋れて終つて日附も所有主の名もわからぬ様なものもあつた。

かうした人の世にすてゝ顧みられず、通りすがりの人々の目をそらして見過ごす墓場もお芳には搖籃であつた。人間に要のない命の空虚と冷たい忘却を呼吸して生きて行く父の生活に慣れて來ては、盆や正月の晴の日にも姉と二人で野花を折つて無縁の靈を祭るのが例であつた。

その朝もその墓場を通つて本町の通にぬける時にも見知りごしの石や靈屋に念佛をとなへて通り過ぎた。

女學校は町はづれにお芳がこないだまで行つて居た小學校の少し向ふにあつた。その朝も途中では以前の朋輩や敎師達に行き逢ふた。

「よく勉强しなせや、女學校になると餘程むづかしかろから」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

擔任であつた先生は道の向側から態々よつて來てさう云つてくれた。いゝ着物を來てすましたとりなしで行く自分の形を想像して見て何とはなく晴れがましゆふて小急ぎにそこを通りすぎた。

學校では同じ級にも四五人は同級生であつた人達が上つて居るし友達に困る樣なこともなかつた。一樣に大きな束髮に髮を結ふて飴色のタボ止などを氣取つてさした四年生が來て皆に何くれとなく世話をやいてくれた。朝々の朝禮の時の並び方や途中で教師達にあつた時の心得、お掃洒の仕樣などまで學校の仕きたりと云つた樣なことを一通りづゝは手をとつて教えて呉れた。

二時過ぎるとイソ〳〵としてかへつて來た。姉は門の處迄出て來て草などむしりながらまつて居てくれた。干餅の燒いたのなどを戸棚から出してくれたあとでいろ〳〵學校の樣子などを聞いて、お芳が先生達の多いことや、いろ〳〵な樂器や器械が揃つてゝ美しいとなどを話すと嬉し相に滿足して聞いて居た。夕飯のあとでカンテラにともされた薄暗い臺所の流し元で後片附ける手傳をしても、

「こゝはやい樣するで、お前はあつちさいて勉强してけへや、皆におくれてはならんはで」

と云つてかへしてくれた。

水曜日が來た。その日の二時間目は英語であつたので、甲乙二組にわかれてた一年級が合併するの

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

で教室は間に合はぬと云つて四年生が理科の教室に入れてくれた。ずつと後方が高くなつた教室で、お芳達の机からは教壇は可なり下手に見えた。黒板の直ぐ側にドアが次の室に通じて居て、その部屋の四方には高い硝子の戸棚がギッシリと並べられていろ〳〵な器械やら木や鳥や魚や虫などの標本が並べられ、中央の小さな硝子の箱には温室咲の草花の蒼白いのなども見られた。

教室にも後方と黒板の側の窓近い處には棚が並べられてその中には腹を割られた鼠や蛙などが肝臓や肺臓や心臓などを色わけに染められてアルコールにつけられたものや、鯊や鮒や鰛や鮪や、夏の叢に女達を脅かす青大將や、人を追ひかける眞黒な烏蛇なども居た。そのとなりにはみゝづくや、啄木鳥、雲雀、鷹などの鳥が剝製になつてとまり木にしつかりとまつて居るかと思へば下の方の棚には櫻貝、子安貝、帆立貝、板貝や、その他の名も知らぬ小さな貝など強い張金に丁寧に支へられて据えられて居た。

黒板にならんで丈の高い四角な箱の樣な棚があつて、白い經帷巾ですつぽりと蔽ふてあつた、恰度胸のあたりと思はれるあたりがゆるくはだけて、うす黒いあばらの二三本がはみ出して居た。その一本と一本との間にすかして見える空虛がその死體全身のシンボルの樣に思はれて物凄かつた。

首丈の骸骨には面おほひもなく、別な方の棚に正面をむけて据えてあつた。牛の眼でも入り相な眼

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

窩が氣味わるく凹んで、前齒も七八枚は上下で揃つて居た。口元の獸の樣に前方に押し出た、それが時とすると怒つた狒々の樣にも思へるし時とすると心から可笑しがつて笑つて居る下卑な男の顏を連想させた。何とはなしにそれを見て居るのが怖くてお芳はそこを見まい〳〵としながら、何時とはなしに引きつけられる樣にそこを見詰めて居た。

ベルがなると間もなく英語の先生が入つて來た。これ迄にも時々見かけたことはあつたが、かう正面に向ふて見るのは始めてゞあつた。淺黑い額の廣い顏に高い鼻が嚴しく立つて、きつく結んだ口のあたりでは、何か云ふ時に筋肉がキリ〳〵と釣り上つた。眼を据えて見詰められるとズーンとした感が足裏までも通つて行つて、如何にも親まれなく見えた。

その人は疳高な聲で口早に說明し出した、最初は犬や猫や狐の畫を出して見せて聞いて居ても一寸はどこで云つて居るかわからぬ樣な音を出して見せて、皆の生徒に云はして見た。小學校でゆつくりとした土地出の先生の說明を聞いて居た生徒達には慣れぬ東京辯はつらかつた。おまけに言葉と言葉がからみ合ふて出るほどに急き込んだ說明はお芳には毛頭呑み込めなかつた。ボンヤリとして聞いて居たが何か問はれても問はれた意味がわからなかつた。

「これは何ですか」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

先生が犬の畫を出して居るのに氣がついて何を考へる間もなく

「犬であります」

と答えて終つた。ドッと皆が笑ひ出した。先生は口元をピリ〳〵させて眞赤になつた。

「何故ボンヤリとして居て、よふく人の云ふのを聞いて居ないのです、今は何の時間ですか、そして何を敎はつて居るのです」

お芳は恐ろしさにワナ〳〵とふるへた。先生の左肩にのつかつた樣にも見える棚の骸骨が飛んで來て今にもカッと肩あたりに嚙み付き相に思へた。先生のあとについてドッグと云つても聲は脣をもれなかつた。

「何故聲を出しません」

と先生は憎さげに怒鳴つた。火の樣な眼が眼鏡の下にキラ〳〵と光つた。そしてベルがなると机の上にシク〳〵泣き出したお芳を見向きもしないで出て行つた。

その日は終日ふさいで暮らした。家に歸ると姉は心配してどこか工合でも惡いのかと聞く。叱られた話をしては又姉がどんなに心配しようかと只頭痛がする樣なと云つておいた。姉は心配して直に

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

床をとつてくれて、臓からいゝのを出しておいたと云つて林檎を盆に入れて枕頭においてくれた。平生は五ッ六ッも喰べられるのだけどその日は手にもつけなかつた。只物悲しゆうて、そして又理科室の骸骨ばかりがチラ〳〵と目先にちらついてその中から英語教師の皿の様な眼が自分を目詰てる様でチーッと物音もない納戸の隅に寢て居るのが恐しゆうなつて姉が臺所に立ちはたらいて居る間に床をぬけて庭をまわつて外に出た。

庭をとりまいた林に添ふて一ッの小徑がめぐつて居る。恰度その徑からも一ッわかれて南津輕の方の村々にゆく道が西に通つて居る。その別れ路の角になつて居る處に一ッの泉が湧いて出た。猫柳が枝を下ろしてその邊には大きな自然石が二ッ三ッ轉がつて居た。何處からとも知れず泉の水は限りもなく湧いて出た。

お芳は道傍に聳えるあかしやの根本に身體を倚せかけてチーッと泉を見入つた。近所の子供であらう、兩眼の盲いて、とりわけ右の方は抉つて取られた樣に無殘に窪んだ眼で物憂はしげに空間を見つめた女の子が、先刻から古い手拭の樣なものを一生懸命に洗つて居た。そこの町では四月の中旬と云つても未だ寒氣はきびしい。梅や櫻の梢にも未だ春は氣息も見せず、岩木山には白いものが時々は下りる。「又少し寒かつたな」と思つて起きた朝は案の如くに天空に聳える高峯が又一刷毛白く引いて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

居る。その日も可成に寒い日であつた。

子供の指は冷たさにかぢけて居た。その指を時々口元にもつて行つてフーッと氣息であたゝめて居た。それでも又それを洗ふ様に運命づけられた神々の様に從順に一生懸命に洗つて居るにもかゝはらずその布にしみ込んだものゝ何ものも水に流れ出ては來なかつた。

お八重は、夕方の薄暗の中に老木の根方に盲目の女の子を見詰めて居るお芳を見出した時に、驚き恐怖の交つた聲をあげて無意識に盲目の娘とお芳の間を遮つた。そして抱きかゝえる様にして妹を運び込んで、別にたいてあつた暖かい御飯にお芳のすきな妊み鰊の酢のものなどを枕頭にもつて來てくれた。

おそい春の一潮々々は南方の山々の間から津輕の平野に入り込んだ。朝々一二分の雪をのこす八甲田の山々の額にかゝる冠の玉の様にのぼる太陽は、山と山とに目途を封せられた平野に大きな半圓を畫して、夕は津輕富士の山麓に落ちてゆく。寸と伸びた落葉松の緑が群青の様に、冬を越した常綠樹の黒きまでに堅ばんだ梢々の間に色どる頃となれば、天空にかゝるとも見える高い雷樹の枯葉に似た芽もめぐみ、櫻や梅もねぼけた朝の様な物はづかしさを押しこらえた様に臆病らしく梢をゆ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

るぐ。平野の黒土は冬中の餓をこの時にとばかり天空にわたる太陽に迎合しながらその光と熱とを力一杯にすい込めば、人々は平ばつた額に健康な林檎の色を漲らせて土と光の交渉を始める。近頃めつきりと多くなつた開墾地の林檎畠にその頃一心にはたらくのは木を消毒して害虫の卵を除いたり、根に肥料をあたへて來る秋の收穫を土と約するのである。二日三日と拭ひ清めた青磁の様な空をした天氣がつゞくと、そこの庭かしこの池邊に珍らしく植えられた櫻や梅や海棠や凡て花ある木の莟がポツツ〳〵とふくらみ初める。岩木山を背景に町にのぞむ城趾の公園には、逸早く頂上の雪が一片々々とこんで來て梢に宿つたもの丶様に。花の一輪々々が一日々々の暖かさを運んで咲く。

その頃にもなると、四月に初めて上つて來て珍らしさと物慣れなさとにいぢけかへつて居たお芳の友達も、もう皆元氣になつて來た。冬の束縛からたゝれた寒國の娘達はあわたゞしく來て去る春と夏との香をたのしんで、鳩の様に身輕く雲雀の様に樂しく、地には若葉空に琉璃色の日光のみちみつ氣候に身も心もあはせて遊ぶ。二人仲よく向きあつて氣持よくあがるブランコにのる人達は長い綱の一ゆれ〳〵に上になつたり下になつたり一轉一下の間にも唇と唇とを合はせる様に囁き入る。流動木の滑らかな表面に手を組み合はせて生え出た様に梶をとる人、テニスコートには氣壓の高い乾噪した春空にポーンと氣味よくはねるボールの音も賑はしい。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

こんな時にもお芳はひとり離れて運動場の隅にかぢこまつた。六百坪あまりの運動場はその人數には廣すぎた。生徒達の足はテニスのコートを中心としてその周圍に圓を畫いた範圍よりは出なかつた。それ故に秋枯れの氣候が來るまでは公園の方に境するあたりの草は苅られもせず夏には人丈近くも伸びて行つた。その間々には楢、櫟、白樺、あかしやや栗の樹とした並木が枝を廣げて根生には斑點のついた熊笹が一杯にしげつて、その間には蕗や、三ッ葉などを植え散らしてあつた。

運動場と垣一重を隔てゝ小さな川が南に流れた。高地になつた運動場からのゆるい傾斜に小門を通じて何時とはなしに道が出來て、校園の手入れの時には皆が如露に水を運びに來たり、手入れのあとでは鋤や草取鎌などを洗ひに折々下りて來た。そこにも腰程ある笹が一杯で、高い栗の大木の下には小さな池もあつて、そこには河骨の青蛙の脣の様に滑らかなどす青い葉の蔭に、その古池の眼の様な黄い花がポッリ／＼と咲いて居て、沼の岸近くでは菖蒲が濃い紫の花を匂はせた。

その邊の人目に遠い籔蔭の熊笹の中はお芳の隱れ家となつた。そこに仲々とねそべつては白い雲が紺碧の空を流るゝ空を眺めて、鳥の行方を考へたり、又時には雲行も荒々しく下へ／＼と降りて來る氣壓を見て、それが不際限に下に／＼と下りて來て遂に人間の呼吸を一の勞役と化する日のありはしないかなどゝ想像して見たりした。蟻やその外の昆蟲はたえずお芳の手や足や着物や袴を這ひ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

まはつて、土や草の根と同じ自分達の廣場の様に勝手に振舞つた。

お芳にはさうして居るのが一番氣持がよかつた、コセ〳〵と教室の中に這入つて居る間は何かかう押えつけられる様に感じて始終いはれのない不安にかられるのであつたが、そこにかうジーッと草の中に倒れて居ると何とも云へない心地のいゝそして少しも意外な所に居る様に感じないで恰度そこの近所にある栗の木の様に實生からそこに生れて池の水氣をすい熊笹の下草を食つて生きてるものゝ様に何とも云へぬ調和を見るのであつた。

かうしてある日の正午、お芳はそこに横だはつたまゝ寢入つて終つた、ガン〳〵となる鐘の音はどこかでなつた様にも思つたがそれは遠い〳〵他所の國の鳴物がひゞく様な氣がしてねむりはさめなかつた。イラ〳〵と輝りつけて居た陽が落ちて涼しい風が櫟の梢をザアと拂ふ音にさめた時には可成な時間がたつて終つて居た。お芳が云つた様な云譯は擔任の英語教師にはそのまゝに受けとられることではなかつた。

「なぜ皆さんと一所になつて遊ばないのです。そんな所に一人ぢつとしてたりしてはいけません」

ウロン臭い鼻笑ひを隣の音樂の教師と交しつゝ面はゆくて頭が上げられぬお芳のしなやかな肩付から頸筋のあたりをねめつけた。手に入つた鼠をもてあそぶ猫の様な殘忍さが快心らしい口元にた

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

ゞよふ肉のそよぎにかくせ終へなかつた。

それからは短い放課時間にもお芳は自分の影を求める敎師の眼に幾度も出あつた。唯一の隠れ家とした栗の蔭もあばかれて終つてそれからは巣をこわされた小鳥の様に碇をぬかれた小舟の様に止る所なくてウロ〳〵と運動場を隅から隅に人のさまたげとならぬ様に氣をいらたゝせながら歩いて居た。

學校の歸途に、お芳はよく連立つ様になる友達を外してはさきにかへして獨りで城趾の公園をさまよふた。幾百本とも知れぬ大きな松の並木がそこゝに群つて居て、それには無數の小鳥が騒がしくとまり木を爭つて居た、本丸跡の芝生の一隅には陳列場もあつて、領主の歴史の一部がそこに展げられた。內濠にはどこからとも知れず通ふ水が今もたゝえて花の散る頃などは美しい花船がそこゝによどんで居た。切下しになつた險阻からは扇形の大きな池に向はれて、その池の中には蓮の枯葉がすかされて見えたり、大きな漆の幹がさしかゝつて居たりした。

岩木山が正面に見える青草の上に書物の包みをおいていつまでも〳〵チーッとしてそこに座つて居ることなどあつた。山にはよく雲が集つては散り去つた。南から來るのは白かつた。北からサタンの翼の様にひろがつてくる雲は暗かつた。又空が碧色にすんだ時は煙つた様に白く、落日の名殘の光

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

で萌黄色になつたり、時には黑ずんだ灰色になつてさんだりした。
お芳がよく選んだ場所は、公園の林と林との間を區切る椿の小さな蔭になつて居て、公園をぬけて通る人の目にもかゝらなかつた。靑臭い草のいきれが氣持よく鼻を襲ふて梢には鶯がないたり近くの森のあたりでは閑古鳥の仙人の樣な鳴き聲も聞えたりした。そんな所に居るとお芳は失つたものゝ間にかへつて來た樣なのんびりとした氣持になつて近くに咲きみだるゝクローバの花や孔雀草、たんぽゝ、小櫻草、野すみれの花を集めて來ては冠をこしらえて組んでたらした自分の髮の上にのつけては、靑白い自分の細長い顏の上にしつくりと輪をかく花の冠を想像して見たりした。
野鳩はきらびやかな翼をかわして群れとんで、doo, doo, と鳴きわたつた、公園の西南の城門には巢でもあるらしく必ず二三羽の鳩が飛び廻つて居た。その門を「鳩の門」とお芳は獨でよんで居た。
その日も氣持よく午後をそこに過して獨りその門をくゞつて來た。いつも見る白い鳩は高くとんで屋根には黑の斑點のある兄弟の樣なのが二羽頻に嘴をならして居た。そこまで來るとお芳の足はピツタリと止つて終つた。二羽の鳩が何か自分に話し度くてたまらないで居る樣な氣がわけもなくしだした。そしてそこの道傍の草の上にポンヤリとたつて居るのを散歩に來合はした英語の敎師は目ざとく見付け出した。お芳が氣がついて敎師の上を見た時には旣におそかつた。蛇に見入られた蛙

の様に身を犯さぬ毒の香が、既につよい眼の輝きから通じられたのを感ずるとさう〳〵ドギマギとして會釋もすることは出來なかつた。

そのあけの日お芳は主席の敎師から敎員室に呼ばれて行つた。

「あなたは學校のかへりによく途中で遊んでかへる様だがほんとうか、ウーム」

瘠せて血色の悪い敎師は片手を机の上において片手は椅子の後にのせて首をねぢまげた。古いフロックの縁はすれて光つて、カラーは油がにじんで黄くなつて居た。

「はあ………」

「ウームさうか、そして遊ぶ時には何處で遊ぶのか」

「公園の林の中で遊びす」

「林の中の、ウーム、そして何をして遊ぶのか」

「何もしやしません、だけんど時には花を摘んだりします」

「それであなたは、何か、うちに早く歸つて何か家の手傳だね、例へば庭の掃除をするとか、又お母さんなり姉さんなりの臺所のことをしてたすけたりする様な用はないのかウーム」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

「そんな用は八重様さあ、姉さんがしてくれますはで何もしません」

恰度午休みで皆の敎師はその敎員室に集つて居た。新聞よむ者もあり、窓口に立つて話す人もあり、又何か答案をなほして居る人もあつた。隣りの席の地歴の敎師は時々老眼の眼鏡越しに仔細にお芳をヂロ〳〵と見て居た。

お芳はもう射すくめられた樣になつて終つて何も考へることは出來なくなつて終つた何も叱られる樣なことはして居ないがさうやつて物々しく取り調べされることの情なくなつて來てシク〳〵と泣き出した。

「ウーム、泣かなくつてもいゝ。だがね、この學校のかへりにそんなに遊んで歩るくことは學校の風儀上大にいけないことゝなるから、以後は決してそんなことをして貰はぬ樣にせんと困る、女は從順にしておとなしく家に居るべきもので決してさうボカ〳〵と自分が氣に入つたからと云つて歩くものではない、もう女學校に入る樣になれば子供とは世の中の見る眼も異なつて來ると云ふものだ、よく氣をつけんといかんぞ」

よろしいと云はれてかへつてからも敎場に入つてひとりでないて居た。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

お芳にはこの頃世の中が貧しく見えて來た。もう栗の木の蔭で休むことも出來なくなつた。樂しい夏になつたからと云つて、公園に青草の上で雲の群り集る津輕富士を存分に見ることも出來なくなつた。そして學校がすむとすぐにかへつて來てうすぐらい納戸の隅においた机の前にいつまでも座つて居るのが常であつた。

それと共に今迄もつて居た落付がなくなつて、今迄の樣に二時間でも三時間でもヂーッと座つたまゝで居て、木の葉と木の葉との間にとり交はされる話を考へて見たり、雲と雲とをある大きな動物と見てそれとそれとが共に走つたり道を爭つたり片々が片々の尾をくわえてあばれたりすることを想像して見たり、又自分に鳥の樣な羽が生えて自由に空中がとべて見知らぬ國々を飛び廻つて、いろ〳〵な珍らしい目をするよろこばしさを考へて見ることだの、これまでは一番のたのしみであつて、どんなにつらい目をする時でもその樂しみの時間のあるのを考へてうれしかつたのが、今ではもう見かへすことの出來ないものとなつて終つたと思はれた。

一枚々々と羽をもぎとられた鳥の樣に、ヂーッと身動きもならずにうづくまつて居るのがそのまゝに自分の現在の樣にも思はれた。

「芳ッ子はどうしたべな、いちんち部屋の中さ入つた切ではあ、少しは出て散歩でもして來なせや」

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

姉は時々から云つてお芳を送り出した。

ブラ〳〵と林のほとりの道をゆくことなどあつた。眞白な裏葉をかへす白樺の木は風があたる度にサア〳〵と雨のふる樣な音をたてた。もうあかしやには藤に似た短い白い花が一杯についてそれが藤にもばらにも似た樣な好い香を郊外のあたりにはみちみたせて居た。

もう追々白い袋に入れられ樣とする林檎の實は、花が開いた時の花瓣の裏にうす赤い位な紅味が、親指の頭位な果物にもついて、それが青い葉の間々から覗き出して居た。

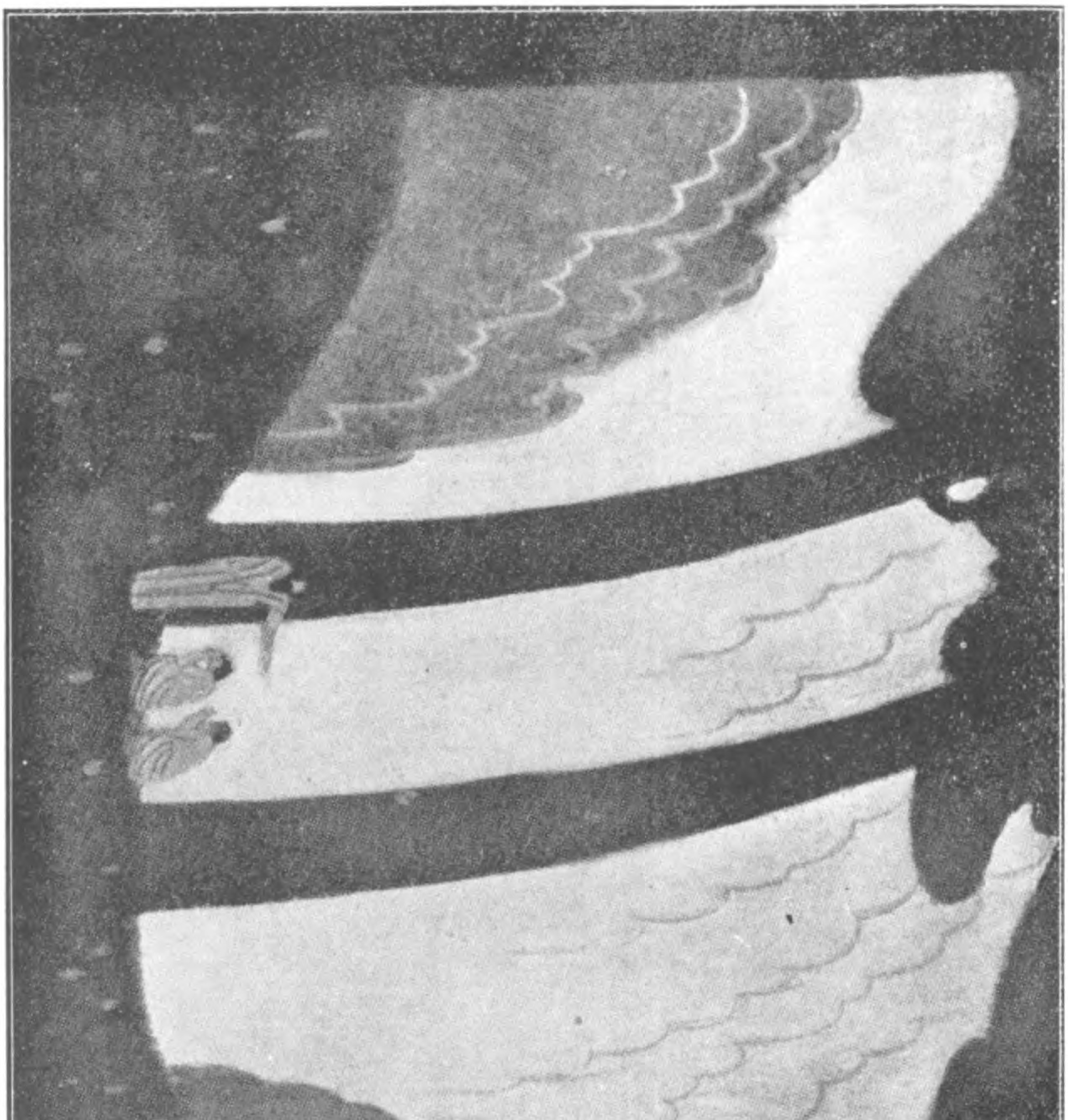
銀鈴をふる樣な河鹿のなくのもはるかな向ふの大川の邊から聞かれた。

以前ならばイソ〳〵として平野を吹いて來る風を、胸にみちあふれるほど吸ひ込んで、青い草の上などにねころんだまゝ樣々な形を示しながら雲の集る岩木山の麓に落ちてゆく太陽を見送つて、すみ切つて一片のちぎれ雲も浮ばぬ深い碧色の空にかゝる月を迎えたものであつたが、近頃は何となく眼に見えぬ恐ろしいものゝ力が、自分の後にせまつて居る樣なあはたゞしさを何時も感じるのであつた。何か人間の目には見えぬほどに細い幾萬とも知れぬ針がたえ間もなく自分の背中のあたりを突ついて居る樣で、立ち止ることは出來ず、と云つて又どこをどう行かうと云ふ處もなかつた。又時とするとその林の中などを歩いて居るときにフッと見返つた木立の暗がりに意地惡く光る眼鏡の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Act I., Scene I.—Sacred Wood and Lake.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

下の目がピカリと見えたりする樣に思はれた。

張り廣がつた翼から一枚々々と羽をはぎとる樣に、自分の自由と喜悅とを奪ひ去つた人に對しての惡しみは、身體中の毛の穴が一ッ一ッに毛を逆立てる樣にもあつたが、恐怖を通して起る愛情が何時とは知らずお芳の心には根ざしがつよくなつて行つて、不熟な果物をたゝき潰す樣な思をして自分をいぢめて嫌な英語もさらへて行つた。

その眼鏡の眼はさうした場合丈でなく何時もつきまとふて、お芳の後からは切り去ることの出來ぬ陰の樣に思はれた。その陰には混亂した時代の過失が巢くつて居た。

お八重は春以來お芳の心神が砂におとろえて行くのを怪しんだ。夜など暗いランプの光を分けてお八重が縫物する傍に地理や歷史や數學や、淚を流しながらも英語の字などを書いてるのを見て自分も淚を流した。

「ほんに學校さ出る人もつらかつぺな」

と云つていたはつた。かうやつて一日々々と細くなつてゆくお芳の姿を見ると、いつそ學校も下げて終はふかとも考へて見たが、自分のそれまでにもり育てゝ來た夢をすてることは出來なかつた。そ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

れで只一ッの方法に未來のいろ〳〵な希望を語つてきかせた。

二三年前に、たつた一人の子供を殺した若い將校の細君とフトしたことからお八重は懇意になつた。寺附の可成廣い畑を越して、門前に白樺の若木の幹を惜げもなくチョン切つてはたきの先の樣にした門の立つた檜の生垣にまかれて、上方造りの家があつた。快活な青年士官の夫婦は東京から連れて來た婆やと暢氣にくらして居た。紫露草のポッチリとした黄ろい蕋の樣に、すみ切つた瞳をもつた細君は外出しない時にはよくその多い毛をぼんのくぼの處にたれて前には小さな櫛をさしたまゝで居た。始終何かせわしく本を調べたりして居て、晩方將校がかへつて來たあとでは高い聲を出して話したり、花畑の手入れなどもして居た。冬になると終日炬燵の側に机を出して來て本などよんだり寢ころんで林檎などを嚙つて居たりした。朝夕來る從卒に畑の雪の上に水を流させて氷らせてマントのまゝで自由自在に辷つたりした。時には二人が手を連らねて鳥の樣に辷ることなどあつた。ワーッと云ふ笑聲が畑を通して寂しい寺の本堂にグワーンと響いたりした。

その細君にお八重は妙に可愛がられた。冬など朝仕舞のあとなどに一寸雪の間を行くとよくよろこんでくれて炬燵に一所に入れてはやぐらの上に東京から來た珍らしい菓子など出してくれた。そしていろ〳〵な繪を見せては話しもしてくれた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ある時細君は自分の生れ故郷の話をしてくれた。

それはある冬の日の午後であつた。ふりつゞいた雪が積りに積つて田も畑も家も川も凡て單一な白で蔽はれて終つて、その間々に穴を穿つて人は息をついて居た。時々思い出した様に岩木山下ろしの西風が吹いて來て 決死の勇士の様な木の枝は上手な玉乘の業の様にサーッと雪を掃ひ損ねてはポキリと折れる音など物凄く聞えて、時々雪靴で歩るく男だの街道の方を橇を引いた馬の通る鈴など乾燥し切つた空氣の中にぬき通る様に聞えて居た。

妻君は黒襟のかゝつた黄八丈の古い袢天の下に横の入つた大柄な紡績を來てその下からはもえる様な萠黄色の半襟をのぞかせて、スッポリと炬燵蒲團の中に入つて居た。洗髮のまゝな髮を眞中でわけて編んで下げて、その先は黒い布でくゝつてあつた。丸い額には伸びつかないねこ毛がモヤ〳〵と散つて居るのがこの人を若々とさせてボーッと赤んだ頬の上に一杯な甘味を含んだ葡萄の實の様に濕みをもつた眼が、吸い付いてやり度いほど可愛かつた。

お仕事の手を止め〳〵して細君の話にきゝとれて居た婆やは熱いコヽアなどを入れてくれた。

南にあたる久渡寺山のずーつと向ふに海を渡つて行く處が妻君の生れ故郷であつた。そこには年

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

中雪がふることはなく、冬になつてバラ〳〵とでもふることがあつたら、子供達は珍らしがつて羽織の裏をかへして雪を集めてよろこんで居た。

太陽は何時もアカ〳〵と照つて年の大部分は青い々々木の葉が見られた。そこには櫻や梅や桃や春咲く花が多くて大手をひろげた樣な芭蕉、トゲ〳〵しい蘇鐵、中空に城を築いた樣な椰子の木などが茂つて居て、香りの高い熱帶の木の實は夏の日光を一杯に吸つて、枝もタワヽになり下つて居た。海には冬も湯の樣に熱く硯の水の樣にどす黑い潮が南から流れて來て、人々は車を引く代りに舟を操つて港から港、町から町と潮に乘つて漕ぎ歩いた。人間が牛馬の樣に手と足とで歩き廻つて掘り出して來る金山や、目から口から鼻から黑い土の香を吸ひ込んで立ち枯の若木の樣に倒れ行く坑山の話もあつた。

そこにも樂しさと苦しさとは繩の樣により合はされて居るとは云へ、かうして行きつまつた病人の樣に自然の迫害に小さくなつてわずかに四五ケ月の月日を生命に暮らす國より外に、さうした自由な放縱な國々の存在はうれしかつた。

將校達は間もなく轉任になつて寺近くの家をたヽんで又二人で東京にかへつて行つたのであつたが、その頃になつてお八重はその日の話と印象をまざ〳〵と見返へることが多くなつて行つた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

お芳が明日の預習を終つて、チヽともゆる洋燈のどす赤い光をヂーッと見詰めて居たり、休み日などうす暗い本堂の椽端に腰かけてシト〳〵と降る雨を眺めて居たりする日など、お八重は必ずよつて行つてその話をくりかへした。そして油蟲のついた花の樣に固くいぢけて終つたお芳の心に、暖かい希望をなげ入れて生々とした力をもたせ樣とした。然しお芳はその話は只遠い自分達が住むことをゆるされない國の物語の樣にして聞いて居た。夢にこそ行つて見たいとは思へ、そこに自分達が住め樣とは思へなかつた。

劍と劍とが火花を散らす樣な爭がお芳の身體のうちには起る樣であつた、血が妙に高鳴して血管の端から端を白金の糸の樣に細い鋭いものが傳はる樣な氣持がした、不定な血は諸所々々にむらがつて、急に頰に集つたり、耳を遠くしたり、眼を霞めたり、又緊張した手や足を靑いみヽずのヽたくつた樣になつて走り廻つたりした。

ある朝起き上つた時に頭は重かつた。血は逆なりして眼はまぶしくてあけられなかつた。

蒼白い恐怖に黑くなつた姉がワナ〳〵とふるふ手で無理にあけて見た時に眼球の上には反射鏡をくもらすよな薄い膜がかヽつて居た。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ソーッと眼を閉ぢさせておいて走り出たお八重は、廊下までくると我とわが兩鬢の髮の毛をむしり取つた。人々の恐怖はかうして形をもつて來たのであつた。

「芳ッ子もおかあさの眼病にかゝりしたぞねし」

お八重は圍爐裡の側に座つた父の後に座つた。チーッと物を見据えることに慣れた父親の顔にもサッと云はれぬ恐怖の黒い波がとほつて行つた。「ウーン」と云ふ苦痛の聲が血反吐の様に重たい色をして音もしない庫裡の天井に響いた。野鼠は狡猾らしく流元からお芳の顔をうかゞつた。

お八重はその日は一日御飯もたべずにウロ〳〵として居た。時々部屋に入つて行つては永久に塞がれた妹の眼をあたつて見た。

父親も本堂の部屋に入つた切り出て來る樣子もなく、老婆は相變らず終日何か云ひながら物の怪のついた蔭の樣にお芳の部屋の前を行つたりきたりして居た。

うす暗い部屋の床の中に仰向けになつてお芳はチーッと横はつた。血も集る所に集つて騷亂もたへて終つてからは今迄後からせめ立てゝ居た針の樣なものゝ影もなくなり、恐しく暗い平靜が心の上にも來た。自分にかうした暗い運命を運んで來た樣に思はれる鋭い眼鏡のきらめきでさへも、も

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

う自分とは遠くに隔つて終つた樣で、今新たに入つた暗黑の世界が、なれ〳〵しくも安らかに自分の全體をかこんで、久しく失つて居た平安にすつぽりさまかれた樣に、血の騷亂の疲の後で晝夜をわかたぬ深い眠りに落ちて行つた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

海外通信

O・P・Q

古代の女子の權利。アシリアとバビロンでは女子の權利が頗る尊重せられた。妻が里方から持つて來た財產はすぐに永久に妻の所有として確保せられた。離婚は容易に出來ぬことになつてゐた。但し所謂「奔つた妻」(奸通)は夫が即時に離婚することが來出た。(デリッツの演說。)

髮。オペラ・コミックへ綠色の假髮を着けて往つた女がある。見物一同に笑はれて「馬鹿」と一聲罵つて席を起つて歸つた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ニイルス・キエルの脚本。クリスチアニアで上場せられた「多幸なる選擧」は彌縫政治家チエリウスが妻と選擧を爭つて、妻に負ける筋である。ノルエイでは女子は議員になられる。只大臣になられぬだけである。

避妊。ドイツの特許法は避妊の濫用を防ぐ方針で作つてあつたが、改正案は絶對的にこれを防止する方針に從ふことになつた。

神學。ベルリン大學の神學科では女子にリチエンアアトの稱號を與へ得ることにした。

高等學校。ミユンヘンに女子ギムナアジウム(高等學校)が立つ。

敎授。プラハ(ホンガリイ)女子師範學校の敎員 Marie Inwald はプロフエツワルの稱號を許された。

伶人。ロンドンのオルケストルに始て女子が入れられた。ヘンリイ・ヴウドを戴いてゐる團體である。

市會議員。スエエデンでは二箇所に女子の市會議員が出來た。ヘルシングボルクの Leonie Deshayes とヘルニヨサンドの Ulla Schmidt とである。

女中。女中に不自由をするのは、現今開明諸國一般の現象であるが、ロシア丈はまだ女中が從順でゐる。尤一九〇年以前「お前」(汝)と呼ぶことは出來なくなつた。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

監獄の宣教師。 タワステフフス（フィンランド）の監獄では女子の宣教師を任用した。名は Wendla Ivaska である。

市會議員選擧權。 ロシア領ボオランドでは地面家作を有する女子の戸主に市會議員選擧權を與へた。

Eleonore Wilson. 脚本「秘蹟」を書いて上場して、自分で主人公に扮した。小鳥を殺す悪習を攻撃した作である。作者はアメリカ大統領の娘である。

女子選擧權問題國際會議。 一九一五年にベルリンで開かれる筈で、Merie Stritt が準備の方法を講じてゐる。

Sarah Bernhardt. ユニエルシテエ・デ・ザンナアルで劇に關する講話を數回催した。此女には一老媼として講壇に立つても、人を引き付ける力がある。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

斷章

八木さわ子

一

その夕暮の雲の色
むらさきふかき雲のいろ。
その夕暮のわが思ひ
君をこふてふ我がおもひ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

二

ある時はフリジアの淺き香(かほり)に
君をこふ思ひをそゝり、
ある時は白百合の清き香に
聖堂のマリアを思ふ。

三

けふの日も泣きわびて
わが庭に小雨はそゝぐ。
今日の日も泣きぬれて
わが庭にすみれはなげく。

四

朝(あした)なり、日はあたゝかく輝きて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

わが心あえかにうたふ。
夕(ゆふべ)なり、日はさびしくくもりて
わがこゝろかすかにふるふ。

五

ゆく春の森の小鳥
かゝやかにわが世をうたひ、
わが胸のうれひの小鳥
わかき日のなげきにふるふ。

六

かの君は
しらゆりのしなよきをめで
われは鈴蘭

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

その花の香のよきをめづ。

七

あけがたのうすらあかりに
ほの白ううのはなにほひ、
うすらさす窓の明りに
聖壇のしろばらにほふ。

八

あはれ、泣くとしもなく
打ちなげくわが思ひ。
あはれ、こふとしもなく
君をこふわがこゝろ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Cの競争者

尾竹一枝

この短い話はCのラヴストリーのなかの小さな挿話（エピソード）に過ぎない。けれども私がこの挿話（エピソード）を殊更面白い小說ぢみたCの半生の樣々の物語のなかゝら好んでこゝに有つて來たことについては不思議な「時」があつたのだ。それはCのこの挿話（エピソード）を私に話した日と時刻としかも月から夜の色合までがCのこれから話すことのC自身の挿話（エピソード）が終えた時間と少しも相違してなかつたことなのだ。話の終えたあとでCはそれを知つてひどく恐ろしそうにしてゐた。私もなにかの因緣のように決めて怖いことに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

思つた。

話の事實は極く單純なものではあるけれど、C自身にとつては可成り強い記憶とそれに關しての苦痛をもつて眞面目に語り終つた。私は自分の勝手からC自身を「私」と云ふ代名詞で話をしてゆく。

どんな場合でも自分對競爭者の間には充實しきつた「時間」と「力」と「勢力」と「才智」が必要なものですね。そして自分と對してくる競爭者があると云ふ事は妙に自分にない「力」なり「才智」を出したがつてゐけない。ことに私のやうな馬鹿氣た場所にまで神經質な意地をつくものには或る程度までそれが爲に自分のすべてを、勝利者になつた瞬間に自身自に破壞してしまう事實が可成り繰返されてゐるやうです。私の失敗の場合は多く戀愛に關してのことですけれど。そして私は競爭者が戀愛の場合に於て求められた時にはどうしたものですか出來るたけの無理を我儘して、我儘してもう、眼前に破壞が自分を見守つてゐることを承知してゐ乍らも最後の競爭に必つと勝利者として立つてゐなければ息をつくことが出來ない人間なのです。それで又私は多くの經驗をかへりみてもいつでも私が勝利者であることを知ります。

それでこんな事實がよくあります。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

友人なら友人が或る女に戀してゐる。そうした場合に自分も立會つてゐた時、ふと私にはこんな好奇心が起るのです。この人の戀愛の對照物に私を愛させてみせやう、この人より早く私を愛してしまふやうに。こうした考へは事實に於て幾度か實現されてきました、それだけに私は私の好奇心を放任してゐました、そして私のそのことに於ての力を惡いとは知りつゝ信じるようになり、それについては益々技巧が巧妙になつてきました。

こんな考へを有つた場合は勿調私が相手の愛人に戀をしてゐる心持なぞ空ない筈です。その時私はどうしても最後の勝利者になつてみたいばかしに競爭者と對さなければならないのです。對した以上はさつきいつた樣な理からしてどうしても勝利者になる。そのために、あとになつてはじめはなんでもなかつた女に對してその最後になつては獲た戀人に私が思はぬ深入りをしてゐてどうにもこうにもならない羽目に自分を落してゐることが有ります。

思つてみれば隨分私は遊戲的分子の多い人間ですね。又そうした惡い結果を知つてゐながら、そんな事柄から遠のくことの出來ない自分を不思議に思います。

この話もやつぱりそうなんです。併しこの競爭者の有つてゐた女の人は私も大變に好きな人でし

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

たから事實の結果がこうまで苦しいことになつたのも眞當のことだろうと思ひます。そう思つて自分を慰めてゐますよ。

私がまだ學校にゐた頃でした。そうですね、丁度十八の時の事です。今いつたように、ちよつとしたことから思ひがけなく愛の爲に競爭して自分が勝利者になつた瞬間にそれまでの色々の無理が破裂して私の幼い罪惡が正直に私の兩親なり受持敎師の前に搬ばれたのです。それがために私は死人のようになつてK市の波止場まで逃走したことがありました。

私の學校に私が二年になつた春、そりや美しい綺麗な若い音樂の先生が來ました。その春音樂學校を卒業したばかりの聲の大變にいゝ女の先生でした。その先生はソプラノがことに得意でした。

私がその先生をはじめて見たのは午後の放課時間の一ときでした。春の柔い青々した芽草のあるグラウンドの上にごろゝと横になつて西洋史のエリザベス女王のことを復習してゐたとき、本館にゆく少し小高い芝生の上をすき透るほど眞白な顔をした眼のなんとも云へない美しい、そしてだれでもを焙きつけるような眩しさをもつた背のすらつと高い、そして纎細な女の人が水色の傘を斜めにして春の午後の日光を横に切つて歩いてゆくのを見付けました。今でもですけれど、どうしたと云

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ふのですか私にはちいさな時分から美しい女の人をみることが非常に心持のよいことで、また大變に好きだつたのです。それで私の今迄の愛の對照になつてゐた人のすべては悉く美しい女ばかりでした。私の愛す人、私の戀しいと思ふ人、そしてまた、私を愛してくれる人、戀してくれる人の皆もやつぱり女の人ばかりでした。

ですから美しい綺麗な女の人と言へば私に有つてゐそうのないほど非常な注意と異常な見守り方をもつて來てゐました。

その時も私はすぐにその人のことにすつかりの注意を有ちました。そしてなんと云ふ美しい人だらうと思ひました。そしてすぐにその人が自分の周圍に近くある人でありたいと思つたのです。

その人は本館に入りました。それと同時にすぐに授業の鐘が鳴り出したので私は起上つて急いで敎室の方に歩き出したのです。併し什うしてもさつき一寸見た美しい女の人のことが頭から離れなかつたのです。そんな調子で歴史の時間は敎師の話なんか、なにひとつ頭に殘らなかつたような理です。隨分可笑しい話ですけれど。

すぐ十分の遊び時間がきました。私はすぐに本館に行きました。どうしてもその人が氣に懸つてゐ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

るので。そして事務室に入つてそれとなし傍にゐた書記にあの女の人のことを聞いたのです。
その人は今度私達の音樂の時間を受持つてくれるIと云ふ先生だつたのです。
それを聞いたとき、私の胸のなかには妙に強い動悸がしました。

その翌朝でした。私はいつもよりずつと早く學校に出ました。そしていつもするように小鳥ばかり飼つてある室にきて丁寧に小鳥どもを見てやりました。それから花壇に出かけて露のまろび出すようなサイネリヤを切つて音樂室のピヤノの上に飾つておいたのです。その頃私の學校では室を美しく飾ることを大變にすゝんで爲てゐたのです。それだけのことを爲てしまつてから私はどうか少しも早く音樂の先生がきてくれるように願つてゐたのです。

授業の始まる前に講堂でそのI先生の就任披露があつた。私にはI先生はきのふよりずつとずつと美しく見えた。そしてこんな美しい先生に敎へてもらふ私の幸福さをつくづく思つた。

日が經つにつれて私はI先生がたまらなく好きな人になりました。そしてその先生の爲ることなす事の悉くは、什んなことであつてもどれもこれもみんな私の氣に入る事ばかりでした。けれど私と

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

先生の間には特に好い機會(チャンス)がなかつたゝめ可成り長い間二人きりの親みを有つことが出來なかつたのです。

それにその頃私は下級にゐるTと云ふそりや美しい、その時分學校一の美人だと言はれてゐた人と隨分親密な間柄だつたのです。Tはどんな時でも私の傍から離れませず、私もまたTを自分の傍から離しておいたことがなかつたのです。放課後のくるたびに二人はいつも待ちくたびれたように葡萄棚の下で待ち合つてぴつたり添つて花壇にいつたり、温室のなかに行つてゐたものでした。そんな愛情が私の現在にあつたので、ひとつには自分から強いて機會(チャンス)を作ろうとはしてゐなかつたのかもしれません。

併し思ひがけない好い機會はそれから間もなく自然に與へられたのです。それは五月の中頃に學校の連中で大音樂會をやるとになつたからです。金曜日の放課後でした、小使がI先生の傳票のような手紙をもつてきました。その時私は小鳥室(べや)でTと二人で紺青色の衣裳をつけた可愛いTの飼つてゐるルリ鳥の巣を掃除してゐたのです。私はなんだろうと思つて急いでみました。それは初めて知つたI先生の鉛筆の走り書きの紙片でした。

すぐ音樂室までゐらつしやい。AさんとYさんにもそういつて下さい。みなさんすぐゐらつしやる

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ように。

私はそれが音樂會のことでだとすぐ思つたのです。Tはちよつと淋しそうな顏をしましたけれどすぐに、待つてゐますからお話がすみ次第こゝにきてくれるようにいつて二人でAとYを呼びに小鳥室(べや)を出たんです。

AもYもすぐに見付かつたので三人で音樂室まで出かけた。I先生はピヤノの傍きでこれも大變にうつくしいMと云ふ國語教師と澤山な曲譜を急しそうに小さな美しい聲で歌ひ乍らあちこち動かしてゐました。三人は素直にそして出來るだけ丁寧におじぎをしたんです。そのとき私達は私達の光榮ある役目をもう知つてゐたのでした。

I先生とM先生は優しい笑で私達を迎へてくれました。そして先生も大變に嬉しそうでした。話はやつぱり私達の知つてゐただけの事でした。私達はめい〳〵獨唱(ソロ)をやることになつたのです。そして翌日から毎日放課後と食後一時間の遊び時間を練習の時間にすることになつたのです。私はその時云い樣のない嬉しさと恥羞が胸いつぱいにこみあがつて柔な耳朶(みゝたぶ)はしきりに燃えてゐました。なによりも私はI先生を多ゝの人よりそばにゐて澤山にみることの出來るようになつたのが嬉しかつたのです。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

私の歌ふ曲はVの「騎士の愛」と云ふ大變に熱烈な戀歌でしてね、若い騎士がある美しい小娘を夏の日に田舍道を一筋にかけてゆく馬車の上で見付けて、それを戀して後を追つてある大きな木蔭で憩つてゐるところを、傍によつて樣々に、自分はお前を戀しいと云ふ、熱烈な思ひを歌ふところなんです。

その曲も歌もひどく私の好きなものでした。I先生は比較的曲の氣持をとつて熱心に歌ふ私を氣に入つてくれました。そして兩方がひどく豫期してゐたより以上の練習をして大變に氣持のいゝ日ばかり續いてゐました。

その内にだん／＼二人の間が親しさを增してきて眞暗になるまで音樂室でいろんな話を每日のやうにしてゐました。I先生は芝居の話をよく私に話してくれました。けれどその時分の私には、あんまり面白いとは思つてゐなかつたのです。たゞ出來るだけ長く二人で室にゐて話す先生をみてゐることだけで私はうれしかつたのです。

さうかうしてゐる間にTのことがだん／＼遠のいたものとして考へるやうにまでなりました。けれど全く私はその先生が好きでした。矢鱈と好きでした。今思つてみると意識しないでその人を戀し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

てゐたのかも知れませんね。だけれど自分ぢや眞當に好きなだけだと思つてゐました、すつかりTに對する心持と相違してゐたんですからね。

こんな風な日を幾日か續けてゐましたけれど私はI先生と愛の交渉をもつための殊更の努力は相手の人があんなにまで美しかつたのに仕樣とは思つてゐなかつたのです。

それがふとしたはづみで私はI先生とどうしても殊更の深い愛をもち合はなければならない樣になつてきました。私の妙な意地と不思議な好奇心がさうさせてしまつたのです。

かうなんです。やつぱり歌の練習が終へたあとでAとYと私はM先生とI先生の傍で泰西の名曲の話を餘念なく聞いてゐました。丁度五月の柔い一日の夕暮れでしてね、美しい夕日は惜氣なくその眩しい綺麗な色彩のある光線で私達を包んでゐました。とくに夕日のなかのI先生の美しさは今迄にまだみたことのない綺麗さでした。私はI先生の顔ばかりぢいつと見守つてゐました。美しい燃えるやうな先生の双の眼をだまつて見守つてゐました。そして先生の視線が私の眼にむいた時、私はいつもすばしこく傍きの方を見ます、さうして思ひがけなく先生の視線とぴつたり合つたとき、私は激しい動悸とこみあげる恥しさをI先生から見守られてしまつたやうに思つて眞紅になつてしまひま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

した。

しばらくたつてからI先生はVのムウンライトを弾きはじめました、M先生は優しい眞黑な美しい眼で曲をぢいつと見つめながらはつきりした若い男らしい聲で半分I先生の方により添つて歌つてゐました。

みんなが靜かに夕日をあびてこの名曲に醉つたり醉はされたりしてゐたとき、室の扉をノックする人がありました。

今迄の情景から押して不意にこの靜かな美しい室の柔かい密のような空氣を亂しにきたその人を恐れました。そして誰とも解らないうちに、そのノックしてゐる人がたまらなく憎い禮知らずの人の樣に思はれて非常に不愉快でした。

I先生の美しい眉もM先生のきれいな優しい眼にも私と同じやうな感情がうつされてゐました。AとYは私以上に腹立ちさうな顔つきまでしてゐたのです。

自然今迄醉ふやうに室いつぱい流れてゐる曲は消えてしまひました。そのうちに少し激しい二度目のノックがしました。

I先生は花瓶の傍きにあつた銀の鍵――それはこの室の鍵で練習の時間と談話の時間の邪魔され

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ないやうに、この室に私達が入るなりすぐピンと内から鍵をかけることになつてゐるのです――を私に渡しました。そして明けてごらんなさいといつたのです。

銀の鍵は殊に強い音をさせてゐました。私はだまつて扉を明けたのです。その人は私と同じ級のXと云ふ級きつての變人で非常にヒステリー性を帶びてゐる女なんです。私は大變にその人の闖入を不愉快に思ひました。一層小使のやうな無關係なものであれよと願つてゐたんですけれども、かうした不意の闖入者に面とむかつてしまつてはそれ以上私の感情を露骨に云ふことも現はすことも出來なかつたのです。それで私はいつになく愛嬌のない輕いおじぎをした。Xがこの室に入つた以上これ以上の邪魔な分子はもうないものと決めて銀の鍵はもう元の穴に戻さず、そのまゝ私は後戻りをしたのです。

Xは氣の毒さうな顏つきもせずに平氣な調子でI先生の後に立つた。I先生は「なにか用なの」と不審げにXを眺めた。Xはこと更の媚を作つて「いゝえ用ぢやないんですの」と、わざと私をじろ〳〵眺めながら變な目付をしたのです。私はなんともいゝやうのない、いら〳〵した心持になりました。そしていやあな氣分になつて來ました。Aは子供らしい腹立ちからちよつと舌打して妙な澁面をちらと横顏にみせました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Yは X と近しい友人であるだけに――XはYを執念深く思つてゐるのです。Yは背のすらつと高いサラ、ベルナーの容子をそつくりもつた立派な顔をもつた美しい人でした。私とYはやつぱりその頃愛の交渉をもつてゐたのです。けれどそれはまだ眞當に淡いものでした。ひとつはXの執念深いのを私が恐れてゐたと云ふより氣味惡く思つてゐたのであんまりいつでもYの傍にはゐなかつたのです。さうですYが私を愛してゐたのです。YもXの執着の強いのに少しは恐ろしさも不安さも有つてゐたやうです。けれども氣の優しい人でしたからXから無理に逃げることが出來ないまゝ可成り長い時日の間Xと接近してゐたやうです。そしてやつぱり何くれとなく大變深切にXをもてなしてゐたのです――Xの華美な頗る調和しないその日の服裝について和いだ音聲で話してゐた。かうなつてしまうとまるつきり皆の心持が違つて來て、すつかり美しい興がなくなつてしまつた。立場の異つた方面から、かうした無作法な態度に出られて騷がせられるのはどんな場合にでも不愉快なものですね。

そのうちに校舍からもグラウンドからも一つの物音も聞えて來なくなりました。夕日はすつかり海に落ちました。――音樂室の西南の窓から、すつかり遠くの海がみえるのです。朝日と夕日の時なんかそして午後の強い日ざしの時などは、その海のキラ〳〵光つてゐるのがよく見えたのです――

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Aは暫らくむつゝりしてゐたが太陽の落ちたのを知つて急に身をとりこなして「歸へりましよう」と私にいつた。私もこゝにこのまゝ居たところで私の不安や不愉快がますばかりだから滅茶々々にされた心持をつくろつて歸へることに決めた。町の方の煙突からは工場じまひの煤煙が立ち登つてゐた。

I先生はM先生に「私も戻りましよう」といつてピヤノの重い蓋をドンと下して可愛い小さな鍵をピンと氣持よくかけました。

Xは I 先生の右の手をとつてやつぱし妙な媚を造つて「私昨日も伺つたんですのに先生はまたお留守でしたのね、けふは御宅ですか」と穴の開く程先生をみて、呼びかけた。I先生は微笑んで「さうでしたつけね、きのふは可愛いお人形さんをありがとう、すつかりお禮を云ふのを忘れちまつて。今夜はもう分つてゐますからだいじようぶよ」といつたのです。その間Xはこの人の爲ならどんなことでも辭せないといつた樣な風で先生を見守つてゐましたが、その返事をきいて神經的に眉を動かせて點頭いた。

私はこの小さな短いこれだけの會話を耳にしたばかりにいつもの妙な競爭心が電光のやうな早さを以つて私の胸を走つた。私はそのためにその時分の私としちや可成り恐ろしい出來ごとを爲てし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

まふやうになつたのです。

然し私は今迄にない何やら一種名狀しがたい不安の念が別に心の隅のどつかに湧き上つてゐるのも同時に知りました。それは私がI先生に對して大變な好意——まだ戀とはいへない一種の强い愛着をもつてゐたからでしよう。

私の不安は一刻毎に募つてきました。そしてこれまでに芽んでゐる私とI先生の愛着を絕對のものに爲ると云ふ願ひよりもつと强く私はまづ競爭者にならなければならないと强い强い感情を有つてゐました。私はまあ愛の掠奪をする積りなんですね。

XがI先生を訪ねてゐやうとはそれまで少しも知らなかつたんですもの、私はすぐに大切なその競爭の用意をしなければならなかつたのです。そして可笑しいことには、そんなに遲くそのことを知つたと云ふことが甚だ私自身をも不愉快にしましたけれど又多少Xから侮辱されてゐるやうにも考へました。

とにかく今度は私は自分の癖、少くとも自分自身で不思議に思つてゐるその癖——單なる好奇心から生じた競爭者の位置だけではなく少なからぬ眞劍さを含んでゐることに氣がついてゐたゞけに私は不安を感じなければならなかつたのです。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

若くて美しい國語教師は「さあもう用がなくなつた。とつとゝ歸へるんだね」といゝながら何度も振り返つて扉の外に出ていつたのです。廊下からその足音がなくなつてからYもAも私もI先生と一所に室を出た。

街路の十字街まできたとき私は暫くだまつて立つてゐましたが、すぐに丁寧におじぎをしてAと二人でI先生と別れました。YとXはやはりその十字街を西にとつてゆきました。私は幾度か幾度か後を振り返つて數多の人の往來してゐるなかにI先生を見送りました。

Aは待ちあぐんでゐたやうに出來るだけXの惡態を感情にまかせてついてゐました。そして「これでやつと餾飮が下つた。なんといふ忌々しい變な奴なんだらう」と、ぐつと強い態度を作つて云つたのです。私はたゞI先生とXの交渉の深さばかりを様々に考へてゐたのです。今のところXがI先生にまで有つてゐる愛の量は解つてゐるにしても、大切なI先生がXに對してどの位いまでの好意をもつてゐるものだかが解らないのです。

私はI先生がXのやうな女を愛さうとはどう考へても思ひつかなかつたゞけに安心でしたけれど、それにしても屢々あゝしてI先生の家を訪問するXを思つてみると非常に落付けないのです。私は

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Act II., Scene III.—The Wilderness.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

出來るだけ大急ぎで歸へりました。Aは不思議さうに私の顔をぢいつと見つめてゐましたが、いかにも私が奇妙に沈默――私Aとは極く仲好の友人で二人が寄つて話をかゝしたことはそれまでに一度だつてなかつたのです、ですからAからみるとそれが奇妙な沈默位ひに思はれたのでしよう――をつゞけてゐるので如何にも當惑らしい顔付きをして別れてゆきました。

四五日の間私は頻りにXのことについて神經質な調べをしました。そしてXのことを友人のだれかれとなく聞いてみました。可笑しなことには私がXのことを氣にするやうになつてからXも私には絶えず注意を有つてゐたやうです。いろ〳〵の事を聞いたり調べたりしてみると思ひがけない事實まで耳に入り、また別段欲してゐない噂や事實までもたらす友人もありました。とにかくいろんな噂や話の事實は、まだはつきり解らないうちに、私をひどく苦しめたのもありましたし、私がすつかり安心してゐていゝと云ふ樣なことも敎へてくれました。その四五日の間で私の今迄の愛はすつかり形をかへてしまつたのです。私はもうどうしても私の愛を強く守らなければならなくなつてゐました。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Xは私がI先生に有つてゐる好意や愛着をたまらなく憎さうに考へてゐたらしいのです。そして私が葡萄棚の下なんかでふとI先生を見て五六の友人の群と一所にI先生と話しなんか爲てゐます――私はそんな群の内で先生をみるときにはI先生はいつも私の傍に立つて私の肩をいぢりながら華かな笑ひで私の心を顫動かせてゐるのです。私はいつでもそのときボンヤリしてゐるのです。――そんな時彼はいつも蒼白い寂しい、そしてヒステリーな顏をして恐ろしく强い眼で遠くの方で私を凝視てゐます。Xには極く少しの仲間よりなかつたのです。それでXは多くの場合たつた一人で忍び歩きをしてゐます。それが又Xの特徴だつたのです。

或日でした。私はI先生がXについて好意のあるないと云ふことを、I先生が私を愛してゐるやうなこの事實にぶつかつてから自分で容易にきめることが出來たのです。それは私が久し振りでTさ二人で窓硝子越しで美しいいろんな花の咲いてゐる小園を熟視してゐたときでした。

温室のなかゝらは紅く上氣した美しいI先生が見えました。私は急いで窓硝子を開けて美しい先生を親しげに呼びました。すぐに私の憧憬の對象である先生の瞳がやつぱり私を親しげに見つけてくれたのです。私は薔薇色をした美しい頰をもつたTに心が溶けてゆくやうに亂れてゐるI先生に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

對する私の愛着をみせることが惡いことと思つたので、つとめて元氣よく、すぐ戻るからといつて室を出ました。Tはすぐにそのことに氣がついて、大變に寂しい顏を私に見せました。私は可成り恥かしさを有つてゐました。そして狼狽してゐたやうです。

私はすぐに溫室にやつてきました。先生は大きな輝く美しい眼をぢいつと私に與へてくれた、そして優しい微笑で私の話をいち〳〵聞いてくれたのです。併し私は隨分叱りました。そしていつも先生の強い視線にぶつかつて眞紅になりました。I先生と私はその日はじめて極く溶け合つた親しい心持を双方でとりかはしたのです。I先生はいろんな花の匂ひをそれからそれと私にも匂はせ乍ら花についていの、樣々の物語りを希臘神話のなかの話のやうに私に話して聞かせました。

私は實に幸福であると思ひました。そして私の眼はよろこびの爲に輝ききつてゐました。

そのうちにI先生は窓硝子のなかで嬉しさうに生々して喋舌つたりうれしさうに笑つてゐる私をぢいつとみてゐるTを指して「きれいな人ですね、どなた?」ときいた。私はどうしたのだかI先生からTを指された時、Tの目の內に涙の見えたとき、たまらなく寂しげに悲しげに涙をおとすまゐとしてぢいつと熱くなる眼瞼を震はせてゐるTを知つたとき強く強く惡いことをしたと云ふ心が心の底まで突き滲んで仕舞つた。そして私の心臟は激しい響きをたてゝゐた。私の視線はすぐにTとぶつか

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

つた。Tはすぐに傍を向いて仕舞つたのです。

私はTに謝罪(あやま)らうと思いました。I先生は私がだまつてゐたので二度同じ問をしました。私はちよつと微笑してI先生をみて、あれは仲好しの私の可愛い羔山羊(こやぎ)ですと返事をしたんです。するとI先生は私の顔をしげしげ見て晴々した美しい顔にまるで兒をだますやうな可愛ゆげな笑をぢいつと溢れさせて「こんな可愛い赤ちやんにも仲好しの羔山羊さんがゐるんですか」といつて私の左の頬をきれいな指でちよつと觸つたのです。私はね、それつきりなにもかもがなくなつて只燃えるやうに身體中が熱くなつたのです。心臟はひどく動悸がしますし眼にはなんだか眩しい光りが見ることをさへぎつてゐるやうな強い感じがしました。さういつたなりI先生は思ひつめてでもゐるような奇麗な眼をまるで夢でもみてゐるやうにして私を見てゐました。私は夢中で顔を隱してしまつたんです。

I先生は私を抱くやうにして「私の可愛い羔山羊さん、どうしたの」私は吃驚して美しい先生を恍惚してみつめました。

間もなく午後の授業の鐘が遠くの方でなつてゐたので私とI先生は別れたのです。

Tはもうその室にはゐなかつたのです。けれど私はさつきの出來ごとですつかり惡かつ たと云ふ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

心持がなくなつてゐました。そしてTの悲しさうな瞳のことも忘れてしまつたんです。
その事があつてから私は夢中になつてI先生を愛しました。さうしてなにもかも忘れて人を戀してゐる時には又上手に自分にとつて好い機會ばかりが作られるものでしてね、私とI先生の間柄はだんだん強い愛着でひきつけられてゆきました。
そしてよくI先生は私の夢に現はれて來るやうになつたんですよ。
そのうちにXはまるで狂人のやうな荒い恐ろしい眼でいつも私を凝視てゐるやうになりました。
そしてI先生に對しての烈しい愛の欲求は火の様に舞ひ狂つてゐました。
I先生の好きなものはどんなものでも自分が持つてゐる。先生の好きな色や模様はいつでもどんな時でもXの傍に置かれたり飾られたりしてゐたのです。私はそれをみるたびに非常に不愉快でした。さうしてI先生の好きなものをXの身體の邊りに付けたり飾らせておくことは自分が負けてゐるやうな侮辱されてゐるやうな、非常に心持の惡い感じを有つたのです。私はXにそんなことをだまつてさせて自分が無關心でみてゐることが堪へられなくなつたのです。隨分馬鹿な眞似をするやうで實際可笑しいでしようね、ですけれど私の妙な意地つ張りは、よしI先生がXより私を愛してゐることがはつきり解つてゐても、どうしてもさうしたことまで眞似して行屆いた勝利者にならなけれ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ば安心が出來なかつたのです。
ここで私にとつてなにより苦痛な事實が私を可成り恐れさせ心配させてゐました、それはXの家はQ町でも可成りの金持でXはそこのひとりつ兒なのです。なんでも姉さんがひとりゐたのださうですがいよいよ嫁入りの晩になつて、剃刀で自殺して裏の井戸にとび込んだのださうですよ。なんでも私にそのことを話した友人はXの家はヒステリーの遺傳があるのだとかいつてゐましたが、家ぢやそのことが有つてからXを非常に我儘に育てゝどんな無理なことでもXの要求に應じてゐたのださうです。Xの兩親はXの青白い、そして陰影のつきまとつてゐる姿をみるたびに樣々な手段でXの機嫌をかつてゐるのださうです。ですからXは勿論金錢なんか隨分派手に使つてゐました、いつでもXは級中の金持だつたのです。XがI先生にこれまでした樣々の贈物の數の多いのや、Xの身につけてゐるI先生とそつくりのものゝ豊であることは無理のない話なんです。それに私は競爭しようとして意地張つたのですから隨分心配もありますし恐ろしさもあつたのです。その頃私の父はやりつけない事業に手を出してゐたので隨分つゞけ樣に失敗ばかりしてゐたのです。自然暮し向きは不如意でないまでも、自分の小使を別に親から貰ふなんつて云ふ事は出來やう筈がなかつたのです。けれど私の兩親はなにをさして置いても私のことなら出來るだけの費用をもつてくれました。ですから

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

學校の連中で私を貧乏人の見だと思ふ人はだれもなかつたのです。最もそれには私の極く氣の大きいところと、金廻りのよいやうに見受けられるやうな私の平常からの友達交際が充分あづかつてはゐましたけれど。

そんな調子で物質の點では事實はつきりと私が敗北してゐることが自分には解つてゐたのです。それをそのまゝぢいつと我慢してゐることが出來ない私は全く惡い性分をもつてゐたのに相違がなかつたのです。私は無理に無理して隨分苦しい手段や危險な方法をもつてXと相對してゐました。そんなことを本當にやるやうになつてから、私は安心して眠つたことがあまりになかつた位ひです。どんなときでも不安がつてゐました。

私は一々あなたに正直に私のそれらのものを求めたい要求によつて生じた手段や方法をお話したいのです。けれども私はまだそれだけにはつきり今かうして面と向いてゐるとき話す勇氣がありません。私は憶病なんです。人から見ると卑劣だとか卑怯だとか云はれましようけれど、全く私はその事實を話すことが苦しいのです。それにその頃の私の幼い罪はもう忘れやう忘れやうと努力してゐる今日なんですから、どうぞ强いて聞くやうなことはしては下さらぬやう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とにかくこれだけの事は申上げておきましよう、出來ないことを我慢し無理してやつてゐる内に、私は恐ろしい罪を作つた。その罪は私が責任もつてやつてゐた級の仕事の或るものから自分ぢや返濟する氣で貸りたのだけれど、その日が來ないうちに私のしてゐたその時分にとつて恐ろしい罪が受持敎師に解つたのだ。私はその時分すうつと級の責任者であつた、それに私の級の受持敎師はひどく私を可愛がつてゐたので、それをその敎師が私にも話さぬうちに、家の兩親に內密で話しにいつたのだ。私は子供のときから妙な信念で自分に關したことの幸福にしても不幸にしても、よく豫覺をしてゐた。それで私は受持敎師が家へだまつて出かけた事を豫覺してしまつた。私はもうすべての悔ひを一時に自分自の上に引きうけて悲しんだ。そしてこんな事實が優しい嚴格な兩親の前に擴げられたとき私の兩親はどんなに嘆き、どんなに悲しみ、どんなに怒るかを知つた。私は少くとも自分のこれまでになつた經過については善意に解釋してゐた。けれどやつぱり私はなにより父親の激しい怒りを思ひ出すと氣が狂ひさうに恐ろしくなつたのです。そして私の頭腦は亂れ私の眼の光りも顔の色も眞靑だつたのです。

私は一圖に恐れ一圖に悲しんだのです。そしてもう家にはどんなことが有つても戻れない。どんなことがあつても戻つてゆくことが出來ない。そこで私はとうとう家を逃げ出して、そして、すつかり

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

立派になつてから家に戻つて兩親にお詫びしようと思つたのです。

隨分あとさきのない無茶苦茶な亂暴な大膽の話ですけれど、その時はそれが一番自分の罪を許される最も善い方法だと思はれたのです。

そこで私は自分の手許にある金を勘定してとにかくK市までゆく旅費のあることを知つたのです。それから少し考へましたがすぐに音樂室にI先生を訪ねて自分ではそれとなく長いお別れのつもりで挨拶をしました。I先生は心配さうに私の顏をぢいつとみてゐましたが、「どうかしやしないの？心持でもいけないの」といつて私の額に柔い手をあててみてくれました。私はもう悲しくて悲しくて、もうこの先生ともけふぎりで逢ふことも見ることも出來ないのだと思ひますと淚がどうしても溢れるのです。I先生は大變に心配さうにして、もう少したてば私も戻るから今日はあなたを家まで送つてあげやうとさへいつたのです。さうしてゐるうちでも私は受持敎師の戻つてくるのがひどく案じられましたので、いつもになく、先生の言葉に強くそむいて別れてきました。先生はいつものやうに「可愛い羔山羊さん、さようなら」といつてくれなかつたのです。先生はひどくひどく私の變つた容子を心配してゐたのです。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私はすぐに××教室を出ました、そして花壇のそばまできましたら受持敎師の心配さうな姿がみえたのです。私ははつとして、急いで温室にとび込んで息をつまらせて隠れてゐました。受持の敎師は青い青い顔をして本館の廊下の方にのぼつてゆきました。私は急いでそこを飛び出してすぐにU停車場にきました、時間はもう夕暮れでした。私は構内に入りました。そして切符を求めて汽車の出るまで隠れ隠れて忍んでゐました。私は人が私の擧動に不審をみつけて巡査にでも云ふのぢやないかと、はじめてのことだけに、どんなにおどおどして心配してゐたでしよう。

私は生れてからはじめて見すぼらしい、そして罪人のやうな旅をしました。私はそのときつくづく自分の兩親に對してさめざめと泣いて詫びました。Xと同じように私もただのひとり兒だつたのです。

やつと汽車が出ました。私は自分の醜い姿を忘れてほつと息をついだのです。列車のなかで私はこれからすぐしなければならない仕事や生活法を考へ出しました。そして一生懸命になつて考へてみましたけれどなにもかもすぐに用立つものがなかつたのです。

それでとにかくK市についてすぐ私は西洋人の牧師か宣敎師の家を訪ねて自分の罪をすつかり懺悔しやうと決めました。私は西洋人や牧師や宣敎師はさうした人をきつと助けてくれるものと思つ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

てゐたからです。

K市に着いたのはもう夜になつてからです。波止場の明りや港の明りは、私にすぐ自分の家を思はせました。そして夕暮の頃から夜に移つてゆく間に私がかうした場所にきてゐることを知らずに、只私の罪を悲しみ驚き怒つてゐる兩親のことがはつきり眼に浮んでくるのです。私はいくどかいくどか新しい涙が溢れました。

私はまだ夕食を知らなかつた。それがまたひどく私を悲しませた。私はあてどなく波止場に近い街をとぼとぼ歩いたのです。けれどどうしても明い街に自分を歩ませることが出來なかつたので出來るだけ眞暗い町ばかり選んで悲しい歩みを搬んでゐたのです。

自分の行衞の決まらない歩みほどなさけなく泣かされるものはないと思いましたね。私はもう涙ですつかり眼瞼を疲らせてしまつたのです。そして空腹でひどくお腹が痛んできました。私はもう聲をあげて泣きましたそして泣き乍らも一歩一歩なさけないあてもない自分の落ちつき場に近づいてゐたのです。私は知らないK市のどこをどう歩いてゐるのだかもう解らなくなつてゐました、

その晩は澄み渡つてゐたよい月夜でしてねなにもかもが悉く清らげな月の光りをあびてゐました

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

私は地面にやつぱり悲しさうにそして恐ろしさうになつてゐる自分の影法師をみてすがりつきたいほどでした。

ある十字街まできてふと自分の現在を思ひ出しました。さうしたとき私の胸は生爪をはぎとつた痛さの樣にうづきました。私の淚はもうそのときなんにもなくなつてゐました。そして眼のなかゞ只火の樣に燃えてゐました。私ほど惡い親不孝な子はどこさがしてもないのだと思ひますと、もう海にでも身を投げつけて死んででもしまはなければ詫びがかなはない樣に思いました。私は私の一生にあんなに情なくかなしかつたことはもうこれからにもないことと思つて おります。不意に私は暗い路に入つてきたやうですから、急に心づいてあちこちをみました。その町は極く靜かな町でした。そしてすつかり高いところでした。ここがK市の山手の街だと氣がつきましたとき同時にすぐ前の洋館からホテルの名を表はしたあかりをもつた男が出て來ましたので、私はなるべく異しまれないやうに落着いて、波止場の道とそしてこの邊に西洋人のゐるクリスト敎の敎會がないかときいたのです。その男は私の傍によつて私を穴のあくほどみてゐました。けれどすぐに敎へてくれました。敎會は異人がゐるかゐないか知らないがもう少しこの坂を上つてゆくと右側に海岸に添つて建てられた可なりこの山ノ手では大きな立派な敎會堂があると話してくれたのです。そして波止場はやはりそ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の教會堂に添つて下にゆけばすぐだといつて、すぐ私の側を去りました。とにかく私はその教會堂を訪ねることに決めました。私はもう空腹と疲れで、頭がぼんやりして自分がどうしてゐるのだかそんな感じはまるつきりなくなつてゐました。

教會堂はすぐみえました。尖つた高い建物の先きの十字架は月をくつきり斜にささへてゐました。鐘樓のあたりは五月の青葉がすつかりからみついてゐました。長方形の窓から赤いなつかしい灯が流れてゐました。そしてその窓から泣きたいやうな寂しい悲しい哀調を流す明笛が表に通つてきます。私はその窓の明りをみただけでもう胸が苦しく、私の家で今頃どんなに兩親が騒ぎ心配しきつて涙にくれてゐるだらうと思ひますと、きのふまでひとつ明りの下で食事をとつた私が他人のことのやうに恙まれました。

教會堂はひつそりしてゐました。私はしばらく重たい冷つこい扉の前の石段に腰をかけて考へてみたんです。そしてこの教會に日本語の出來る西洋人の宣教師か牧師がゐてくれたらどんなにか都合がいいことだのにと思ひました。私はどうしても外國人の牧師や宣教師はどうにか私をしてくれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るに違ひないと思つてゐたからです。そしてもうひとつは自分のそれまでの罪を正直に告白するのに、同じ日本人ではやつぱりつらく、恥づかしいことに思つたのです。

そこで私は立ちあがつて傍きにたててある黒の通告板の白い文字をみました。私はそこにどんな人でも外國人らしい名前がみつかつたらすぐにこの會堂を訪れやうと決めました。

外國人の名前はすぐにみつかりましたそれはもうはつきりとは覺へてゐませんが、なんでもミスター、ローレンと云ふ宣教師の名前だつたのです。私はもうそのローレンと云ふ名前をみつけただけで、その人がここにゐるのだかゐないのだかそれも見極めずにすぐその扉をノックしました。幾度も幾度も同じ場所をノックしましたがどうしたのか、只コッコッと云ふ反響が私の耳に寂しく響いてくる丈で他には何一ッも響きは得られなかつたのです。私はどうすればいゝのだろうと又石の上に腰をかけたまゝ顔を月の方にむけて考へてみました。私はその時自分の側を通つてすぐ自分のゐるそばの小路に入る人のあつたのをみて、通用門のあることを見出しました。そこで私はもう一度つとめた元氣を出してその門をくぐりました。すぐその突きあたりに玄關のやうながらんとした處がありました。そこには非常に澤山の人が集つてなにか説教會か靑年會をやつてゐるやうに私は考へました。私は案内を頼むためにベルを強くならしたのです。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

すぐに年若い學生服をきた男が出てきました。私はもう日本人が出てきたのでがつかりしました。けれども、牧師はきつと外國人だらうと思つてとにかく私は今夜はじめてこのK市にきたのですが少しお話いたしたいことがありますから牧師さんにお目にかゝらせてほしいと頼みました。その男は不審さうに私の話をだまつて聞いてゐましたが、私の言葉が消えるのを待つて、今夜は牧師さんは不在で宣教師がゐます。宣教師では如何といゝました。私は宣教師なら一層幸ひだと思ひました。私はその宣教師を洋人だと思つて、そして自分の懺悔をする順序などを考へてゐました。しばらくしてからその若い男は再び出てきて洋館の二階に通しました。その洋館は輪書が洋館作りでも内はきたない疊がしきつめてありまして、基督の十字架上の寫眞が古ぞばけた壁にはりつけてある外なにひとつの飾りのない室でした。そして比較的高い天井から明りのとんぼりした五燭位ひの電氣がさがつてゐました。私ははじめて人間らしい息がつけました。それと同時に俄に今迄ぢいと我慢に我慢してゐた空腹が一時に私を涙ぐませました。私はぢいつと胸をすらつとして座つてゐる事が什うしても出來なくなつたのです。私はお腹をすつかり折つて汚ない疊に額がすりつくやうにまでして兩手で強くお腹を押へてゐました。こんなときせめて澁茶いつぱいでも貰ふことが出來れば私はどんなにか仕合せだらうと思つて、ほろり〳〵泣きました。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

間もなく室の外にふと亂れた足音がして、すぐ戸が開きました。私はすぐに姿勢を無理して正しましたそして後を少しも振り向かず、ぢいつとして、私の背からこの室に這入つてくる外國人の宣敎師の慈悲深さうな眼と唇を考へてゐをした。

私の正面に座つた人は「お待たせしましたね」といつたのです。しかもそれが恥ずかしいことには日本人の不愉快な聲と言葉でした。私は不意のこの變つた場面に吃驚しました。そして顔をあげて挨拶をするときに、すつかり今迄の心持が消えて、全く失望してしまいました。全く、ひどく私は失望しました。そしてどうしたことかと思つて、暫くの間はどうしてもその人に口がきけなかつたのです。私はその人が日本人であつたゝめ、殊に年寄の女宣敎師であつたゝめ、そしてけちん棒の女であつたゝめ假面をかぶつて神聖な神の仕事のむしろ邪魔をしてゐる人のあつてくれたゝめ、しかもその夜私に會つてくれたゝめ、私が手强く失望したゝめに、すぐあとで私は二度と自分の生家に戻つてそして今日の私の境遇をもつてゐる事が出來たのです。

その日本人の女宣敎師はもう四十五六にもなつてゐるのでしよう、顔の皮膚は大變にあぶらぎつ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

て、そして眞赤い皮膚の色をした、見るからに宣教師らしい品格も信仰もない人でした。しかも芋虫のやうにころりつと肥つてゐまして、縫いあげた鼻の上には黒い鐵ぶちの近眼鏡をかけてゐました。私がどうしてこの人に好意がもてましよう。私は自分を何處までも悲しみましたそして恨みました。もうさうなつてしまいますと私はさつきまであれほど心から悔いてゐた私の良心をその宣教師の前にまで擴げることが已でに見失つてしまつたのです。

宣教師はつく〴〵私をみました。そして耶蘇ぢみた音調で「あなたの御用はなんですか、けふは牧師さんが御留守で御氣の毒でしたけれども私がとにかくうけ給はりましよう。なにか、神樣の思召しにでも御不審がありましたので？」私はそんな好ない宣教師らしくもない、なんの信仰もない人でしたけれど、さうした哀調じみた聲をきいたとき、やつぱり一時消えてしまつた悲しさと自分のこゝにゐる罪の後悔が涙をついて溢れました。そして胸はまたすつかり閉されてまるつきり子供のやうに、すゝりなきをしました。私はさうしなければ絶えられなかつたのです。私は自分の一句一句を自分の胸に忍び込ますやうに極く悲しさうな聲をしてそんなつまらない人の前で自分は大變にいけない罪を有つてゐる子供です。私は今迄なんの苦勞もこんな恐ろしい心配事も、こんな惡い性質も、私のよいなつかしい兩親は私に敎へもしませず又、私がかうしたことをけふまで有つてゐやうとは知らな

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

かつたのです。私はけふその罪が見付かつたので、なにより自分の罪を恐ろしがり悲しみ悔いましたけれど、それより兩親や受持教師のその怒りや悲しみを思つてみますと、どうしても家にゐることも學校にゆくことも出來ないのです。私はどうにかして、この自分の罪と醜い姿をけさなければどうしても善い心のおぎないが出來ません。それで私は今こんな不孝をしましても、きつとこれから心をよくして、美しい清い、惡いことをなにひとつしない正しい人間になつて、そして立派な人になつて、その立派なものを有つて家に戻り 私の兩親に私の先生に私の罪を詫びるつもりで、けふこゝまで 逃げてきました。私は眞當に私の罪を心から惡い、恐しい、醜いと知つてすつかり自分に悔い、神樣に謝し自分に恥じてゐます。私は今宣教師樣に助けて頂かなければ、もうどうすることも出來ないのでございます。私はもう家に歸へりたいにも、戻つてゆく事が出來ないのでございます。私はどんなことを用事や働きをしましても、決してつらひ事とも悲いこととも思ひません、一生懸命になつてやりますから、どうぞよい外國の人々の間に私を雇つて頂くやうに助けて下さいまし」私はこれだけの事をいゝ乍ら、なんども自分の悲しいみぢめな哀れつぽい聲に泣いてゐたのです。

その人は私の言葉が終るなり、私の「罪」といつた眞意を了解しぞくなつたやうです。そして私が世の中の娘と等しいゝたずら事でもして 家から逃げてきたのか、それとも親の金でも持出す 亂暴娘と

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

一所にしたらしく、私をまだ〻まつて觀察をするやうな風をみせました。

私はそれがひどく侮辱された樣な氣がしましたから私のその罪と云ふもの〻筋をはなしてみやうと思いました。けれども、これだけの單純な私の話しに、かうした場合のだれでもが必づ有つこの話のこれだけを知つたゞけで、もうこんなに私を侮辱するやうな眼付きを有つ人に、私のこれからのかなりながい間、私がこれまでになつた話をすることに、いくら努力して話し自分が眞劍に話してみても、これ以上の好意がこの宣敎師の眼に映るはずがないことを知つたので、私は矢鱈に淋しくなりました。そして只私は世間並のいたずら娘や道樂娘とはまるで違つてゐます。私はそんなことをしてゐる位ひなら、こ〻まで逃げては來ません、どうぞ私のことを誤解なさらぬやう。私は私のその罪もお話いたしたいのですけれど、それは、又、あらためて申上げる時も御座いましようといつたのです。

宣敎師は、私の不心得を私の知つてゐたゞけの個條で話しました。そして私に自分の罪を悔ひあらためやうと、そんなに決心してゐるなればすぐにこれから家にお戻りなさい。あなたのけふの悔は、より大きな罪をもう作つてゐるのです、あなたが家を逃げてきて、こ〻に來たことがそれなんです。自分の惡いと思つたことはすぐに神樣にお話して、そして神樣に救つて頂かなければなりません。あ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

なたが自分の罪を悔んで、これからよくならうときめたときは、すでに神様にあなたが救はれてゐたのです。それにあなたは、又すぐに神様にそむきました。あなたはまた家を逃げるやうな、兩親に心配をかけさすやうな、あなたのさきの罪よりも、もつと惡い罪を犯したのです。あなたが眞當に自分を惡いと思ひ、罪を犯したことを悔ひ改める心持なら、すぐにこゝからお家にお戻りなさい。さうすれば神様はあなたをきつともとより幸福な仕合せをもつて救つて下さいます。あなたの御兩親はどんなに今頃悲しんでゐらつしやるでしよう。どんなに神様に救ひを求めてゐらつしやるでしよう。あなたの怖いとか恐ろしいとか云ふ感情は救ひの上からはなんにもないことです。あなたが眞に神様から救はれたときには、さうしたことが消へる筈です。あなたの御父さんやお母さんは、今頃どんなにあなたの身體を案じてゐらつしやることでしよう。あなたは、もうすぐにこゝから戻つて、さうして神様のお胸にすがりながら安心してその今のやうな淸い心持でお歸へりなさい。世の中はあなたの思つてゐるやうにさう簡單に出來てゐるものではありません。あなたは、どうしても神様に救はれてゐるんです。あなたがこの敎會に足をむけて私にお會ひになつたのも神様の御胸によることです。私はあなたの爲にお祈りをいたしましよう。これだけとつとゝいつてすぐに額に右の手をやつてどうぞこの哀れな罪人を神様の御心によりましてお救ひ下さいますよう。この哀れな罪人も、今ひたすら

に自分の罪を神様にお詫びして、強く悔ひております。どうぞ救ひのこの者の上にあるやうに、と云ふ五分間ばかりの祈りをしてくれたのです。その間私もその人の祈りの言葉と同じことを意識せずに追つてをりました。

私はこの人の話をきいて、どうしても家に歸へらなければならないと決心しました。私はもうそれまでに弱くなつてゐました、みぢめなものになつてゐました。そしてどうして自分はこんな處まできてしまつたのだらうとつくづく兩親のために恥ぢてまたあたらしく悲しみました。

私は歸へることに決めたとき、不意にお金のことを考へました。そして氣がつきますと家に戻るには汽車賃だけで五錢不足してゐました。停車場に着いてからはいくらでも歩いて戻れますけれど、そのときの私には途中を歩くまでの勇氣は勿論元氣がなかつたのです。そこで私は正直に宣教師にそのことをはつきり話しました。私はそれより外に方法を知らなかつたのです。すると宣教師は變な顏をしました。そして私を前よりも少し疑つてきたやうです。私にはまたそれがはつきり見えるのです。私はどんなにかそれが悲しまれたでしよう。けれどかへると云ふことにはその五錢がなければ、到底だめでした。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

私はみんな自分が悪いのだと思ひましたから、なにもかも辛いことを忍びました。私は涙をいつぱい溜めて宣教師にかういつたのです。私はこの五錢のお金を頂いてゆく氣ではないのです。家に戻りましたら、すぐに御送金するつもりなのです。私はこんなことを云ふことが大變に自分を辱しめてゐるやうで悲しいのです。けれども私はこの五錢がなければ家には到底戻つてゆくことが出來ません。さうすると私はまた、暗いところに這入つてゆかなければならないのです。私は今の宣教師樣のお話ですつかり家に戻る決心をしたのです。私はまた重ねて自分を罪人に陷すことが出來ませんから。すると宣教師は自分の話したことに依つて澁々かういゝました。それでは、けふはこの教會の青年會の方々の相談會ですから、私から皆さんに一度御相談してみましよう。しばらくおまちなさい、といつてその室を出たのです。私はかうも事實は眞當にぶつかると相違してゆくものかと驚きました。私のそれまで考へてゐた耶蘇教の人と云ふとこんなものではなかつたのです。私はすつかり想像してゐた美しい耶蘇教徒が破壞されてしまつたのです。私は基督や聖マリヤの繪をあまり多くみすぎてゐました。そしてあんまり多く聖書をよまないまでも知りすぎてゐたのです。私の基督や聖マリヤは私にこんな不思議な信徒の姿をみせました。眞意を知らない信徒、そして信仰を知らない信徒を。私はすつかりさつきと違つた強いものになつてゐました。私はこの一夜によつて可成り成長してしまつた

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

のです。私のこれまでの生涯はこのことによつて、すつかり違つてきたのです。

宣教師はものゝ十五分も經つた時室に這入つてきました。そして私に銅貨で五錢くれました。宣教師はかういつたのです。今皆さんにとくと御相談しました。すると皆さんはいろ〳〵御相談になつて、とにかくこれだけ献金なすつたのです。丁度これだけ集りましたから、さしあげます、私は孤兒にでもなつたやうな寂しさを知りました。私はいくどか厚く謝してそれを私の毛糸で編んだ小さな袋に入れて、紐を強く結びました。そして家に戻りしだいきつと御返送しますといつてはじめと違つた落着いた挨拶が出來ました。私はすぐにその室を出ました、室を出るとき、私はその汚ない室にはつてある基督の十字架上の横顔を泌々とみて涙ぐみました。

宣教師は玄關まで見送つて、くれ〴〵も神様の御心にそむかないやうにといつて別れました。私はそれからすぐ停車場にきて今でやうとしてゐる列車に乗り込みました。

私はすつかり安心しました。そしていつのまにか、うとうとゝ眠つてゐたのです。

やつぱり私は自分の巣に戻りました、私はまだ〳〵親の巣のなかに眠つてゐなけりやならなかつたのですね、さうして戻つて來たものを、涙とよろこびで迎へてくれるのはやはり私の双親でした。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

私は冷い自分の家の外に座つて家のなかを見たとき聲をたてゝ泣きました。

これだけのことは、私をすつかり造りなをしました。

丁度私がK市に逃走したのが五月の九日の夜だつた。それからこつち、私に一つゞつ年がふへる毎にこの五月がくると、私にはなにかしら、大きな問題が必ずぶつかつてくる。それは不思議なことにはその五月の時から翌年の五月のその日頃まで、必ずその何かと出來る什んな出來事でもが續いてゐるのです。ですから私は五月がくると柔いこんなにいゝ月に似氣なくいろ〳〵の恐ろしい記憶や、たまらなくなつかしい思ひ出や、まだ私の眼にみることの出來ない不安を怖がるのです。私はただ、私のかうしてゐることが不思議に思へることがよく有ります。私がこんな妙にひきからまつた話をすると、あなたはきつと私がよい加減なことをいつて僞でもついてゐると思ふかも知れない、けれどこれは全くに私の陰にいつでもあることなのです。ですから私はいつでもかう思ひます。私の身の變り目は五月に決まつてゐるのだ、私はどうすると云ふこともそれに對しちや出來ずに、そのまゝまた私にくる運命をそのまゝもつて翌年の五月までゆかなければならないのだと。

西紀一九一四、四、二四

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

晩の祭物と無智な契約（斷片）

尾竹一枝

朝の祭物

神様　善い朝がまゐりました。

私は今日こそ一生懸命で私の仕事をいたします。什んなことがありましても充ちた時間を有つて私の爲すべき事にぶつかつて行きます考へるだけのことは考へてまゐります。どうぞよいことをお示

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

し下さいまし。
途中でもし悪い誘惑の惡魔が出て私を殺すやうな强さをもつて欺すやうな事があつたら、どうぞ私をお守り下さい。私が眞劍に最も忠實に自分のいろ〳〵のことを考へます上にまで――

惡魔の祭物

惡魔。なにをそんなに考へてゐる
――自分の生活だ、自分の命だ、自分の運命だ、自分の仕事だ。
惡魔。少しは解つたのか。
――汝が私を呼び出してから、なにもかもがすつかり消えてしまつた。折角自分の命の其目の掩布を取除けかけて自分自〻の裁判を始めかけてゐたのに――私はそれを遂に見失つてしまつた。
惡魔。切角のところを見失つてくれたところが俺のゐらさなんだ、汝が折角のところを見失はなきや俺が助からないのだ――汝は今朝なんかと、見るからあぶなつかしい契約をしてゐたね、ちよつと見たとき汝は俺をひどく厭がつてゐるやうだつた。それより俺がひどく怖いやうだね。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

汝は俺と戰爭でもするつもりでゐたのか。
汝のけさの契約のなかに惡魔が出てきて自分を欺す時には自分を守つてくれといつてゐたね。そんなうまい、面白い契約をどうして俺が見逃しておくものか、俺はその腰弱な汝の契約の朝(てう)ちやんと汝を呼び出してゐたのだ。汝が朝の契約のなかで俺の名を始終呼んでゐたからね。だから汝の言葉を眞似ると俺が汝を朝から殺してゐたことになるのだ。併し俺はさうぢやない。汝の腰弱いのは可哀さうだつた。恰度山羊の子のなくやうな弱い契約をひとかどその神樣つて奴が一々丁寧にきゝとつて召しあげてでもゐるやうに、すつかりいゝ氣になつてゐたことがばかに呑氣で可愛いかつたから、ちよいと汝の相手をしてゐるのだ。汝にはまだなかなか俺が恐ろしいとか怖いとかまして厭だとか云ふ力もなければ價値もないのだ。だから自然俺が汝のやうな山羊の子同様のものに「誘惑」なんてこぢやれた事をする元氣も道化じみた氣の湧いてこないことが解るはずだ。汝が俺を厭つてでもゐる位ひの奴なら少し位ひの張合ひはあるのだ。

——私は汝に出會ひたくなかつたのだ。汝の話をきくと私は腹が立つ。一々細(こまか)いことまでが氣に懸る。汝は私に恐ろしい油を飲ませる。汝はいつも嘲つてゐる。魔と誘惑を沃(そそ)いでゐる。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すぐ此處から去つて、彼方へ行け。彼方へ行け。汝は私の契約の破壞を待つてゐるのだらう。行け。

惡魔。　戰爭はしないのか。だが汝はもう契約を破壞してゐる。汝だけで——けふは暮れた。よくみろ、夜がやつてきた。ぢつとみろ、汝は俺に從つたのだ。自分の契約を棄てゝ俺の洞穴のなかに汝が晚の祭物をする時まで匿されてゐたのだ。神の名を呼べ。大聲をあげて呼べ——今日は暮れた。汝の神樣は空しく汝を惱ました。神は汝に彼自身を示さなかつた。そのかはり惡魔が汝に會つた。祈れ汝の親切な神樣に——。汝は一人殘つてゐる。

俺は汝が俺と戰爭して俺を惱ましてくれる日を待たう。

晚の祭物

神樣。

私はけさの契約を破壞しました。

僕は己の命を尋穫ず、かへつて僕を殺した惡魔を尋穫ました。僕は之をみな僕自らの弱い罪の惱ますものと告げております。僕は今日の契約を破壞しました。けれども破壞は修理し調理して再び神樣の前

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に捧げます。僕は決して、弱いものではないのです。僕は決して神に僞をついたのではありません。僕は善い朝再び神の名を誦びます。そして僕はその朝こそ眞當に一生懸命に私の仕事をいたします。この哀れな僕に神の名を稱へさせて下さい。私は神の名によつてこれだけの契約をいたします。あすこそは什んなことがありましても決して私は契約を破壞いたしません。

一九一四・四・一六

自然の仕上げと人間の仕上げ

Make に向つて自分で出來ないことを作りださうとして焦ることは、事實 *Make* と自分に益々甚しい懸隔が無限に出來てゆくばかりだ。

出來るだけ良く爲やうと願ふ心は惡いことではない。併し現はれて來る事實の最後には強い色を着た「虛榮」が仕上げをしてゐる。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

「人間」の手で作るものは巧妙で極度の纖細を有つてゐても「自然」の仕上げからみると極く不完全な粗惡な仕上げに過ぎない。

「自然」の仕上けは不思議である。微妙で巧みで神秘で完全してゐる。
「自然」の仕上げには無限の內容がある。
すべてが意味の表現だ。
「自然」の仕上げはいつも貴い仕上げばかりである。

悲しい事には、恐ろしい事には、人間は不斷に「自然」の貴い仕上げを破壞しつゝある。

自分は願ふ。
自分の內にある *Make* に近づきつゝある力と熱誠と天分と不斷の勢力が「自然」の仕上げをみるやうに貴い仕上げをもたらし、すべてに意味の表現のある、そして無限の力をもつことを。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

不合理な遊戯より起るすべてのものを最も自分は恐れてゐる。

一九一四・四・二〇・午後六時

貴い自分

貴い自分――少くも私だけは自分をさう思つて大切にしてゐる。

貴い自分には忠實な努力が必要だ。

忠實な努力に依つて仕事の完全を待つてゐる。

創意のない、想像を支配することの出來ない人間に貴い自分が有りやうがない。

賢い匂ひ

私はよくこんなことが有る。

賢いことばかりを心に有つてゐる時、私の顔は賢さうだ。すつかり賢い人になつて見える。それさ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

同じやうに私の言葉にも私の調子にもすべて賢い匂ひがつき纏つてゐるのを知つてゐる。もし私が自分をつまらなく悲しんでゐる時、そこに私は至極卑しい愚な人間になつてゐる。

一九一四・四・二〇

私は唯自分の心の命ずるまゝに自分の有つてゐる生きてゐるものだけ、生きてゆくものだけ、それだけの可能な事實を、何んな風にでも働かせてゆく覺悟と勇氣をもつて暮してゐる。

私は飽迄自分の一生を正しく信じてゐる者である。

私は私の愛する道を歩いてゆく。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

米國歌劇界

マリー

去る三月中にボストン歌劇團がシカゴ歌劇團及び倫敦のニベントガーデン歌劇團の補助を以て一大歌劇を組織して先月から巴里に於て公演して居ります其歌劇家中には當代の名手があります、スポラの部にはフランセスアルダ。マリア、バリエントンス。リナ、カヴワリエリー、エムミーデスチン、ルイサ、エドヴィナメリーガーデン。フリーダ、ヘンペル。ネリーメルバ。アリース、ニールセン。ルイサ、テトラチニー。でコントラルトウの部にはマーグリタ、ダヴワレ。マーガリタ、マツアノイアー。テノルの部にはエドラルドー、フエラリリーフチンタナ。及ジョヴソンニー、マーチネリーでありましてバリトーンの部にてはパスケールアマトウ。ヴワンニーマルコー。及アントニチ、スコツチーでマンドリア、セゲロラはバスを擔任して居ります、其コンダクトルにはフエリツス、スヴワインガートナー。ロバート、モランゾニー及ひアーサーニキシ。でして舞臺監督はジョセフ、アーガンです其公演致しまするオペラは獨、伊物です其重なる者はデ、アイステルシンガア。トリスタンイソルダ。ドンジユアン。スザンナの秘密。バリアツチー。マダム、バタフライ。トスカ。ラボヘーム及ひモンテメチーの新歌劇ラモール、ダイ、トレ、レーです、十週間の見込で巴里に乘込んだのでした、英米の巴里に滯在して居ます漫遊旅客等は大に勢援することです。

モンテメッテイーの新歌劇ラモール、ダイ、トレ、レー（三人の愛）は目今歐米に評されて居ます新歌劇でマスカニーのカヴレリヤ、ルスチカナ以來相當の評判を得つゝあるものです、三幕物で中世紀に時代を置てあります、此條は三人の王若しくは三人の封建諸侯と一人の女子との歌劇です、此三人は皆一人の女フヒチラを愛して居るので各が違つた道で愛するのです、三人は彼女の夫マンフレドウ。彼の父アーザバルドウ及フヒチラの戀人アヴイトウです、マンフレドウがフヒチラに結婚して非常にフヒチラを愛しますがフヒチラの心を得ることを得ませぬ、父のアーチバルトウが息子の名譽の爲めに努力して居ります、所がフヒチラが他の男を愛して居ることを發見しましたがフヒチラは養父の盲目を利用して一人であると隱します。

夫のマンフレドウが妻を慕ふて戰爭から歸ります之が第一幕です。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第二幕目は城壁高士問で此處にマンフレドウは其妻と別れます、其際妻に說いて彼の持つて歸つた肩掛を櫓の上で彼の兵士が見へる間は之を振つて居ることを約束します、フヒチラは義理に迫つてマンフレドウの心情を憐んで其言に從つたので愛して居るのではありませぬ、此處へアヴイドウが守衞の風をしてフヒチラの所に來るフヒチラは始め之を退けましたが終に戀人に降參してアヴイトウの抱擁の中に倒れる、此をアーチバルドウが發見する激怒の極フヒチラを締め殺します、アヴイトウは逃げます、此間マンフレドウは肩掛が見へないので狂氣の如く心配して歸り妻の屍と父が立つて居るのを見る所で幕となります。

第三幕は敎會の齋壇の前にフヒチラの屍は花輪に埋まつてコーラスの奏唱中に明くフヒチラの屍は美を發揮して居る此處へアヴイトウが來る會葬者はフヒチラの戀人の何人であるかを知る爲めに去つてしまうアヴイドウはフヒチラの唇にキッスする、アーチバルドウはフヒチラの戀人に仇せんと毒を唇に塗つて置くアヴイトウ死なんとしてもがく此處へマンフレドウが來る、アヴイトウはフヒチラを相愛して居たことを誤り今や死に惱んで居るから復讐するならば早く殺せと云ふ、マンフレドウは之を信ぜずフヒチラは矢張り彼を愛して居たことを主張してヒフチラをキッスする彼も亦將に死せんとする切那アーチバルウドはフヒチラの戀人と誤つてマンフレドウを殺す、彼は最後迄妻の記憶を辯護する。

此歌劇は三月中二度斗り紐育で公演されました、伊太利以外では始めてゞした一度はフロラー夫人とカルソーとが主役を勤めましたが一度はルクレシヤポリスがフヒチラを歌ひエドアルドフエラリーフオンタナが始めてアヴイトウを歌ひマコトウがマンフレドウ及びデダルがアーチバルドを歌つて頗る好評を得ました本年のロンドンシーヅシにはコヴエントガーデンで公演することに極まつて居るとのことです、モンニタッチーはまだ三十代で作者としては若手で前途有望な作者です、此歌劇の詩はサム、ベネリーの作です、三幕で二時間足らずで終る實に短いことはカヴロレリアと同じです。

海外消息

リッスラー

ジョンコンダを伊太利亞で見出し政府から早速佛蘭西に回復させた近事に依つて近頃佛蘭西美術學院は伊太利亞政府に貴重

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

なレオナルド、ダヴインチの自筆になれる書册の撮影を承諾した。此のダヴインチの書册を伊太利亞教育局は原稿として寫眞出版する筈。

佛蘭西ルーヴル美術館に木彫で金色を彩した美麗な日本の一佛僧の珠數をもつてゐる座像を購入した。

ルーヴル美術館のモリアンパヴキヨンの階上で故カモンド氏蒐集品を七室に分ちて陳列されてゐる。各室は美術史上の一時代一流派を網羅してゐる中世紀、日本美術、佛蘭西近代、現代美術、文藝復興期。あとの二室は古代の絨壇や小道具家具の陳列に充てられてゐる。

セザンヌ展覽會があつた。ギアルリー、ベルヌハイム、ジエンヌに陳列され、二十五枚の油繪、五十餘枚の水彩畫でセザンヌの手法に於て最も特徴を表示せるものだ。セザンヌが如何なる方法の探究家なりしかは、能く人の知るところなるが、オヴエール、シユル、オアーズの風景畫に就てはマネー、クールベーの作品と其法に於て大差なかりしと雖も、此展覽會に見る橋梁は、甚だ印象派に接近し居れり。

然れども、其技術は全くセザンヌ特有のものにして、枝の擴がれるマロニエの樹或は搖ぐが如きプツフアンの泉水に反射せる空の繪は皆並行交叉線を以て描かれ「糖菓蓋」を表はさんとして、パン、ゴツホの手法に考想し居る樣をも窺ふべし。要するに今回陳列されたる中の「男の肖像」の如きは、彼がパテを以て、形狀恰も彫刻の如く、鼻、髯を浮き立たせ、大なる筆の一抹描寫によつて、一面に於て立體と質量とを要求したるを證すべし。何處の個所をも單純化せんと用意し、而して常に人物を指示通りに描き、時には節略することもあれど、常に明るき調子のうちに、斯の如く明確に、しかも調和的に描き居れるは、即ち彼の描きし人物の圖形的構成を、手法にて說明したるものにて、又彼の水彩畫に純色を用ゐたると同時にアイダクブラツクをも用ひたるを窺ひ得可し。兎に角今回の展覽會に陳列されたる作品は、セザンヌが現代繪畫界の上に及ぼした影響を證明するに充分なりき」「美術週報佛蘭西近事」

佛蘭西猥留パキイヨン、ドマルサシで日本錦繪展覽會(六回)を開いた。初代豐國、廣重のものが大部を占めて特に日本愛好者の注意を惹いてゐる。

紐育フイフス、アベニユーのスコツト、エンドフアルス陳列館で二月二十八日から三月十四日まで、和蘭陀古大家の注目すべき作品展覧會があつた。

其の中には、レンブランド五枚、ホツベマ三枚、フランツハルス四枚、ジヤン、ステーン。ニコラ、マエス。アルベルト、コキプ。(各一枚)

レンブランドの繪は「椅子より立ち上りし若き男」「メダルを捧げたる娘」「フナルモンとポーシス」「猶太人の學生」「老婦人の肖像」。フランツ、ハルスの繪は「和蘭陀の若き貴族」「和蘭陀の若き女」「漁夫の娘」「ミシユレ、ド、ワアル」。ジヤン、ステーンのは「假想の病」マエスのは「和蘭陀の室内」コ井プのは「騎士と馬丁」ホツベマ。ルイスダエルの作は風景畫であつた。

伊太利亞ナポリの國民美術館でラハエルの作二枚發見された從來ベルジエノの弟子の作と傳へられてゐたもの。同畫は聖母マリヤと聖ジヨセフを表はしてゐる。もとシタ、デ、カステルロ等に於ける、ザン、アウグステー寺院の爲に描かれたものだ。

西班牙のグレコの三百年祭がトレドで行はれる。

大英國ブリチツシユ博物館増築工事は殆ど竣工の期に達せり落成の上はエドワード帝紀念館と命名される。現皇帝、皇后陛下臨場の上親しく開館式を擧行される。

ジヨコンド發見に就いて、佛蘭西政府は伊太利亞のジヨコンド發見に盡力した人々に感謝の意味でいろんな勳章を贈與したそうだ。

ロダンが二十年間苦心してゐた「寺院に就いての研究」が今度公刊される。ロダン自身は非常にその刊行に興味を有つてゐるそうだ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

編輯室にて

同人

櫻（さくら）若葉がすぎてゆく。私どもは五月の季節に入つゆく。牡丹の花も咲いてゐ。藤の花も若葉におはれて咲いてきた。優しい春のすみれ草は、もう春がゆく、春がゆくといつて、夕暮れのくるたびにしぼんでゆく。

哀れ優しのすみれの花よ
時がたつとて何故しぼむ

憐れ優しのすみれの花よ
春が逝くとて何故しぼむ

いとしい花のすみれ草。

番紅花の五月號を出すようになりました。雑誌營業者は創刊號から三號まで育てることはこれからの發育にまるで關係がないのだそうです。それは普通三號雑誌といつて内容や經費の點に無理をしてそこまで歩いてゆきますと三號でもう出すことが出來なくなります。それは營業者の立場から、又出版屋の立場からです。私達の番紅花は營業の方にはまるで關係がありません、勿論少しの金錢に關する事にでも立入つてゐませんから、そうした方に對しての心配がなかつたのです。けれども事實内容や衣裳のためにどの位ひ心を痛めてゐたか知れません。このことは勿論讀者對私達ではなく、私達個人がです。私達は自分達の爲によくあれ、自分達が相互着實に歩を搬んで健全なものとして育立ちたいと願つてゐるのです。私達はいつも、どうぞしてよくあらせたい。よいものが作りたい、よい仕事をやりたい。これではいけない、こんな事ぢや什うしたつていけないと不斷に思つております。雑誌の營業者がもう三號がでてあらかたの見込や週圍が解つてこれから事實の收益に走ろうとする時、そしてそれに向かつて進んでくる時、私達はまたあたらしい一歩をもつたのです。それは始からやり直すつもりで一層の努力を求め、自分達自の内に更にはげんだそして眞面目な力と天分を見出してゆかなければならないのです。私はいつも同人全體から押した努力を求めてゐます。それは私一人、同人一人一人づつの内からの努力を見出すことが出來るからです。私は私の事より話せない。そして眞實にそれより解つてゐないのです。私だけ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はこの香紅花は一號一號こうしてすこやかに號を追つてゆくことによつて必ず立派な健全なものになつてゆくことを雜誌の上からだけでもはつきり言ふ事が出來ます。香紅花が創刊されてから三號と云ふ數を得ました。私はこれから來年の五月が來るまでに、この雜誌に非常に大きな、堅固なそして立派な豐（ゆたか）さと美しい光りを見出すことをきつと自信した言葉と心で言ふことを知つております。私達は絕へず勉強しなければなりません。私達はいつも正しく眞面目に步いて、私達仲間のそして私達の「世界」に光明と力を與へてゆきたいと思ひます。

この月の表紙は富本憲吉氏の自畵自彫だつたのです。けれども色の三版だけの版木がなかつたのです。一枚の版木に三色（みいろ）あつて――それは手すりの場合でしたから――これを二千枚近く職工の手に渡して機械の仕事にするにはどうしてもだめなのです。それでもう時日もないものですから黑色―人魚の身體―だけを氏の自彫版のを使ひまして、あとの赤色――人魚の髮毛と香紅花の小さな畫と下の長い模樣――は私が彫つて見ました。それは職人に渡しますと小刀で只きれいに、氣持も面白味もなくなめたように彫られることを一寸心配した結果私にはとても手に合はないと知り乍らもやつて見ました。ですからそのために原版、原畫の心持をひどく傷めてしまつてゐるかも知れませんから、どうぞそのつもりで今度の表紙をみて頂きたいのです。赤色の香紅花と云ふ字は富本氏の版を使用してあります、青い色――タンポポの葉――の版も私がやるつもりで一二枚葉を彫つてゐましたが、どうしたはづみでしたかサラフ道具で左のたかだか指をひどい勢ひで突き切りましたので、それが爲に版木は血で汚れました、そして他の下繪を彫つてしまつたので、いづれにしても役に立たなくなりましま。それで口惜しいことでしたけれどすりあげる日が接迫して印刷所から手強く催促されてゐましたから職人の方に廻しておきました。かへすがへすも富本氏の御仕事を壞れて傷つけた事を心苦しく存じてゐます。

表紙の用紙も富本氏から鳥の子を使つてほしいとの御話しでしたので私も是非鳥の子を使ひたいと思つてゐましたけれど、それも此の間發行所の方から、あんまり鳥の子は高くて使へませんからそのおつもりで、と云ふ葉書がきたので、隨分腹が立ちました。けれどやつぱり損をすることは氣持の惡いことと思ひ直して發行所にもう一度と云ふ催促を申込みはしなかつたのです。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

扉繪は富本氏の自畵自彫です。

今度は田村さんの原稿が頂けました。おいそがしいなかから毎日のように我儘なことばかりいつてゐたので實は頂けるかどうかを心配してゐたのですけれど、この間の夜私が「Cの競爭者」をかいてゐる時、御自身でわざわざ原稿をもつてきて下さいました。私はこの近年その夜ほどまごついて、うろうろしたことがなかつたのです。

田村さんは六月にはもつといい長いものをあげますといつて下さいました。私はまたそれがひどくうれしく樂しみのことなのです。

岡田さんは四月三十四の夜七時の列車で廣島へお立ちになりました。途中いろんなところによつてゐらつしやるのだそうです。それで原稿はどんなところからかいて下さるのだか解らないだけ心待ちに待たれます。先達のおはがきに――途中どこによるかちつともゆく衞は分りませぬがとにかく原稿は御送りいたします――とありました。

きのふの朝みなと町ゆき汽車のなかゝら葉書を下さいました。

せき(驛の名)を出てしばらく桑畑の中をゆくと間もなくトンネルに這入りました。トンネルを出た汽車は美しい新綠の山の間をゆきます。又トンネルに這入りました。また出ました。

硝子窓からのぞくと見下す處に川が流れてゐる。山も川も一つも名をしらない旅、あての無い旅、ゆく手のない旅、どこまで行つていつかへつてくるのやら雲のような旅。かぶと(驛の名)につく。

みなと町ゆきの
汽車の中にて虫子

與謝野さんの原稿もこの月頂ける筈でしたけれど先達のおてがみのなかに今年二つになつてゐらつしやいます男のお兒さまが少し肺炎になりかけてゐらつしやるので夜も晝も通してそばにゐらして御心配になつてゐらつしやるのです。それで來月には「白痴の兒」と云ふ長い原稿を下さいます。私はそれがひどく嬉しく待たれます。（リツスラー）

何時か青山さんとお逢ひした時に同性戀愛のお話が出た。その時にカアペンターの說によると同性戀愛は異性間のそれより

はもつと精神的なものでそれを善い方面に導けば一方が他などんなにも感化誘導してゆけるものだなど云ふことが有つて、大變面白い見解があるとのことであつた。それをこないだお目にかゝつた時に抄譯お願ひは出來まいかと伺つたら、抄譯する位なら全譯したいとのことで今度の「中性論」となつた次第である。三號位で譯了になるわけになつて居る。でカアペンターに就て丸で何等の智識もない人々の爲に短い紹介もしていたゞくつもりで、靑山さんも一旦は御承知して下すつたのであつたけれど、〆切間際になつてのことでは有つたし、あんな偉人の紹介をサツサと片付けることは潜越に思へるし、氣持のすむ迄書けば「中性論」位の頁數になりさうなので、つまりは紹介なしにした。それでカアペンターをお知りになり度い方は石川三四郎氏譯の「哲人カアペンター」をよんでいたゞき度いとのことである。性の研究は近頃云々されて居るし、又實際これ位面白い研究はあるまいと思はれる。殊に中性の男女は近頃日本にもポツ／＼表面に現はれて來て一部の人々の間には一問題となつて居る。今カアペンターのそれについての研究を見せて貰ふことは可成興味のあることゝ思ふ。

パルシフアルの背景は近着のステーヂイアブツクからとつたものである。ステーヂイアブツクには獨逸の「劇場」と云ふ雜誌から轉載されたものである。あとの二枚は今年の初期のうちに用ゐらるゝことゝなつて居る。勿論五枚ともデザイン丈なのである。ほんとは原さんのダンスの寫眞が來て居たのだけれどそれは割に記事との連絡がされなかつたものだつたし、前號にパルシフアルの紹介があつたのでこの號に背景意匠を入れることゝにした。こんなものに於ても獨逸は羨しいほどな發達をとげて居る。英、米、佛は確に數十歩を讓らればならぬ。

病氣のゴタ／＼のうちに花も散つた。今年の春は私には花は開かなかつたも同じだ。これからは働かねばならぬ。來月あたりはラエルルツフ女史のものを紹介仕様と思つてとりかゝつて居る。

この次の號が出る頃迄には「櫻の花」を書いた福美さんは安宅安五郎氏と結婚することゝなつた。私は自分の姉妹の幸福のことの樣によろこんで居る。　（市）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄贈書籍雜誌

白樺	新思潮	早稻田文學
エゴ	心の花	ホトヽギス
音樂	蛇の舌	近代思想
假面	歌舞伎	その他
我等	塔	
青鞜	へちまの花	
創造	生活と藝術	

トルストイ作
島村抱月氏脚色　「復活」　南北社發行

「復活」はトルストイの作の中で最も宗教的な色を帶びてゐるものである。抱月氏に依つて脚色された復活は他に依つて多く見るやうに原作を傷つけてはゐない、何處までも原作の意を求めて心持よく脚色として讀ましめた。只惜むらくは女主人公カチユーシヤの言葉に於て、あまりに都合よく芝居じみさせたことである。裝釘も非常に美しいものであつた。

若山牧水氏著　「秋風の歌」　新聲社發行　定價六十五錢

「秋風の歌」は氏の昨春以來の作を輯められたもの。自序に――私の著してきた歌集に「海の聲」「獨り歌へる」「別離」「路上」「死か藝術か」「みなかみ」があつた。今また昨春以來の作數百首を輯めて本集を編んだのである。さうするたびごとに、私は不知不識のうちに小休みなく移りゆく私が生命のすがたをまのあたりに見る思ひがして、一種云ひ難い感想にとらはるるが常である。さきに歌は直ちに我そのものであつた、今でも勿論我を離れての歌は一首もない、然しその間に、單に生命の表現または陰影であるといふより、われとわが生命を批評してゐる如き傾向を生じてきたと思ふ。のみならずそれは單なる批評にとどまらずして、われとわれに對する希望や嘲笑や、要するにその向上發展を促がしてゐるものと思はれる。われとわれを生んでゆくに要する一の力であり、その道程であると謂つてよいと思ふ。本書の校正に從事してゐる間、どうしたものか私は今までになくしみじみと時のちからを感じた。刻々に來り、過ぎゆく時といふものが自分の血や肉を終始してゐるのをまざ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

まざ見てゐる如きを感じて、思はず慄然とした。さうして、顧みて自分の歌に對し今までと異つた可憐しみと力とを感じ、同時に自己に對し、歌に對し悲しい慊厭咀呪の情を覺ゆる事實に從來に見ないものがあつた。とにかく私はいまここにこの集を殘して、更に新たな歩みをつづけてゆかればならぬ。希くば留めしものに光あり、我がゆくてにも光あれと祈る。——輯められたものに「夏の日の苦惱」「秋日小情」「秋風の歌」「病院に入りたし」「秋風の海及び燈臺」「夜の歌」「さびしき周圍」がある。ことに私は「秋風の海及燈臺」のなかに少からずよい歌を求め得たことをよろこんでゐる。歌集としての裝釘はもう少しきれいにしてほしかつた。

阿部次郎氏著「三太郎の日記」 東雲堂發行 定價一圓

「三太郎の日記」は私達のひどく待たれたものであつた。そして「三太郎の日記」はいろいろの場所で嚴整な、飽くまで自己に誠實である偉大な極く強い驚くべき立派なものを自分に與へてくれてゐた。私はそのたびにその力強い言葉に心のうちから燃え上るやうな歡びを知ることが出來た。またその嚴整な形に於て恐れたこともあつた、私はどこまでも強いどこまでも立派であつた光りの眩しいこの「三太郎の日記」を、今かうして一集されて自分の手近に親しく提供されたことが限りなくよろこばれる。なにからなにまで心強いこの「三太郎の日記」を出來るだけ澤山の人達におすすめすることは私達の立場として殊に必要な事實であることと信じ切つてゐる。次號には同人の二三で一層努めてこの善書の紹介をしようと思つてゐる。（リツスラー）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

謹告

編輯に關する用件及寄贈圖書雜誌は左記宛に御願ひ申上候

東京市下谷區下根岸八十三番地
番紅花編輯所

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

■本誌定價　一冊金參拾錢（郵税一錢五厘）
■前金購讀料　（三册分）金九十錢　（六册分）一圓八十錢　（十二册分）金三圓六十錢、郵税は發行所に於て負擔す。
■廣告料　普通一頁　金拾五圓　特等　金貳拾圓

大正三年四月二十八日印刷納本
大正三年五月一日發行　（毎月一回一日發行）

禁轉載

編輯兼發行人　東京市日本橋區檜物町九番地　西村辰五郎
印刷人　東京市京橋區新榮町一丁目二十一番地　佐藤保太郎

發行所　東京市日本橋區檜物町　電話本局一八七一番　東雲堂書店　振替東京五六一四番

文祥堂印行

新刊

平塚明序
伊藤野枝譯

■婦人解放の眞意義は果して如何？■

婦人解放の悲劇

婦人を解放せよ、婦人よ自覺せよ、婦人よ、天賦の才能を發揮せよといふ叫びはただ漠然と聞へる。この時に當り歐米先進國の婦人はその所謂解放の第一歩を實現した。そしてその結果はどうであつたか。彼等は更にその第二歩の解放に入らざるべからざる窮境に陷入つた。本書、エンマ・ゴルドマン、エレン・ケイ二女史の論文四種を譯輯せるもの、最も健全にして理解ある兩性問題の解決である。既に我等に用なき因襲の羈絆を脫して女性本然の光輝ある生活に入らんとする勇氣ある女性、及び理解ある男性の一讀を切望す。

附錄

エルマ・ゴルドマン小傳
エレン・ケイ小傳

菊半裁二百七十頁頗美本
二女史肖像寫眞版挿入
定價金六十錢・送費六錢

■茲に健全なる兩性問題の解決あり■

發行所　東京市日本橋區檜物町九（振替貯金東京五六一四）　東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文學士 阿部次郎著 ―新刊發賣―

三太郎の日記

新形頗美本
紙數六百頁
定價金壹圓
郵税八錢

「三太郎の日記」は阿部君の內生が底力强く成長して行つた記錄である。阿部君は此記錄を造る時に、內に渦卷く者燃え上る者を銳く分拆することが出來た。此表現の能力と深い本質的な內生とは眞正の哲學の根本條件である。「三太郎の日記」を心讀する人は、そこに偉大なる哲人の力强い芽生が、――刻々として伸び行く偉大なる芽生が、閃光的にしてしかも形式の嚴整な、陰影濃やかにしてしかも線の太く强い、驚くべく立派な形に現はれてゐるのを見るだらう。三太郎は過酷に見ゆるほど自己に誠實である。三太郎の言說の力强いリズムは、三太郎が自ら知らうとはしないその偉大な運命から湧いて出る。彼と共に心の渾沌を切り開き、彼と共に苦しみ怒り歡ぶのは、やがて人性の深味への突入である。（著者の友人の一人）

■附錄■ 若きゴオホ・ゴオホの藝術

發行所 東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番） 東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

川路柳虹著

詩集 かなたの空

未來叢書第一編

新刊

『路傍の花』以後著者の歩み來りし足跡はこの美しき一巻をなせり。詩は常に著者にありて人生の歡びと信實とを語るものなり。ひとり青空に向ひて不斷の希求と愛とを歌へる詩人の聲は貧しき人の心にも良き響きを傳へうべし。切に机上に薦む。

四六版三百頁・黒地に金と白の表紙
總カット天金・空前の美術的製本
定價金八十錢・送費八錢

發行所 東京市日本橋區檜物町（振替東京五一六四番） 東雲堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

柳澤健著

詩集 果樹園

未來叢書第二編

近刊

音樂的情操を有する點に於て此著者の如きは方今の詩壇に稀なり。其詩は白日の中の噴水、柔かき玉となりてしたゝり彈くに似たり。生を愛すること情人の如き、其聲の何ぞ娓々として哀婉なるや。加ふるに著者の叡智ある資性は、其表はすところの生を最も智惠あるものにしたり。純粹に生の美を愛し且つ詩壇の乾燥に倦む者は、乞ふ來りて本書に就け。

著者裝幀・四六版 三百頁

定價八十錢・郵稅 六錢

發行所 東京市日本橋區檜物町九 (振替貯金東京五六一四) 東雲堂

著名の重版

國木田獨歩著

獨歩詩集

▲再版發行▼

予は詩人也と常に稱してゐた故獨歩氏のたゞ一冊の詩集である。その詩醇正素朴眞摯なる著者の心情が、讀む者の胸に犇々と迫る。氏の面目を窺ふに最もよきものである。

吉江孤雁氏序
三木露月氏跋
岡落葉氏裝釘
菊半截形總洋布
定價金七十錢
送費六錢

石川啄木著

啄木歌集

▲四版發行▼

氏の歌集は最もよく氏の一生を語るものである。ありあまるほどの大きな望みを抱いてゐて若くて病歿した力強き天才の嘆きと悲痛が一卷に滿ちあふれてゐる。

一握の砂
悲しき玩具　合冊
四六判美本著者筆蹟入
定價金八十錢
送費金八錢

發行所　東京市日本橋區檜物町（振替東京五六一四番）　東雲堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

近刊豫告

現代佛蘭西詩集

リラの花

與謝野寛譯
梅原良三郎畫

現代の佛蘭西詩人中、新進のロオメン、ワウケエル、ダウリヤツク、シマル、ボルセエ、トルバン、ワアド女史、ケネアン、トラポルト女史、バンヌロオ、マンダン、メリエ、ブロツシユ、テイボオル、ドレエム、アウグマアル、メルシエ、トツサン、ドロマア夫人、バサン、デスプラス、フレミエル、サントクロア、ドクトン、アラン、ビゼ、プツテイ、マルテイネ、ヹシエル、ラヹエ、デイギヤツク、ボルドリイ、サウケ等數十氏の近作を主とし、ヹルレエヌ、ボドレエル、マウパツサン、サマン等の故人、ヹルアラン、レニエ、ノアイユ公爵夫人等の現代名家、及び伊太利詩人ダンヌンチヨ、マリネツテイ諸家の詩篇を此集に收む。是等は譯者が概ね巴里ラタン區の珈琲店クロツスリイ・ド・リラの一隅の卓に凭りつゝ讀みたるものなれば、記念として「リラの花」と題したり。

發行所　東京市日本橋區檜物町
(振替東京五六一四番)
東雲堂

日本唯一の俳優通信學校

顧問

都新聞記者 伊原青々園氏
文學博士 上田敏氏
公衆劇團舞臺監督 松居松葉氏
文學士 小山内薫氏
文學博士醫學博士 森鷗外氏

演劇講義録

男女俳優志願者の獨學機關!!!
現代演劇研究者の羅針盤!!!

第一年第一號
五月五日發行

目下入會金全免

■四月より新學期を開始す。此際最も入學に便なり。
■修業年限僅かに一ヶ年。修業後は種々の特典あり。
■月謝一ヶ月金五拾錢。入會金五拾錢。
■講師は劇壇文壇專門大家數十名。
■講義は平易簡明にして何人にも解し得。
■科目は演劇術初歩より懇切丁寧に解説す。

規則書往復ハガキにて申込次第送呈す

東京市京橋際玉木商會內
演劇研究會事務所
（編輯事務所扱）

東京市日本橋區數寄屋町九番地
發行所 鈴木書店
（入會申込所）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

■新思潮■

五月號

五月一日發行

■藝術の目的（ベルグソン）　松岡讓

■エピキウルの園より（フランス）　豊島與志雄

■小間使ご若主人（シュニッツレル）　秦豊吉

■玉材吉彌の死（戯曲）　菊池寛

■全譯、社會主義論ョ（ワイルド）　近衞文麿

■從姉（小説）　井出説太郎

■老年（小説）　柳川隆之介

■舊寮某室事件（小説）　玉木美吉

■消息　同人

發行所　東京日本橋區本銀町三ノ二　振替口座東京一〇二五五番　啓成社

（定價廿五錢　郵税一錢　半ヶ年　一圓四十錢）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

毎月一回

音樂

第五巻第五號

一日發行

五月號要目

■音程の定め方……田邊尚雄
□新らしき音樂教育……中山充
■ベートーヴェン論……中山充
□細谷君に答ふ……田邊尚雄
■音樂教授法（九）……草川宣雄
□近代樂と其作家……太田黒元雄
■音樂に關する雜感……柳澤健
□觀るまゝ聽くまゝ……大田黒元雄
■良い女流歌手となるには……遠山霞
□音樂通論……乙骨三郎
■ボストンより……福島琢郎

口繪
樂譜 祈願の歌……シューバート作曲 吉丸一昌作歌
口繪 ヰースバーデン市ノイエス・クルハウスの大奏樂堂
■スクリアビン
東京音樂學校卒業生

□秘密の花（詩）……坂本潮郎
■限りなき淋しさに（詩）……津端修
□春興二章（詩）……葛原玆
■葉のうた（詩）……望月れい
□眞面目な顏（歌）……早資篤宜
■まんごりん（詩）……内田月城
□春宵哀話（戲曲）……春木俊夫
■海内樂壇 海外樂壇……
□作曲法入門……
■歌劇物語『ラクメ』……中山充

■發行所 東京音樂學校學友會
振替口座 東京二〇六二番
■發賣所 神田裏神保町 東京堂

■會友募集
半ヶ年 會費、壹圓参拾錢以上前納者は會友となり本會所催の演奏會に參聽し得べし
■會友は東京音樂學校所催の演奏會にも土曜日に於て入場の便宜を得べし
■學友會土曜演奏會及春季大演奏會は五月下旬若くは六月に入つて開催すべし

■定價 一部 二十五錢
郵稅 一錢五厘
半ヶ年前金稅共 一圓三十錢
一ヶ年前金稅共 二圓五十錢

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

定價二十五錢

青鞜

郵税一錢五厘

■面目一新せる五月號■

男女戀愛の差別　エレン・ケイ
S先生に　野枝
西川文子氏の「婦人解放論」を評す　らいてう　野枝
ソニア・コヴアレフスキイの自傳　野上彌生譯
得たるいのち　西崎花世
糸のもつれ　小林哥津
お前の日記　伊達虫
附錄　動搖に現はれたる野枝子の性的特徴　小倉清三郎
イワノフ（チエホフ）　瀬沼夏葉譯
卜者の言葉　加藤みどり
反古から　原田琴
おもつてゐること　岩野清
短歌　葭・百合・琴
此頃の感想　らいてう・野枝・みどり
讀んだもの、批評　田村俊　野枝・らいてう
編輯室より　らいてう・野枝

■編輯者　らいてう・野枝■

發賣所　東京市神田區南神保町一六　（振替東京一九三四四番）　尚文堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

久津見蕨村先生新著

ニイチヱ

四六判美本
定價九十錢
郵稅八錢

最も早くニイチヱを日本に紹介したる人は久津見先生なり最も深くニイチヱを研究したる人は久津見先生なりニイチヱを祖述してその著書の發賣を禁止せられたるものも亦實に久津見先生なりこす蓋し邦人のニイチヱを解するもの先生の如きは未だこれあらざるべし本書は先生がニイチヱに對する全理會を傾倒して極めて明快にニイチヱの全豹を描出したる名著にしてニイチヱの性格、ニイチヱの事業、ニイチヱの思想、ニイチヱの哲學、ニイチヱの世界觀、ニイチヱの人生觀ニイチヱの理想の各章、爛熟の想を行るに奇峭の文を以てし人をして世界の哲聖ニイチヱの前に立ち親しくその說を諦聽するの感を起さしめずむば止まざらんこす

久津見蕨村先生著
眞人僞人
定價一圓
郵稅八錢

久津見蕨村先生著
現代八面鋒
定價八十錢
郵稅八錢

東京小石川原町 振替東京一五六八六 丙午出版社

東京小石川原町 振替東京一三五三六 鷄聲堂

花の心

第十八卷　五月號　第五號

仙覺律師に就ての發見　高楠順次郎
和歌と近古小說　芳賀矢一
方丈記の異本　花散里
輓歌十二章　佐々木信綱
暗の精（ベインの印度古詩）　松村みね子
何がしの尼君　樺山常子
母　藁谷みか子
紫天鵞絨　柳川隆之介
新百人一首新釋　志田義秀
春となれば（詩）　秋元蘆風
西片町より　佐々木雪子
殘雪　川田順
潮の岬　石傳千亦

定價一部金二十錢・半年前金一圓・一年前金二圓・郵稅共

東京日本橋區　竹柏會出版部　本石町一ノ一

電話本局五一七〇番　振替東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

我等

毎月一回
一日發行

一部定價
二十五錢

五月號

カルル・ハーゲマン……森林太郎
心象破片……山本鼎
馭者ヘンシェル……秦豐吉
幸福の道……松本苦味
海のあなたより……無名氏
詩……高村光太郎
脱獄者……水野盈太郎
小說……伊達虫子
小說……木下杢太郎
四月の小說……江口渙
市井の遊民……佐藤春夫

東京市本郷區駒込林町一九〇
我等發行所

東京市神田區南神保町一六
岩波書店

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

白樺

第五巻第五號
五月一日發行

定價卅錢 送料一錢五厘 半ヶ年前金一圓七十錢・一ヶ年三圓卅錢

目次

▲雜感……武者小路實篤
▲盲目の川……長與善郎
▲肯定の二詩人……柳宗悅
▲感想……小泉鐵
▲回想のセザンヌ……有島生馬
▲和歌……木下利玄
▲六號感想
▲編輯室にて
▲新刊紹介

挿畫

▲自畫像……アンリ・ルソー
▲婦人の肖像……同
▲堡砦……同
▲マラコフ……同
▲獨立祭の……同
▲婚禮……同

發行所 東京麹町區平河町五ノ卅六 振替口座東京二〇九一四番 洛陽堂 電話番町四二五八

反響 五月號

定價十八錢
郵税二錢

■所有すると云ふこと(評論)……小宮豐隆
■飜譯論(評論)……安部能成
■余が眼に映じたる「人生と表現社」一派(評論)……伊藤證信
■教界新潮(評論)……安藤現慶
■嘲笑のあたひ(感想)……生田花世
■未定(評論)……馬場孤蝶
■清談派(評論)……生田長江
■「藝術の起原」の誤譯を論ず(評論)……安成貞雄
■中村吉藏氏の「フラント」(評論)……生田春月
■「生ひ立ちの記」を讀みて(評論)……阿部次郎
■譯本「日の出前」(評論)……森田草平
■漱石氏の「社會と自分」(評論)……德田秋江
■四月の短歌……萬造寺齋
■四月の雜誌……生田長江
■ニイチエの悲劇論(飜譯)……牛田艮平
■一刹那(小說)……森田草平
■未定(小說)……野上臼川
■未定(小說)……大平野虹
■おきみ(小說)……素木しづ
■未定(短歌)……萬造木齋
■未定(詩)……喜四郎
■未定(飜譯)……後藤末雄
■永久の良人(小說飜譯)……中村古峽
■漱石山房座談(二)……草平記
■新刊紹介、消息……草平、長江

森田草平氏著
縮刷

煤煙

四卷合本

全六號活字組
四百十餘頁
定價九拾錢
郵便八錢

初版再版
即日盡き
參版發行

發賣所
東京神田佐久間町四ノ廿三
(振替東京一二九五三
電話下谷三四一九)
植竹書院

生活と藝術

9

■五月號內容■

■街上不平……土岐哀果
■新しき劇竟に新しき劇にあらず……伊庭孝
■雲煙過眼……大熊信行
■キユーピストの詩……仲田勝之助
■狂氣……ミルボオ
■平民の歌……鍋井克之
■籐椅子の上にて……大杉榮
■主簿補の日記より……チエホフ
■身邊近事……土岐哀果
■都市の田園……MEMO

■定價一冊金十八錢
送費金一錢■

發行所　東京市日本橋區檜物町九（振替貯金東京五六一四）　東雲堂

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

大正三年二月二十七日第三種郵便物認可
大正三年五月一日發行（毎月一回一日發行）
番紅花第一卷第三號